

機 動 戦 士 ガ ン ダ ム

MSV

MOBILE SUIT VARIATION



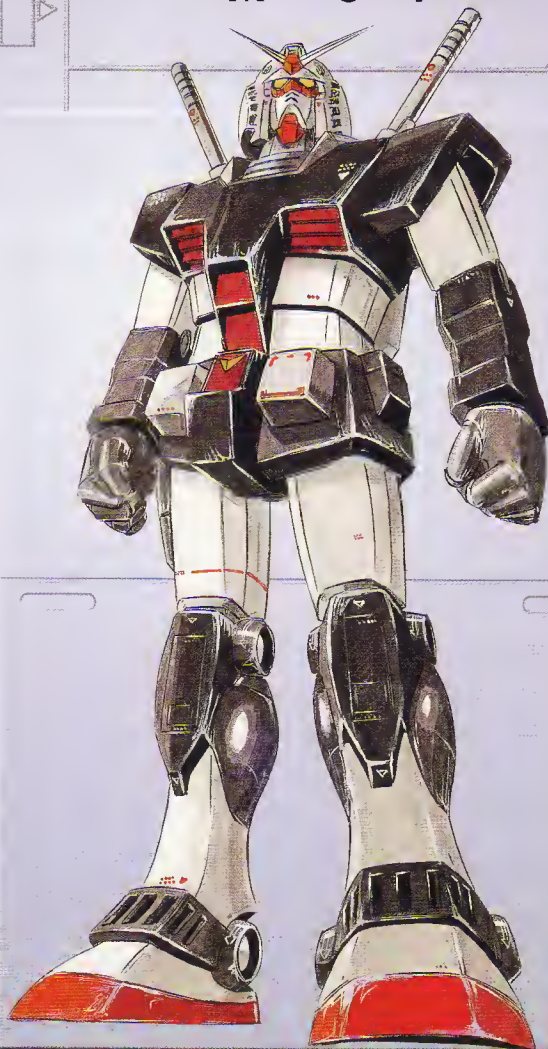
COLLECTION FILE [宇宙編]



MOBILE SUIT VARIATION

001

CAUTION



PROTO TYPE GUNDAM

[RX-78-1]

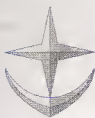


EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

RX-78-1

プロトタイプガンダム

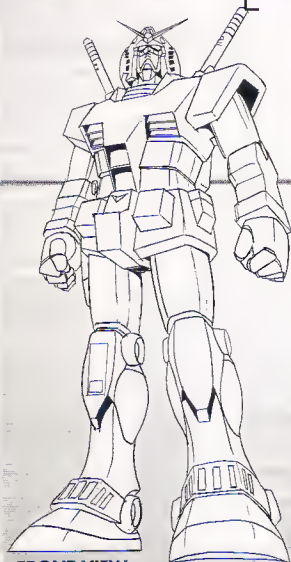
001



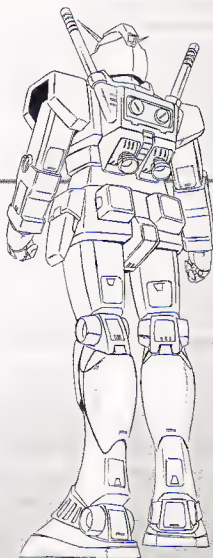
地球連邦

宇宙軍

全高：18.0m
 本体重量：43.4t
 装甲素材：ルナチタニウム



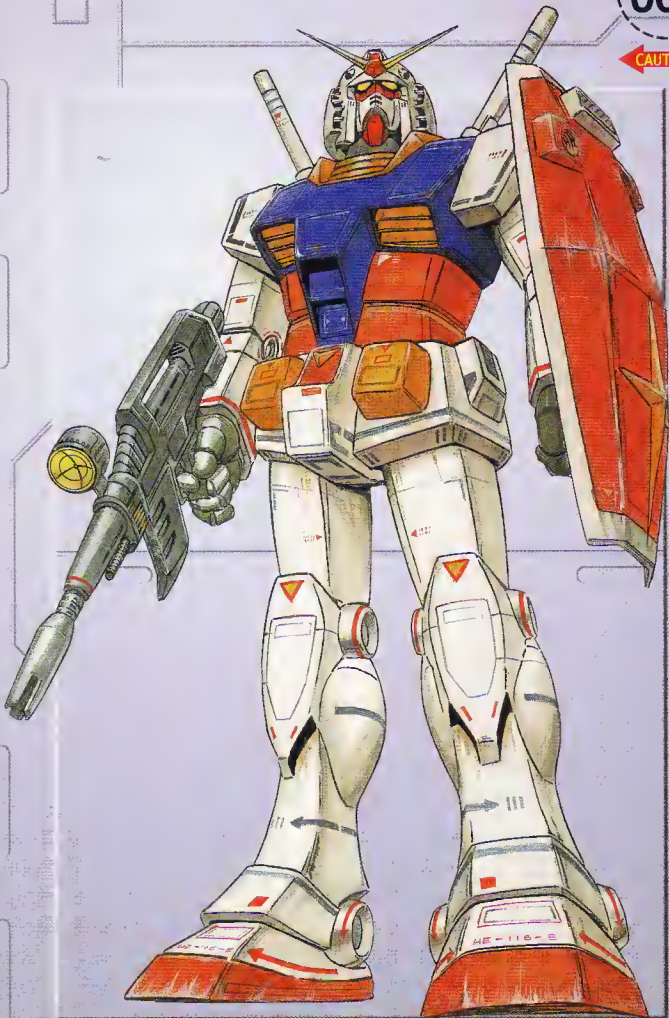
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は量産型MSを開発するに先立って、それに関する技術の確立のために製作されたガンダムタイプの1号機である。この機体はロールアウト後もいく度か改修されており、そのたびに性能諸元が変更されたため、正確なスペックデータは存在しないといわれている。しかし当時開発に参加した技術者たちの証言によると、装甲材質、搭載コンピュータ、推進器などあらゆる点で、改設計された2号機とほとんど差はないのだという。この機体は戦後、プロトタイプガンダムの名で広く知られるようになったが、機体に関する詳細ははまだ軍事機密に指定されており、その全容は依然として不明である。



GUNDAM

[RX-78-2]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

RX-78-2

MOBILE SUIT VARIATION

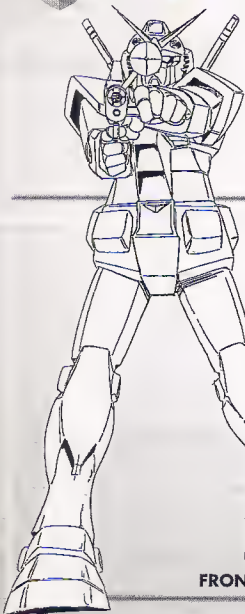
ガンダム

002

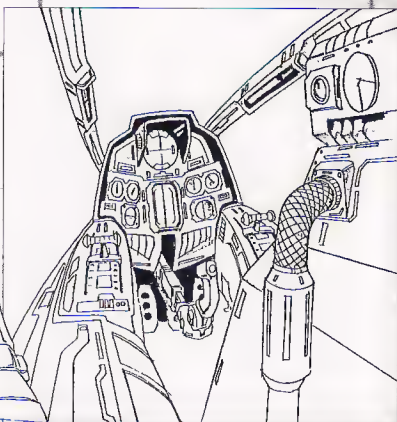


地球連邦
宇宙軍

全高：18.0m
 本体重量：43.4t
 ジェネレータ出力：1380kw
 主スラスター推力：55500kg
 装甲素材：ルナチタニウム
 パイロット：アムロ・レイ



FRONT VIEW



COCKPIT VIEW

機体解説

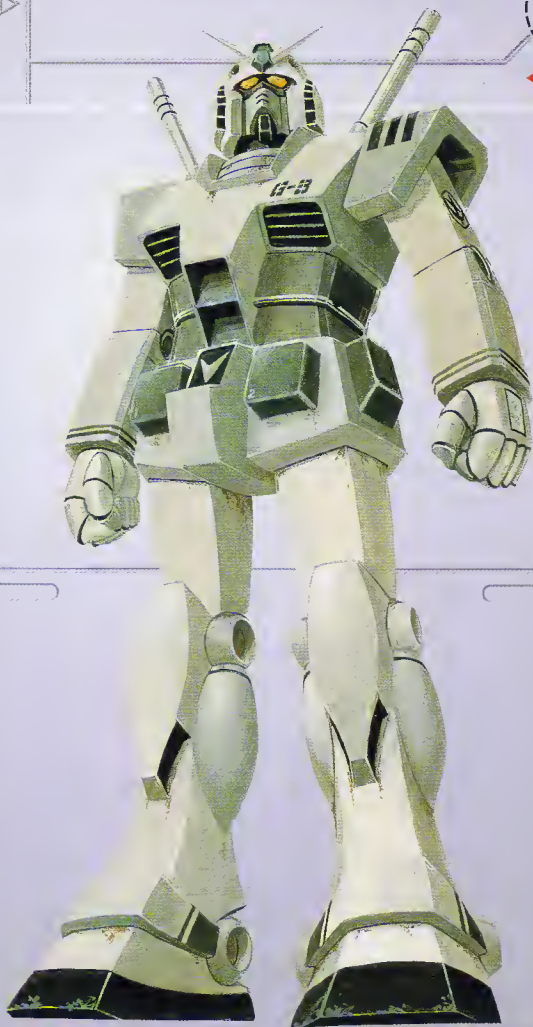
数多くのMSやMAを撃墜し、大戦におけるトップクラスの撃墜王の一人と評されているアムロ・レイ宇宙軍少尉（終戦時）の愛機が、このガンダム2号機である。RX-78シリーズは対MS戦闘を考慮し設計された史上初の機体であり、そのためあらゆる面でザクⅡ以上の性能を与えられた。戦艦の主砲なみの破壊力を持った小型携行式ビームライフルと、すべての物を切り裂くビームサーベル、そしてザクⅡをはるかに上回る運動性。ハード面だけでなく、ソフト面においてもガンダムはザクⅡ以上の性能を示した。しかし本機が最強でありえた最大の要因は、NT・アムロ少尉がパイロットだったからというのが、現在の定説である。

初出：『機動戦士ガンダム』

MOBILE SUIT VARIATION

003

CAUTION



G-3 GUNDAM

[RX-78-3]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

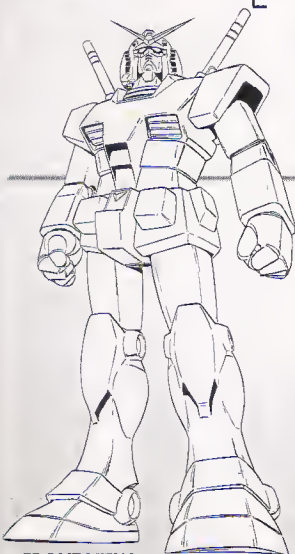
G-3 ガンダム

003

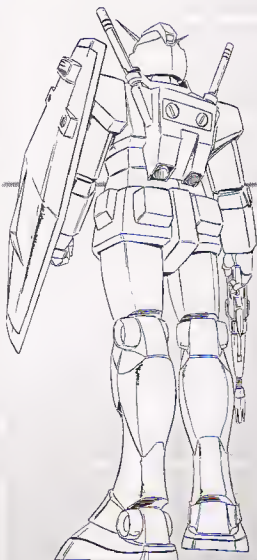


き せいうれんぽう
地球連邦
う ちゅうぐん
宇宙軍

ぜんこう
全高：18.0m
りんたいしよんりやう
本体重量：47.2t
さうぼうそくざい
装甲素材：ルナチタニウム



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

現在「ガンダム」のパーソナルネームで親しまれている、RX-78シリーズは増加試作機も含めて8機製作された。そのうちで実戦に参加したのは、2号機とNT専用機に改修された4号機だけである。しかし戦後間もなく、星1号作戦でアムロ少尉の乗機だったのは2号機ではなく、駆動部にマグネット・コーティングを施し運動性能を高めた3号機だったとする説が雑誌に掲載され話題になった。それによれば、本機は「G-3」という無線コードネームで呼ばれていたという。さらにG-3は運動性だけでなく、熱核融合炉用のレーザー加速器も新型に換装し、2号機以上の性能を実現したというが、真偽の程は定かではない。

MOBILE SUIT VARIATION

004

CAUTION



GUNDAM FULL-ARMOR TYPE

FA-78-1



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

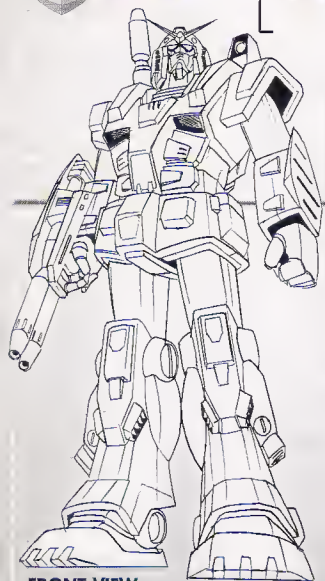
フルアーマーガンダム

004

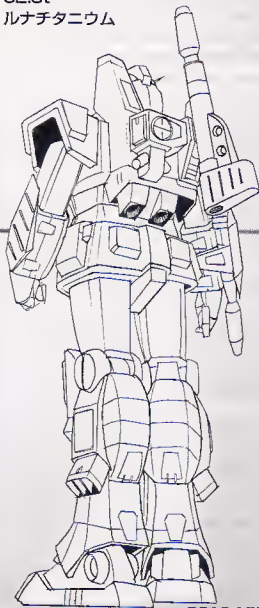


ちせうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

ぜんこう
全高：18.0m
もたいじゅうりやう
本体重量：62.5t
さうばうそくそ
装甲素材：ルナチタニウム



FRONT VIEW



REAR VIEW

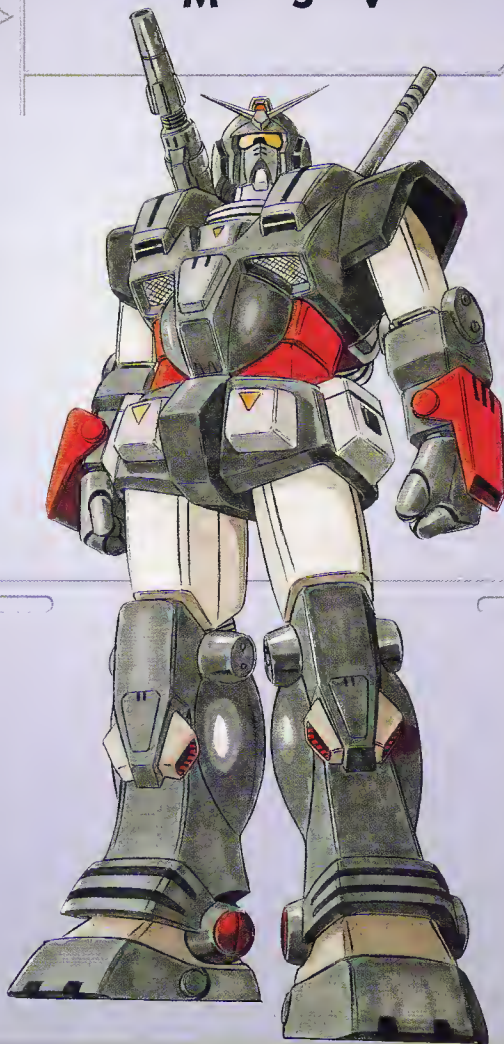
機体解説

RX-78-2の活躍は、結果としてNTの存在が表面化するという大きなイレギュラーな事象を発生させた。そしてこの事実は、ジオンと連邦双方にNT用MSの開発を行わせることになる。まず最初に着手したのはジオンだったが、連邦も秋頃には複数の開発計画を実行に移す決定を下した。その一つがFSWSというコードを与えられたNT用重武装MS計画であり、そこで提案されたのが、RX-78のフルアーマー化である。本案はRX-78の機体に増加装甲と武装を装着するというものだったが、それは最大の武器である運動性の低下を引き起こすと予想された。こうして本計画案は見直しを迫られることになったのである。

MOBILE SUIT VARIATION

005

CAUTION



HEAVY GUNDAM

FA-78-2



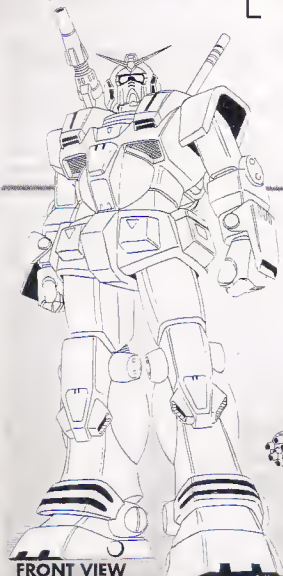
EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ヘビーガンダム

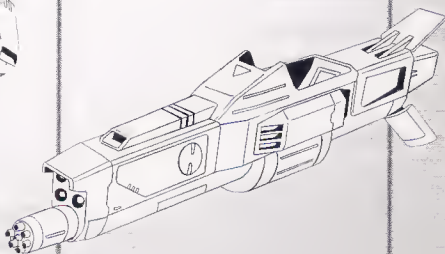
005

ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

ぜんこう
全高: 18.0m
ほんたいじゅうりやう
本体重量: 52.5t
さうばうそざい
装甲素材: ルナチタニウム



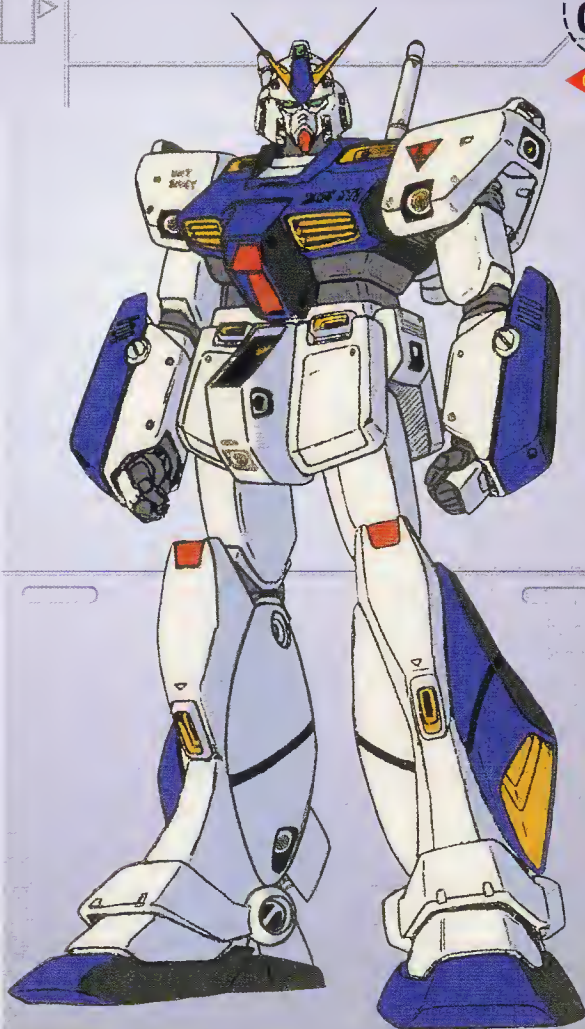
FRONT VIEW



WEAPON

機体解説

ヘビーガンダムは、頓挫したガンダムのフルアーマー化案にかわって提案された設計案である。その最大の特徴は、以前の増加装甲案と違い、重装甲重武装型のガンダムを新たに開発するという点だった。この設計案では低下が予想される運動性の問題を、機体を新規に設計し直しさらにハービック社で開発中の新型推進器を採用することで解決しようとしたのである。だがFSWS計画は推進器の開発の遅れと、アムロ少尉の駆るRX-78-2が通常装備に拘らず、敵重MS・MAを次々と撃破していったことによりその必要性が疑問視され、0079年11月の末には中止の決定が下されてしまったのであった。



ALEX

**GUNDAM
RX-78 NT-1**



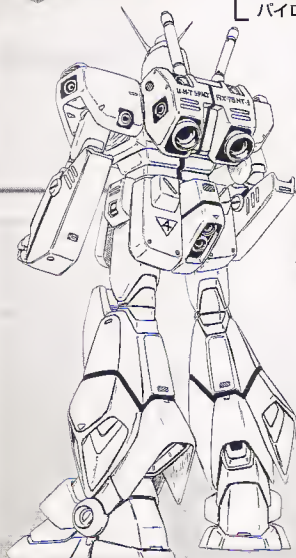
**EARTH FEDERATION
SPACE FORCE**

NT専用ガンダム試作第1号機 “アレックス” 006

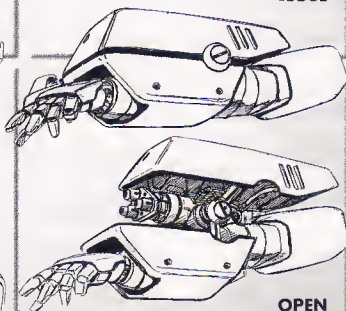


地球連邦
宇宙軍

全高：18.0m
 本体重量：40.0t
 ジェネレータ出力：1420kw
 主スラスター推力：132000kg
 装甲素材：ルナチタニウム
 パイロット：クリスティーナ・マッケンジー



REAR VIEW



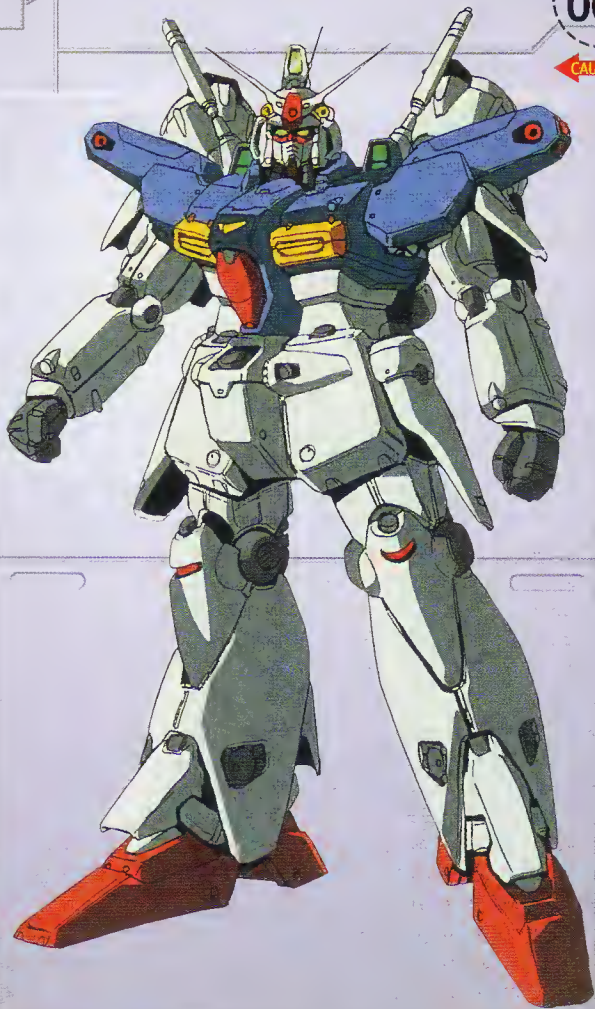
CLOSE

OPEN

MACHINE CANNON

機体解説

大戦後期、アムロ少尉によるガンダムの運用データを検討したV作戦部隊は、やがて機体が少尉の操縦に追従出来なくなるとRX計画本部に上申した。報告を検討した本部は、参謀本部との連絡会議の席上で少尉がNTである可能性を述べ、専用機を能力研究のために用意すべきだという意見を開陳した。第13独立戦隊の戦果に注目していた軍中央はこれを容れ、即刻NT専用機を開発する改修決定を下す。こうして生まれたのがアレックスである。V作戦部隊を再編成したG-4部隊によって開発された本機は、ジオンの機体と異なりサイコミュは搭載していないが、NTパイロットに対する機体の追従性は、十分にNT専用機の名に恥じないものだった。



ZEPHYRANTHES Fullburner

[RX-78GP01Fb]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

RX-78GP01Fb

MOBILE SUIT VARIATION

ガンダム
試作1号機

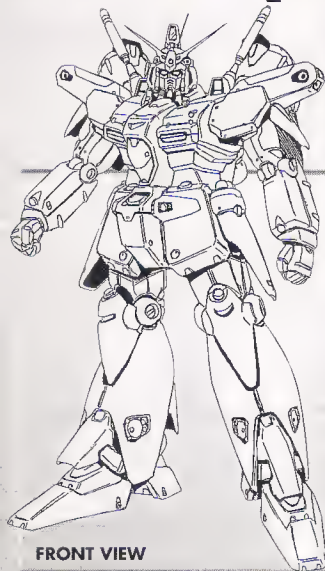
ゼフィランサス・フルバーニアン

007

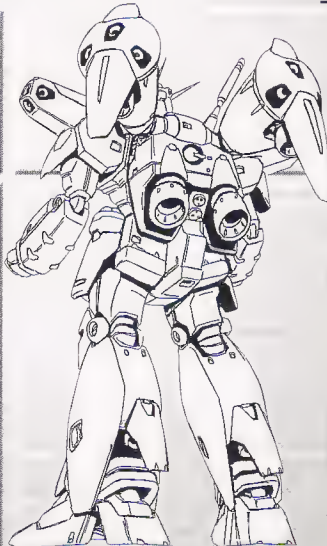


ちやううれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.5m
本体重量：43.2t
ジェネレータ出力：2045kw
主スラスター推力：180000kg
装甲素材：ルナチタニウム
パイロット：コウ・ウラキ



FRONT VIEW

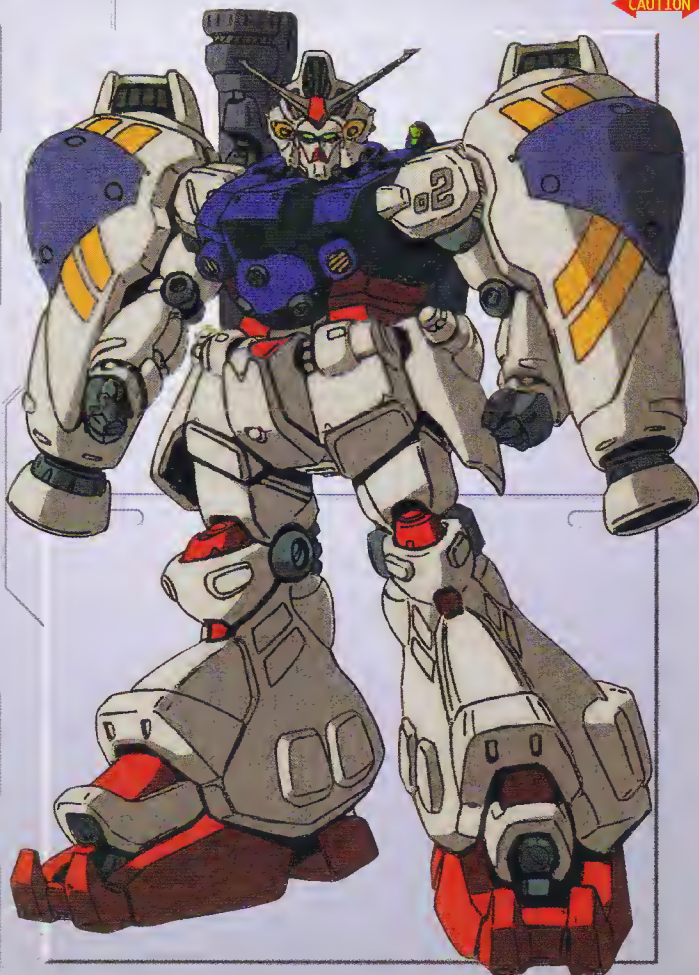


REAR VIEW

機体解説

本機は宇宙世紀0083年に、次世代MS開発のために試作された技術実証機の1号機の空間戦装備機である。その機能は空間戦闘に特化しており、第1世代MSでありながらも運動性に関しては、第2世代の名機リック・ディアスに勝るとも劣らないという評価を得ている。最近になって軍部はGPシリーズの存在を認めたが、これらの情報公開によってガンダム開発計画で生み出された可変式推進器など多くの技術が、リック・ディアスなど第2世代機の礎になったことが初めて明らかにされた。だが機体が投入された戦闘の詳細な情報は、いまだ軍事機密に指定されており、さらなる情報の公開と研究が待たれている。

初出：『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』



PHYSALIS

[RX-78GP02A]



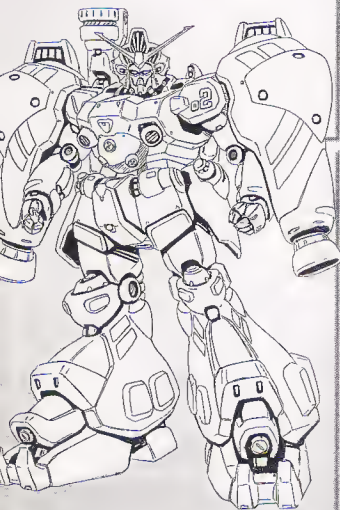
DELAZ FLEET

ガンダム試作2号機 サイサリス

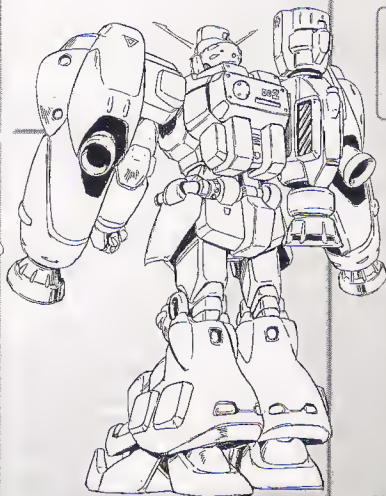
008

デラズ・
フリード

全高：18.5m
 本体重量：54.5t
 ジェネレータ出力：1860kw
 主スラスター推力：128000kg
 装甲素材：ルナチタニウム
 パイロット：アナベル・ガトー



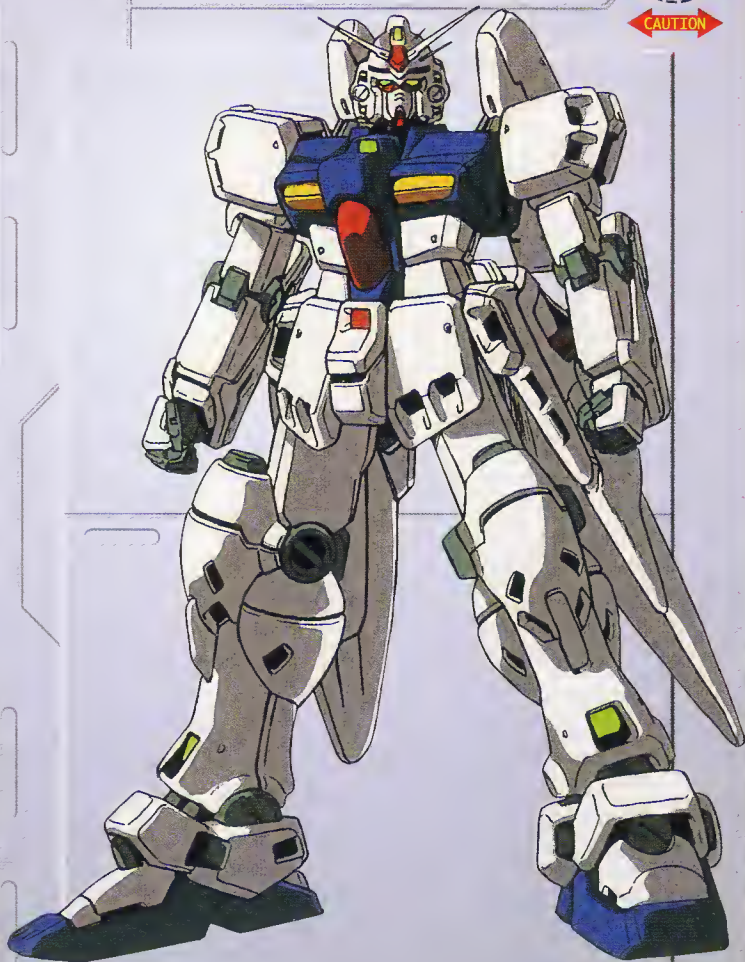
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

GP02Aはガンダム開発計画によって建造された、戦術核攻撃機である。GP01が戦術単位の機体として特化したのに対し、本機は作戦単位としての能力を有することを求められた。こうしてGP02Aは、単機で敵勢力下に侵入し核によって戦略的打撃を与える能力を持つ唯一のMSとして誕生したのである。しかし一つの任務に対応すべく特化した設計は、汎用性と普遍性を機体から奪い去る結果をもたらしてしまった。結局、本機が他の機体よりも優れていたのは、核爆発の衝撃に耐え得る装甲形状だけだったのである。こうして、見るべきところの少ないGP02Aは歴史の表舞台から消え去ってしまう運命を辿るのであった。



STAMEN

[RX-78GP03S]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

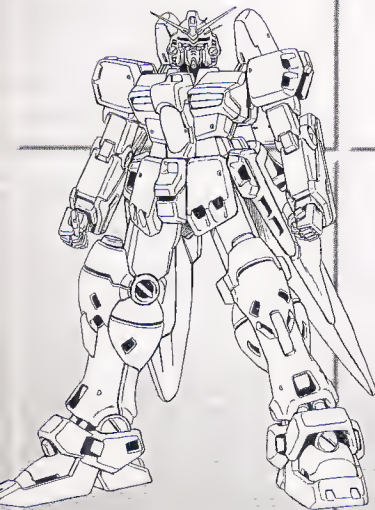
ガンダム試作3号機 **ステイメン**

009

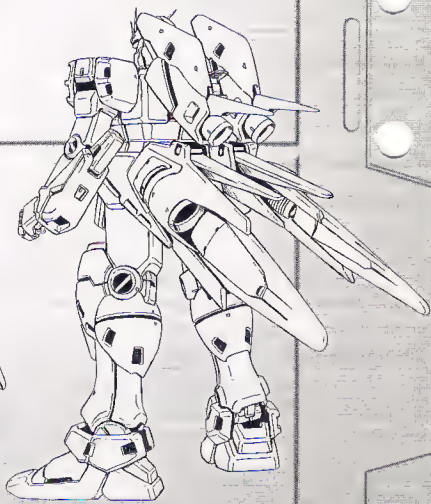


ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m
本体重量：41.6t
ジェネレータ出力：2000kw
主スラスター推力：164000kg
装甲素材：ルナチタニウム
パイロット：コウ・ウラキ



FRONT VIEW



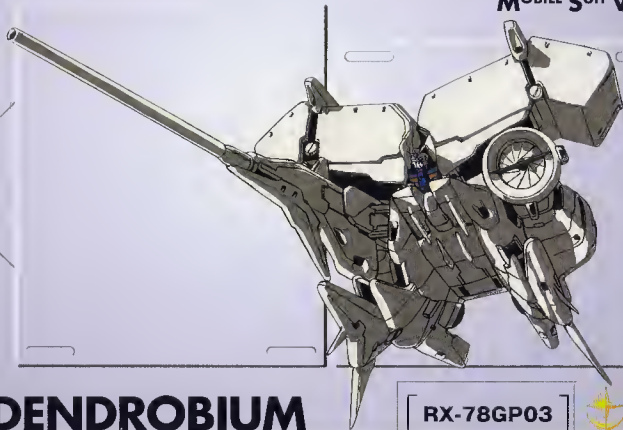
REAR VIEW

機体解説

GP03Sステイメンは、GP03デンドロビウムのコアユニットとして開発されたGPシリーズ中、最も特殊な機体である。機体各部にはこの時代の機体としては異常なほど多数の姿勢制御用ロケットを装備しており、ビームサーベルなどの外装式装備もコンフォーマル方式と呼ばれる、機体内部に収納する方法が採用されていた。これ以外に、コンピュータシステム関連についても当時の水準を大きく上回る能力を有しており、その設計の先見性には驚くべきものがある。実際、本機が実戦に参加した際に多数の敵機を苦もなく撃墜したという、デラーズ紛争に参加した連邦軍パイロットたちの証言も記録されている。

MOBILE SUIT VARIATION

010



DENDROBIUM

[RX-78GP03]



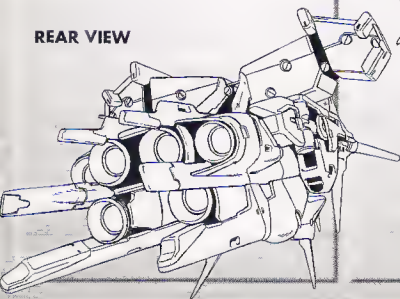
EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ガンダム試作3号機 **デンドロビウム** 010

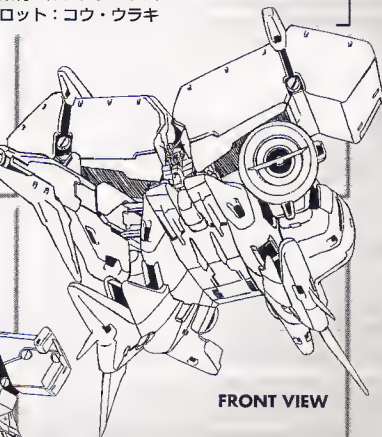
地球連邦
宇宙軍

全長：140.0m（砲含まず／73.0m）
 本体重量：226.4t（全備重量／453.1t）
 ジェネレータ出力：38900kw
 主スラスター推力：2265000kg
 装甲素材：ルナチタニウム
 パイロット：コウ・ウラキ

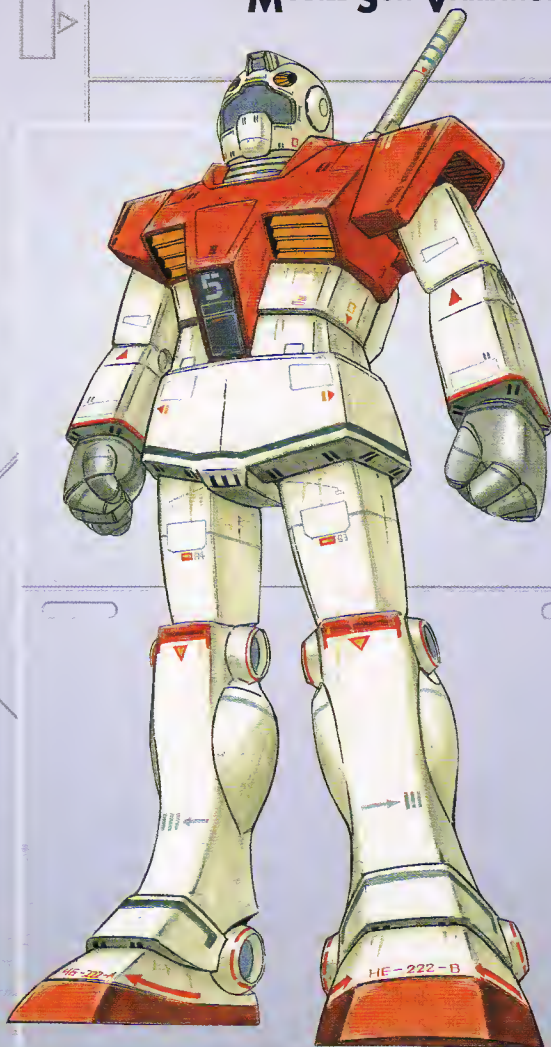
REAR VIEW



FRONT VIEW

**機体解説**

GP03Sステイメンとアームドベース・オーキスが合体したものが、GP03デンドロビウムである。本機は書類分類上はMSとして登録されているが、その実態は一種の変型MAだといえることができる。事実、後のZ計画に大きな影響を与えたと噂されている。本機は拠点防衛用として開発が行われたが、この場合の「防衛」とは、積極的に敵を攻撃し拠点を守る攻撃防御を意味していた。つまり大推力によって加速を行い敵艦隊に突入、大火力によって撃破することが主任務だったのである。これを実現するため本機は、MSの水準を遥かに上回る武装と推力を与えられた怪物的マシンとして誕生したのであった。



GM

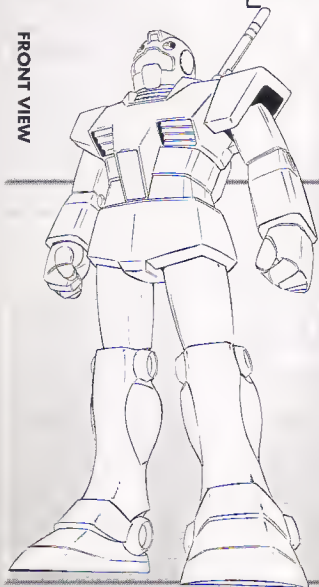
RGM-79



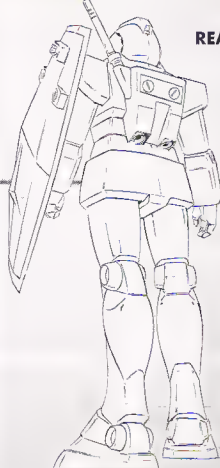
ちやうほう
地球連邦
うきゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m 本体重量：41.2t
ジェネレータ出力：1250kw
主スラスタ推力：55500kg
装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）
パイロット：シン・アスカ

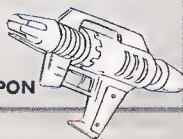
FRONT VIEW



REAR VIEW

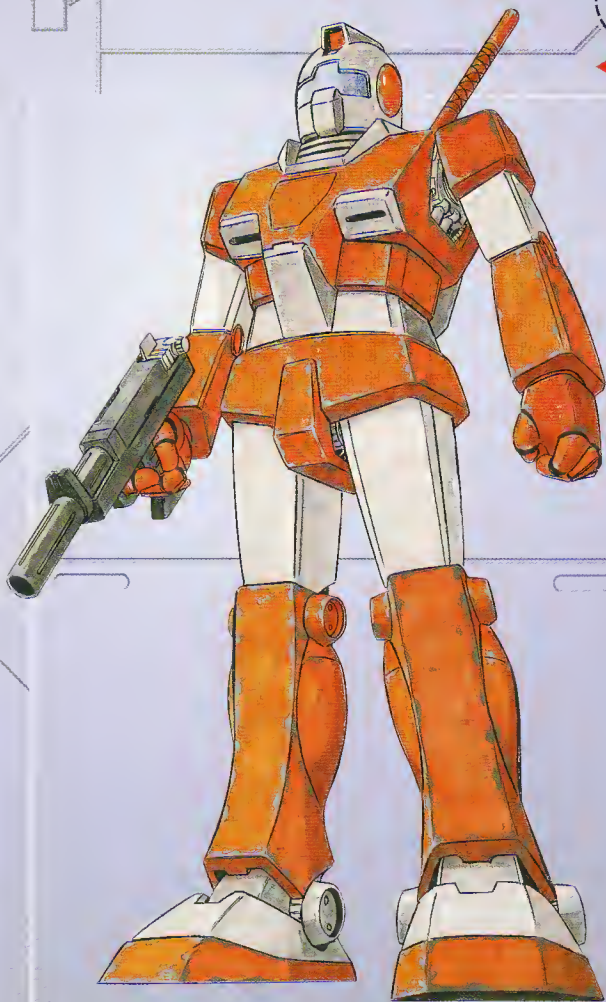


WEAPON



機体解説

RGM-79はRX計画で得られた技術によって開発された、連邦軍初の量産MSである。一般的に本機はRX-78の単なる簡易生産機と評されることが多いが、機体設計が簡素だからこそ、ジムは終戦までの短期間に様々なタイプを生み出すことができたのだ。さらにこの機体は稼働率が非常に高く、ザクⅡの6割に対して、常に8割を維持していたという。この整備性の良さが、国力の低いジオン軍に対して大きなアドバンテージになっていたのである。さらに特筆すべきなのは、ジム部隊が集団戦闘に徹していたという事実だろう。単独行動が多いジオンMS部隊はジム部隊の連携によって追い詰められ、やがて壊滅していったのである。



LIGHT-ARMOR

[RGM-79L
GM]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ジム・ライトアーマー

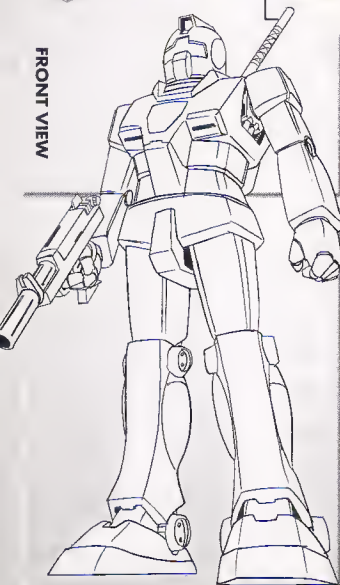
012



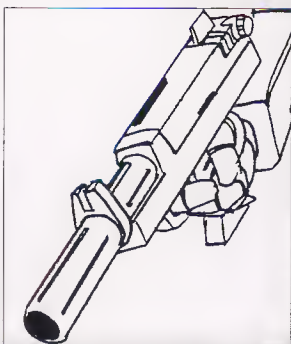
ちゅうごうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

ゼレン号
全高：17.8m
本体重量：36.8t
ジェネレータ出力：1250kw
装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）

FRONT VIEW



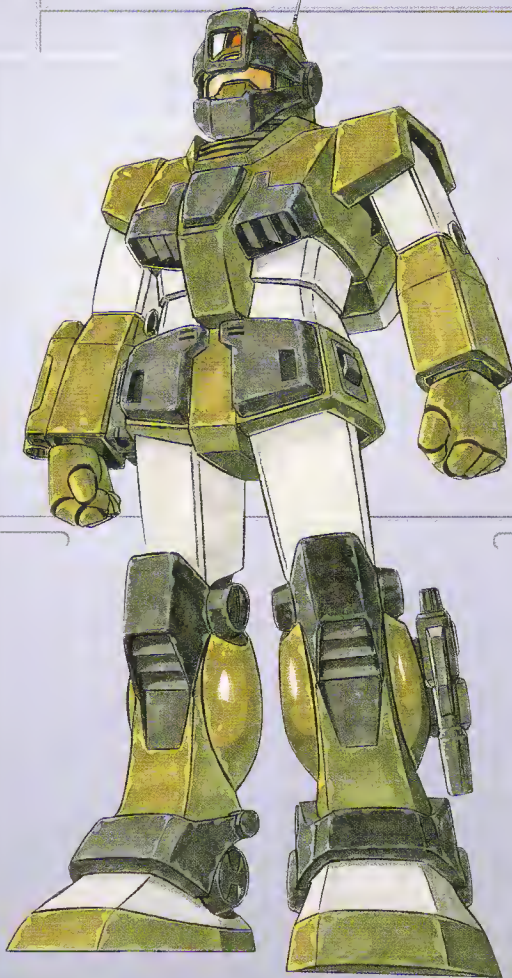
WASTE HEAT SYSTEM



WEAPON

機体解説

L型はライトアーマーと呼ばれ、大戦末期に熟練パイロット向けに少数生産された機体である。特徴としては、高速一撃離脱戦を行うため徹底的に装甲の軽量化が図られ、加速性能の強化が行われているという点が挙げられる。こうした加速を第一とした機体特性は、宇宙戦闘機から機種転換したパイロットたちにも違和感なく受け入れられ、愛用される要因の一つとなった。主武装はRX-78-2と同じエネルギーCAP式ビームガン、近接戦用武装としてグリップに特殊ホールド加工を施したビームサーベルを持つ。本機は主に、攻撃機襲来に備え艦隊周辺に展開しているジオン直掩MSの撃破に投入されたと記録されている。



SNIPER-CUSTOM

[RGM-79SC
GM]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

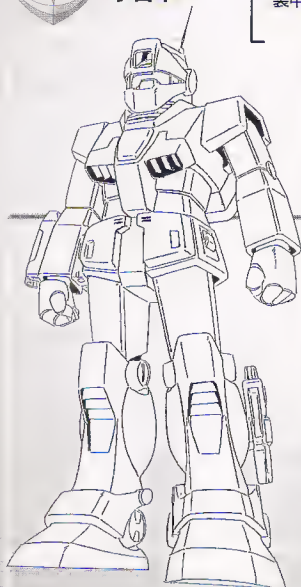
ジム・スナイパーカスタム

013

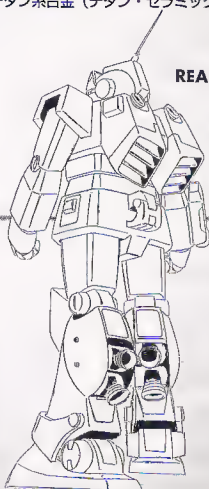


ちやううれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

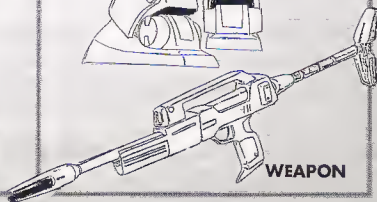
ぜんこう
全高：17.7m
ほんたいじりょう
本体重量：44.2t
さうぱんそくざい
装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）



FRONT VIEW



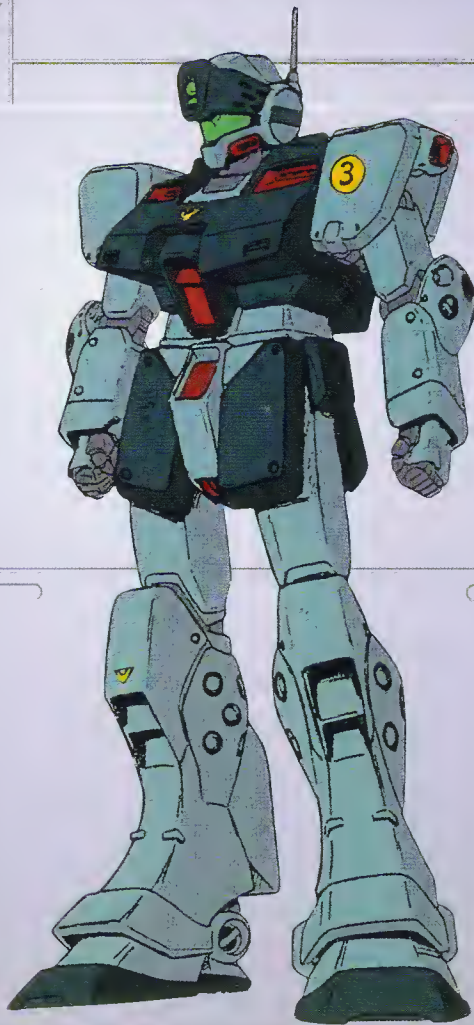
REAR VIEW



WEAPON

機体解説

L型と同様に、練度の高いパイロット向けとして生産されたカスタム機。各部に増加装甲が追加されているが、大推力の推進器をいくつも装備することによって機動性の低下を防いでいる。武装は精密射撃専用の大出力偏向コイル内蔵のビームライフルBR-M79L-3と、サイドアームズとして短砲身のビームガン、そして右腕の内蔵式ビームサーベルの三つである。本機は主に空間護衛艦隊に配備され、危険宙域を航行する輸送船団の護衛などを行った。少数が特務部隊に回され、各サイドに駐留するジオン軍への破壊工作や奇襲作戦などに使用されたというが、その作戦内容については、まったく明らかにされていない。



SNIPER-CUSTOM II

[RGM-79SP
GM]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

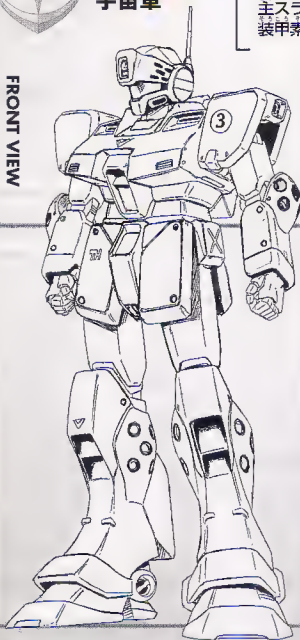
ジム・スナイパーカスタムⅡ 014



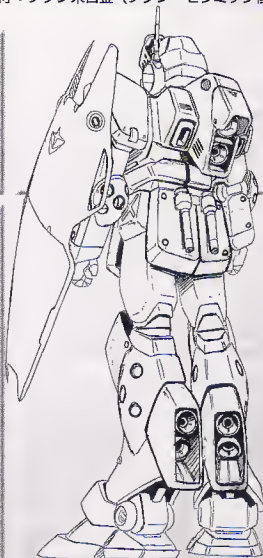
ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m
本体重量：45.0t
ジェネレータ出力：1390kw
主スラスター推力：102000kg
装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）

FRONT VIEW

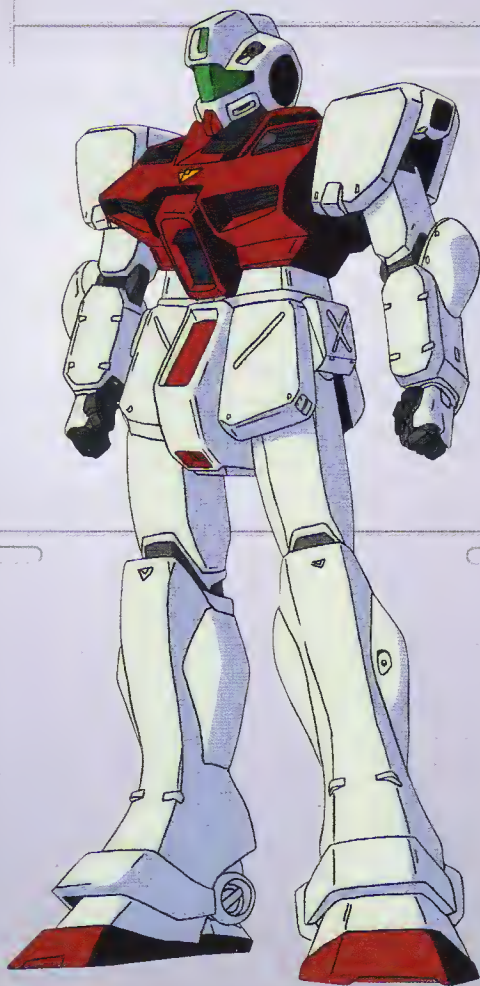


REAR VIEW



機体解説

SC型の良好な成績に喜んだ宇宙軍作戦本部は、その改設計機をジオン本土侵攻作戦に投入することを強く望むようになった。しかし開発局に与えられた時間は非常に短く、設計から実機の完成までわずか1か月という、常識外れなものだったのである。この無茶な要求をクリアするため技術陣が出した答えは、別計画で試作段階まで進んでいたGS型のフレームを流用し、設計時間を短縮するという手段だった。こうしてSP型は、ソロモン攻略戦までに3個小隊分の試作機が完成し、G4部隊麾下のスカーレット隊に配備されることになったのである。だがサイド6での戦闘により、全機が撃墜されてしまった。



COMMAND-SPACE

[RGM-79GS
GM]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ジム・コマンドスペース

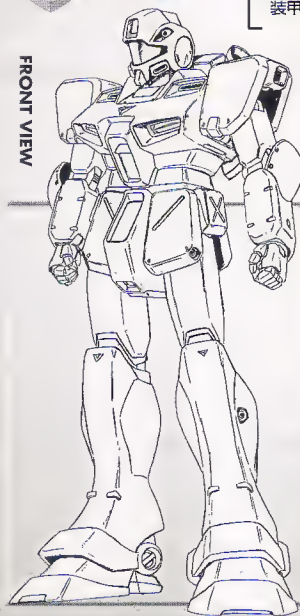
015



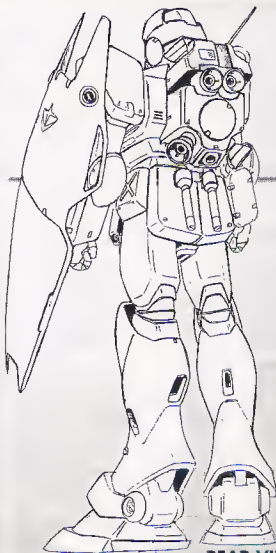
ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m
 本体重量：44.6t
 ジェネレータ出力：1390kw
 主スラスター推力：74000kg
 装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）

FRONT VIEW

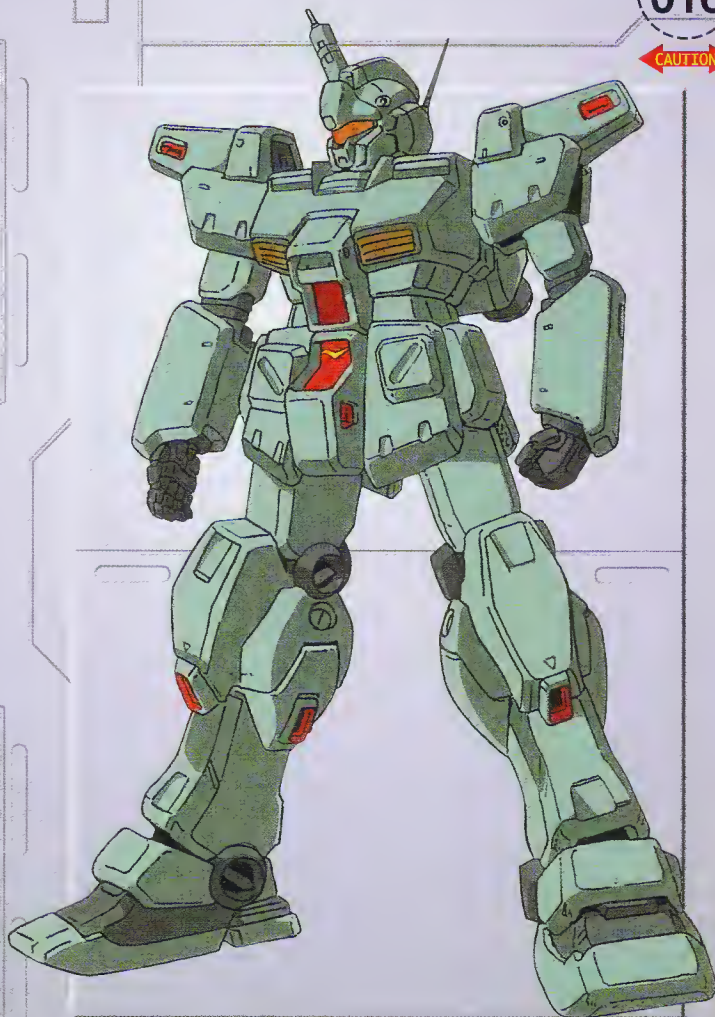


REAR VIEW



機体解説

コロニー内における、治安任務向けに開発されたG型に若干の改修を施した空間戦仕様機。機体自体には特別な改修はされていないが、ランドセルは独自のものに換装されており、総推力もG型比10%アップをマークする。しかし高出力の推進器を、無理にコンパクトなランドセルに収めようとしたため、余裕のない切り詰めた設計になってしまった。推進剤の秒当たりの消費量が増加したため、その搭載量はいくらか増やされている。しかしその反面、機体内部には空間的余裕が失われてしまった。これが本機に後継機がない原因だといえるだろう。ちなみに本機の配備が行われたのは大戦最末期であり、そのため生産数はあまり多くない。



CUSTOM

[RGM-79N
GM]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ジム・カスタム

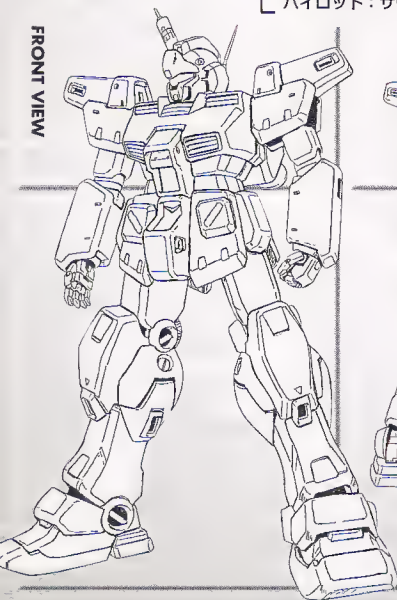
016



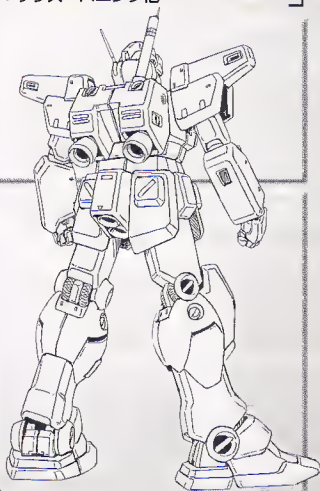
ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m
 本体重量：42.0t
 ジェネレータ出力：1420kw
 主スラスター推力：67480kg
 装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）
 パイロット：サウス・バニング他

FRONT VIEW

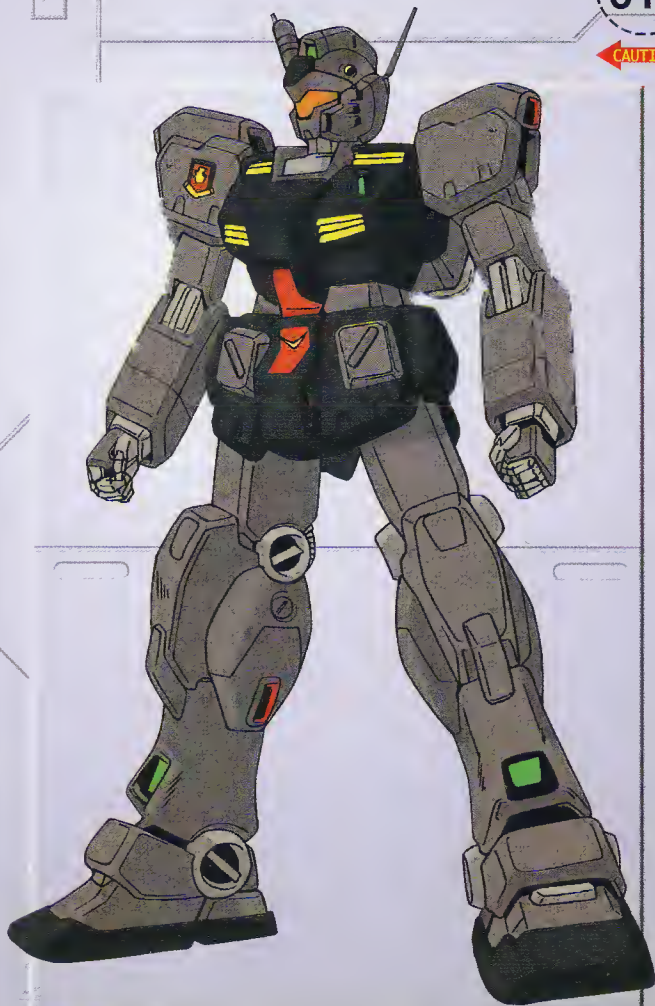


REAR VIEW



機体解説

ジム・カスタムと呼ばれるN型は、戦後に開発されたC型を原型機としたエースパイロット用の出力向上機である。機体各部に姿勢制御用ロケットが多数増設されており、運動性能が飛躍的に向上している。さらに主推進器を含むランドセルは、大戦末期に開発されたNT-1と同じ物を装備しており、総合的性能ではすでにRX-78を上回っている。主武装にはエネルギーCAP式のビームライフルが予定されていたが、戦後の軍縮政策による予算緊縮の影響を受けて、実体弾使用のブルバップ式機関砲に変更された。コスト高のため、生産数は非常に少ない。



QUELL

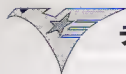
[RGM-79Q
GM]



TITANS

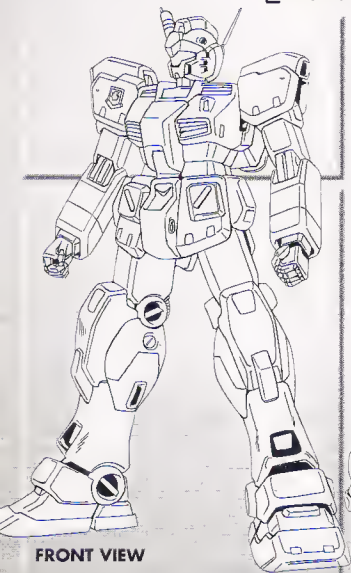
ジム・クウエル

017

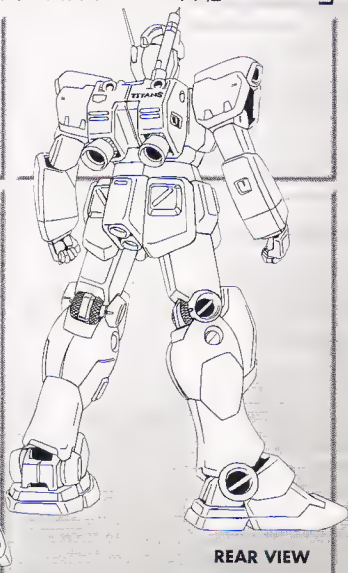


ティターンズ

全高：18.0m
 本体重量：39.9t
 ジェネレータ出力：1420kw
 主スラスター推力：61480kg
 装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）
 パイロット：アルファ・A・ベイト他



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

コロニー内部における、武装反乱鎮圧用に開発された機体。試作機によるテスト終了直後に特務部隊ティターンズが編制されたため、部隊専用機として採用された。同部隊の任務は旧ジオン軍残党や反体制武装組織の摘発にあったため、本機の詳細なデータは公表されていない。さらに画像情報についても数点しか現存しておらず、配備状況やパイロットに関する情報を得ることは不可能に近い。ただ数少ない写真から、原型機はN型同様にC型であり、推進器もNT-1と同じタイプを採用していることが判別できる。グリプス戦役時の混乱で残されていた機体はすべて喪失し、現存機はまったくないといわれている。



GUNCANNON

[RX-77-2]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ガンキャノン

018



地球連邦

宇宙軍

全高：17.5m

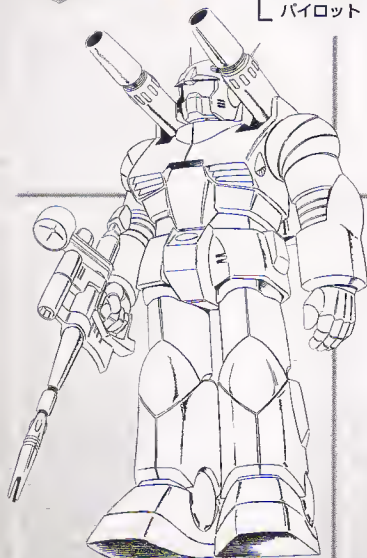
本体重量：51.0t

ジェネレーター出力：1380kw

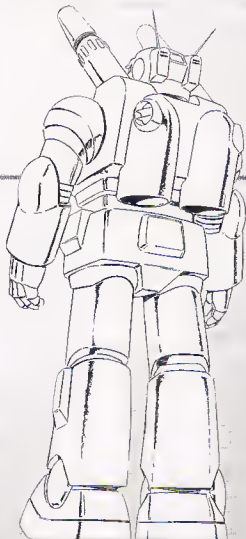
主スラスター推力：51800kg

装甲素材：ルナチタニウム

パイロット：カイ・シデン他



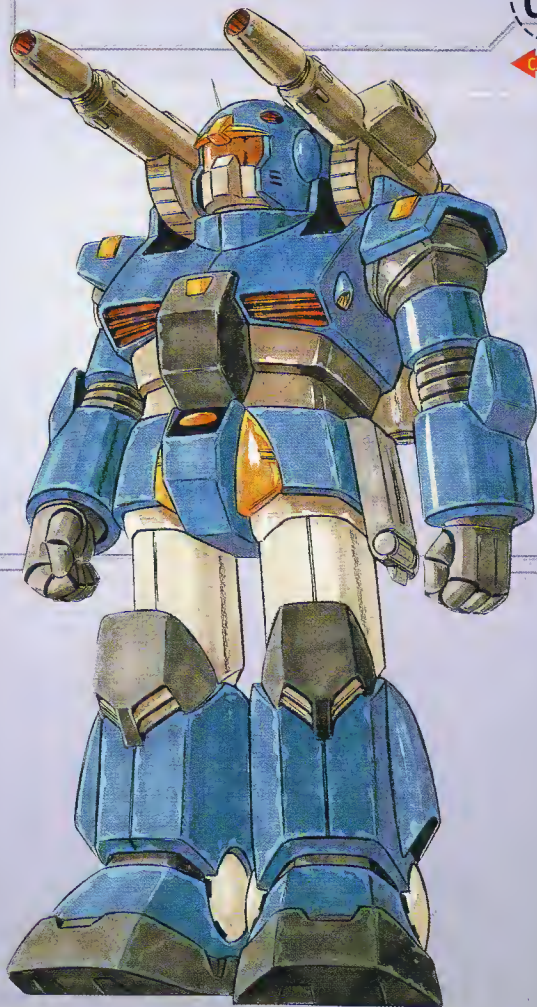
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機はRX計画によって開発された、中距離支援砲撃用の試作MSである。連邦軍は来るべきジオンとの戦いにおいて、宇宙要塞を攻略する作戦が不可欠となるだろうと予測していた。支援砲撃型MSはその作戦時に、宇宙歩兵や通常兵装MSの突入を支援することを運用目的の一つとしていたのである。こうした運用思想のもとに設計されたRX-77は、敵弾を受け止め得る重装甲と制圧射撃のための大火力を持つ機体となった。この考えが正しかったことは、ア・バオア・クー要塞に陸戦部隊が突入するさいに立証された。MSの支援砲撃があったからこそ、多くの部隊が要塞内部に突入することに成功したのである。



HEAVY ARMS CUSTOMIZED MODEL

**RX-77-3
GUNCANNON**



**EARTH FEDERATION
SPACE FORCE**

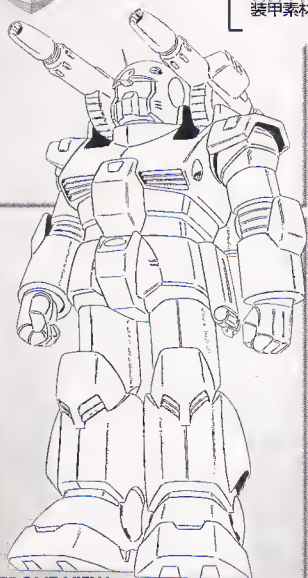
ガンキャノン重装型

019

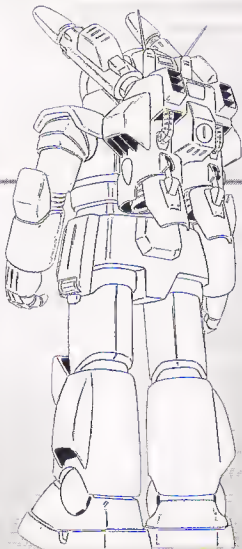


ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高: 18.1m
 本体重量: 58.6t
 ジェネレータ出力: 1380kw
 主スラスター推力: 62200kg
 装甲素材: ルナチタニウム



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

RX-77-2はホワイトベース隊の他に、ジャブローの試験部隊にも配備されており、量産機RGC-80の生産に備え数々のテストを繰り返していた。本機はその過程で生まれたもので、特に重装型と呼ばれている。主な改良点は、装甲形状と主砲射撃時の反動の抑制、そして搭載火器の追加であった。開発にあたって用兵側から要求されたことは、同機種編成による集団戦を可能とすることであった。つまり連邦軍は砲撃型MSからなる部隊を編制し、通常装備のMS部隊との有機的連携運用を考えていたのである。完成した機体の性能は一応は満足のいくものだったが、軍部は開発班にさらなる研究を命じたのだった。



GUNCANNON II

[RX-77-4]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

RX-77-4

MOBILE SUIT VARIATION

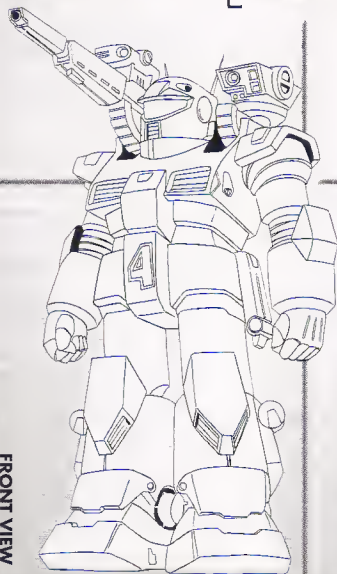
ガンキャノンII

020

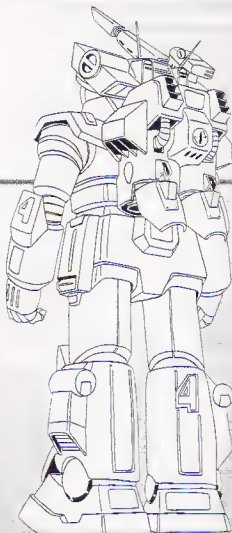


ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m
本体重量：52.7t
ジェネレータ出力：1380kw
主スラスター推力：62200kg
装甲素材：ルナチタニウム



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機はRX-77型の最終型であり、それまでの試作機の各種データを取り入れて設計されている。それまで2門装備されていた実体弾式主砲は、右肩のビーム砲1門のみに変更された。さらに左肩には多目的精密照準器が備えられ、高精度な遠距離砲撃を可能にしている。そしてビーム砲を採用したために機体設計に余裕が生まれ、背部の主推進器はより大型のものに換装された。これによって宇宙における比推力ばかりでなく、重力下での短距離ジャンプ飛行が可能になった。これは本機のような重MSとしては非常に驚くべき性能であり、RX-77シリーズはガンキャノンIIによっていにその完成を見たといえる。



GUNCANNON TYPE-D

[RX-77D]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

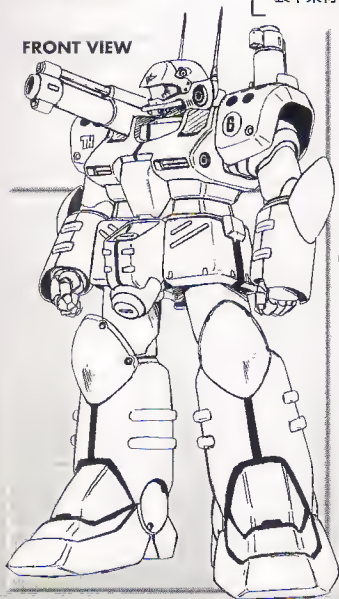
ガンキャノン量産検討機

021

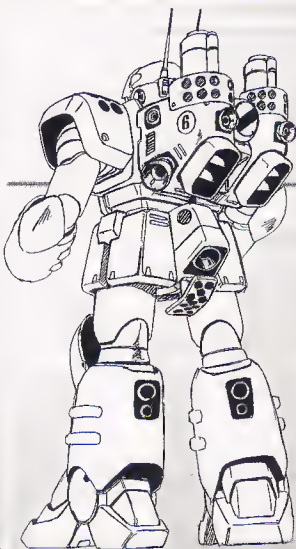
地球連邦
宇宙軍

全高: 17.5m
 本体重量: 51.05t
 ジェネレータ出力: 1410kw
 主スラスター推力: 93500kg
 装甲素材: チタン系合金 (チタン・セラミック複合材)

FRONT VIEW

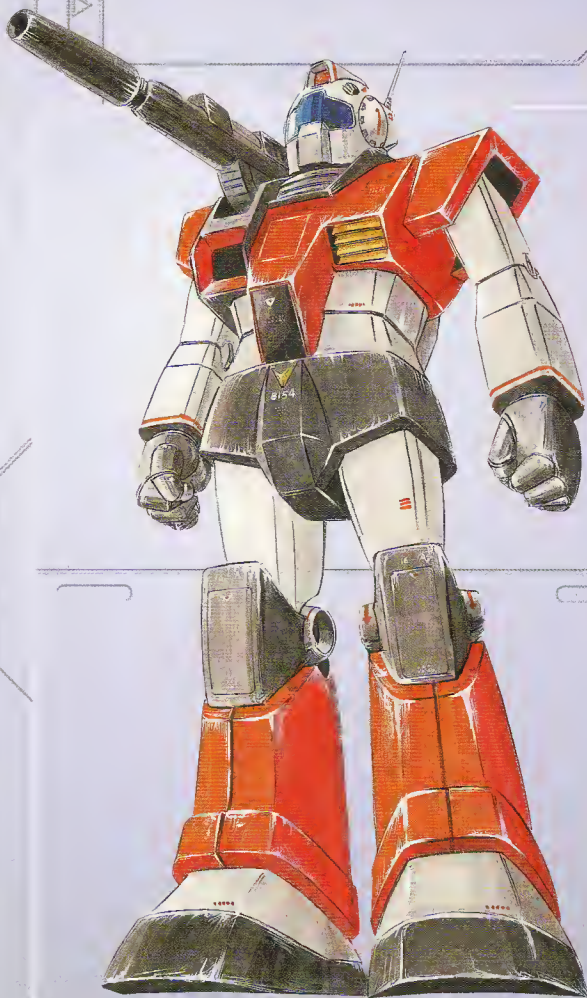


REAR VIEW



機体解説

ビーム砲を装備した4型の完成後、打撃力に今一つの感があるRGC-80の上位機種として、RX-77の量産が検討されることになった。そこで検討用に急速建造されたのが、3型を原型機としたD型である(4型はコスト高のため、原型機候補から外された)。こうして完成したD型は戦場試験をかねて、ソロモン攻略戦に参加する予定だった強襲揚陸艦グレイ・ファントムに配備された。が、寄港地サイド6でジオン軍の奇襲を受け、あえなく撃墜されてしまう。この事件によって、少数の上位機種による部隊編制を考えていた軍部は計画を破棄、RGCシリーズの生産態勢の整備に全力を注ぎ込むことに方針を決定する。



GM CANNON

[RGC-80]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ジム・キャノン

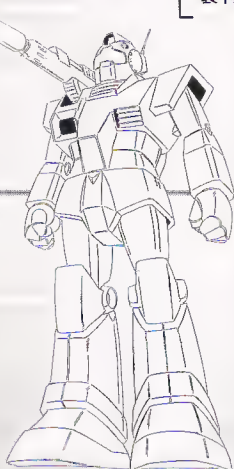
022



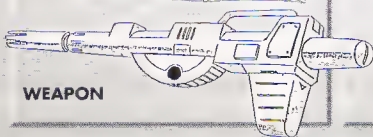
ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：17.8m
 本体重量：49.9t
 ジェネレータ出力：976kw
 主スラスター推力：63500kg
 装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）

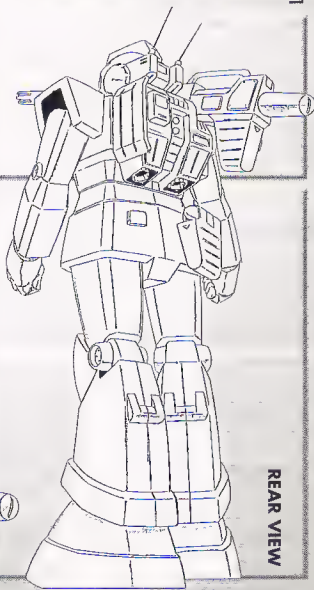
FRONT VIEW



WEAPON

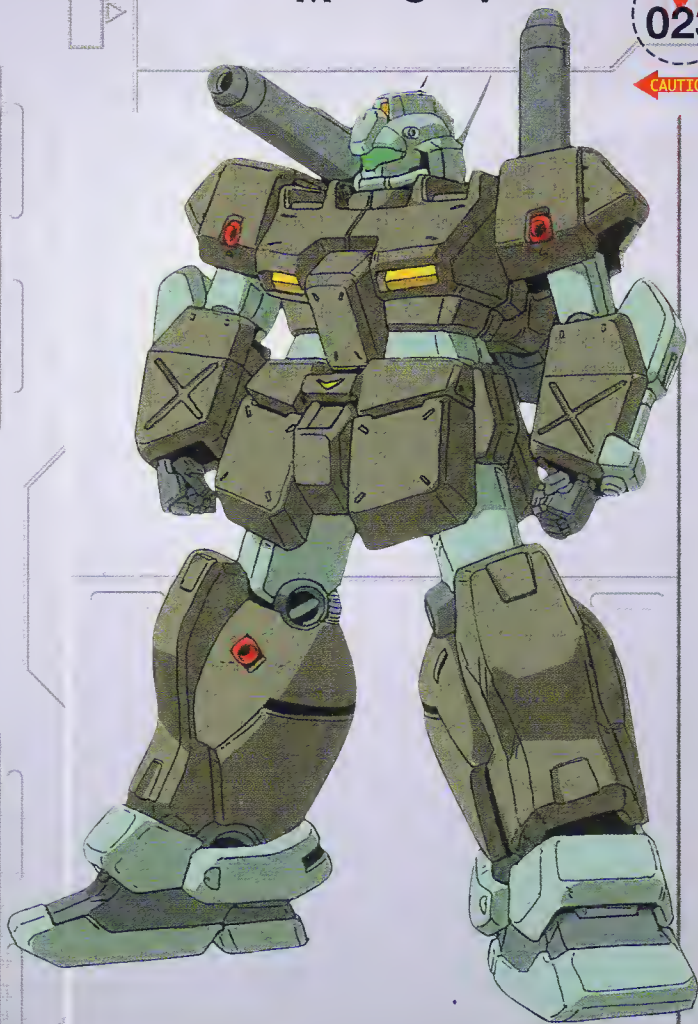


REAR VIEW



機体解説

本機はRX-77の量産型ながら、外観はRGM-79の砲戦型の印象を与えるものになっている。これはコストを抑えるため、フレームや各種部品及び装甲をRGM-79から流用したためである。部品の共有率は実に60%に達しており、本機は流用率が低い連邦軍MSの中でも非常に希有な機体といえるだろう。1号機は0079年10月にロールアウトしたがテストの結果、主砲発射時のバランスに問題があることが判明した。この問題は機体の重心を下げることで改善され、同時に砲をロケット式砲弾用のM-79E1に換装して反動を軽減させることに成功した。大戦中の総生産数は58機で、全ての機体が実戦に参加している。



GM CANNON II

[RGC-83]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ジム・キャノンII

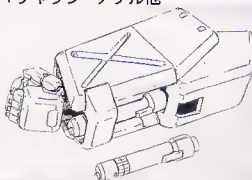
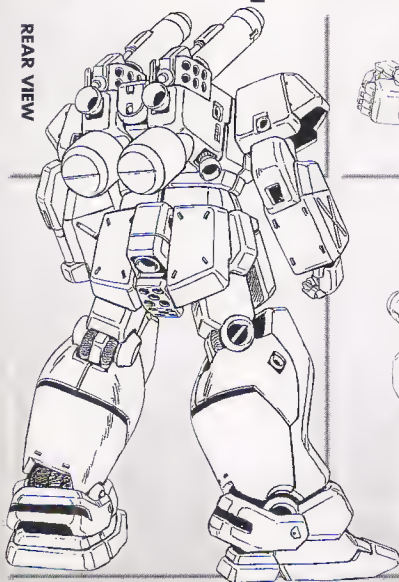
023



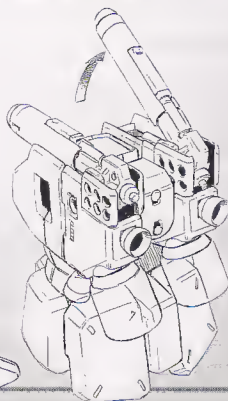
ちきゅうれんぽう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

全高：18.0m
 本体重量：47.3t
 ジェネレータ出力：1420kw
 主スラスター推力：59480kg
 装甲素材：チタン系合金（チタン・セラミック複合材）
 パイロット：チャップ・アデル他

REAR VIEW



BEAM SABER



BEAM CANNON

機体解説

本機は戦後、RGC-80の後継機として開発された中距離砲戦型MSである。エネルギーCAP方式の確立は、ビーム兵器を高価な兵装から安価なモノへと変化した。これによって軍部はRX-77-4の量産化を再度検討し、ビーム砲装備の機体の開発を決定する。基本フレームはRGM-79C型を流用し、頭部はD型の設計案を用いるなど、本機は第1世代機の集大成的な趣があると評することができるだろう。こうしてRGC-83は量産機としては、高性能なモノに仕上がった。しかし技術革新はさらに続きMSの万能化が進む中、中距離砲戦の概念自体が陳腐化してしまい、砲戦型MSはその姿を消してしまう。



ZAKU I

MS-05B



PRINCIPALITY OF
ZEON

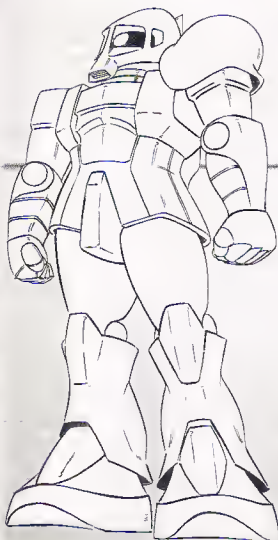
ザクI (後期生産型)

024

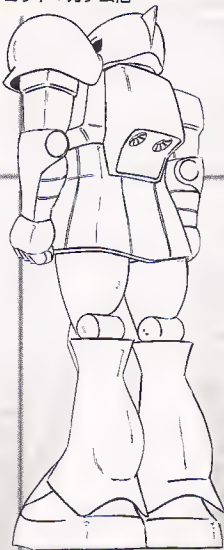


ジオン
公国軍

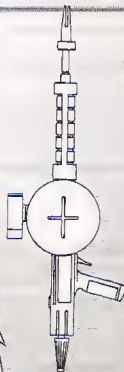
全高：17.5m
 本体重量：50.3t
 ジェネレータ出力：899kw
 主スラスター推力：55000kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：ガダム他



FRONT VIEW



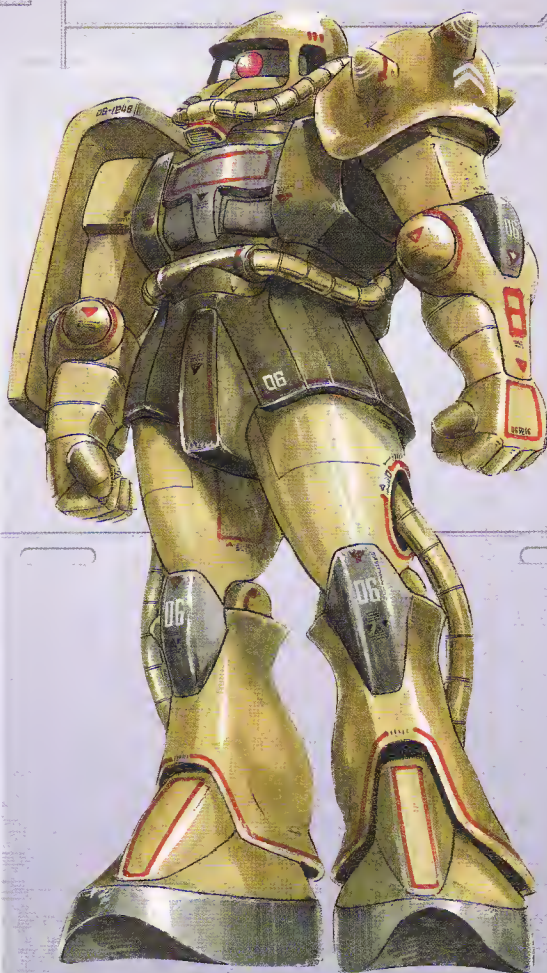
REAR VIEW



WEAPON

機体解説

MS-05は史上初の実戦機であり、すべてのMSの祖というべき機体である。通常ならばこのような近接戦闘を主とする人型兵器は、使い物にならないと考えられてきた。しかし長距離戦闘を不可能にするミノフスキー粒子の散布技術の確立により、戦場の様相は一挙に第2次世界大戦レベルまで逆行した。これにより戦場の女王の座は従来の電子兵器から、目視戦闘を前提に開発されたMSに移ったのである。しかし実用化されたとはいえ、本機にはまだまだ克服すべき点が多くあった。動力パイプの内蔵による出力の限界などが、その最たるものだといえる。しかし本機は兵站部隊などで、終戦まで用いられるのであった。



ZAKU II

[MS-06F]



PRINCIPALITY OF
ZEON

MS-06F ザクII

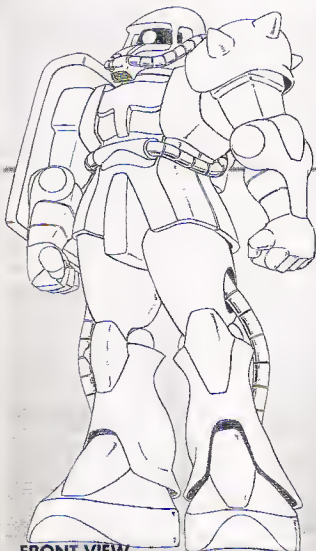
MOBILE SUIT VARIATION

025

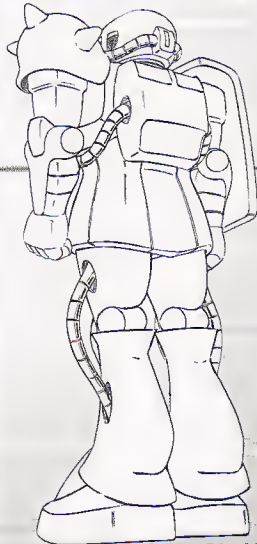


ジオン
公国軍

全高：17.5m
本体重量：56.2t
ジェネレータ出力：976kw
主スラスター推力：43300kg
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
パイロット：デニム他



FRONT VIEW

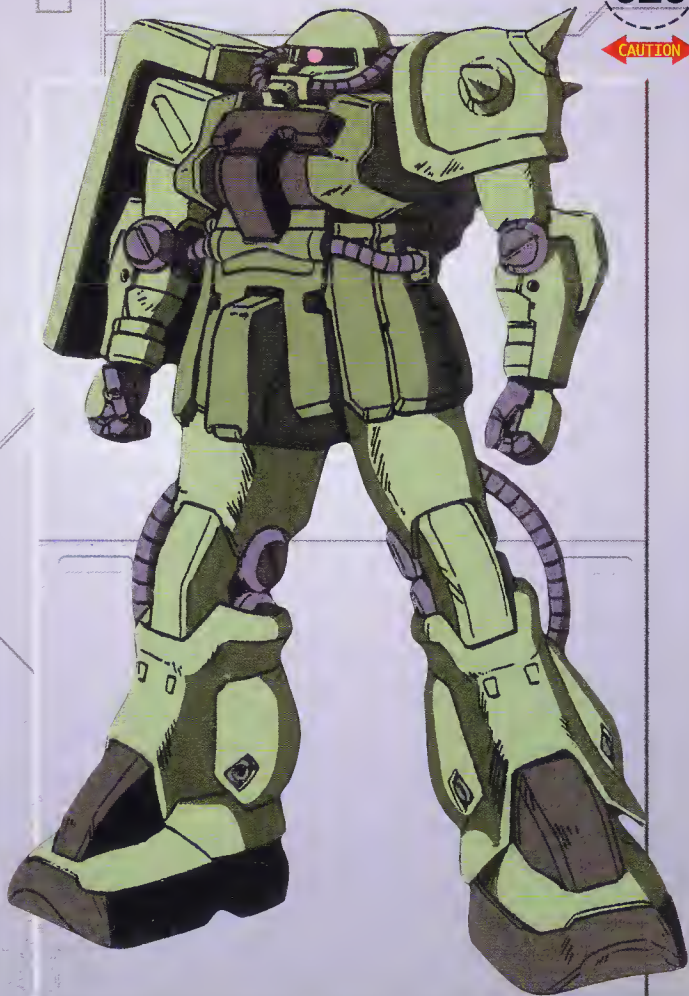


REAR VIEW

機体解説

MS-06は、05で指摘された問題点をクリアし、より実戦に適したMSとして開発された。特にF型は数ある06系の中でも最も生産された機種である。実際A型は試験運用に留まり、対核仕様であったC型は南極条約締結後には生産されていない。それに反してF型は、多くのバリエーションの原型機になっている。本機の特徴として、姿勢制御ロケットが必要最低限しか装備されていないことが挙げられる。これは出来得る限り熱線の放出を抑え、敵の探知システムに発見されることを避けるための処置であった。こうして本機は敵艦の照準システムをかいくぐることに成功し、大戦終戦で多大な戦果を得たのである。

初出：『機動戦士ガンダム』



ZAKU II TYPE-F2

[MS-06F2]



PRINCIPALITY OF
ZEON

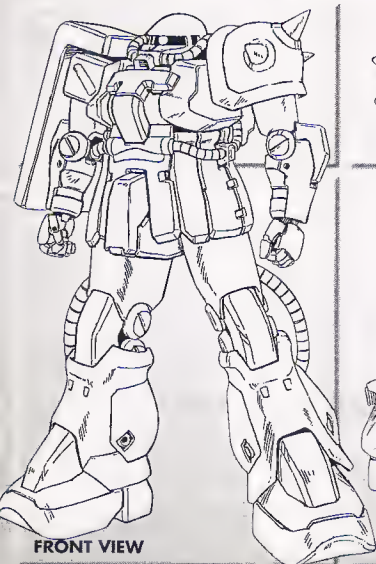
ザクII (後期生産型)

026

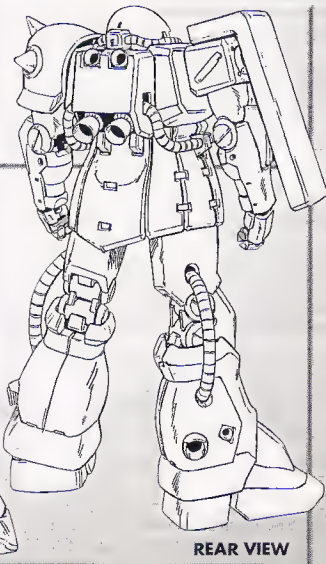


ジオン
公国軍

全高：17.5m
 本体重量：49.9t
 ジェネレータ出力：986kw
 主スラスター推力：53400kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）



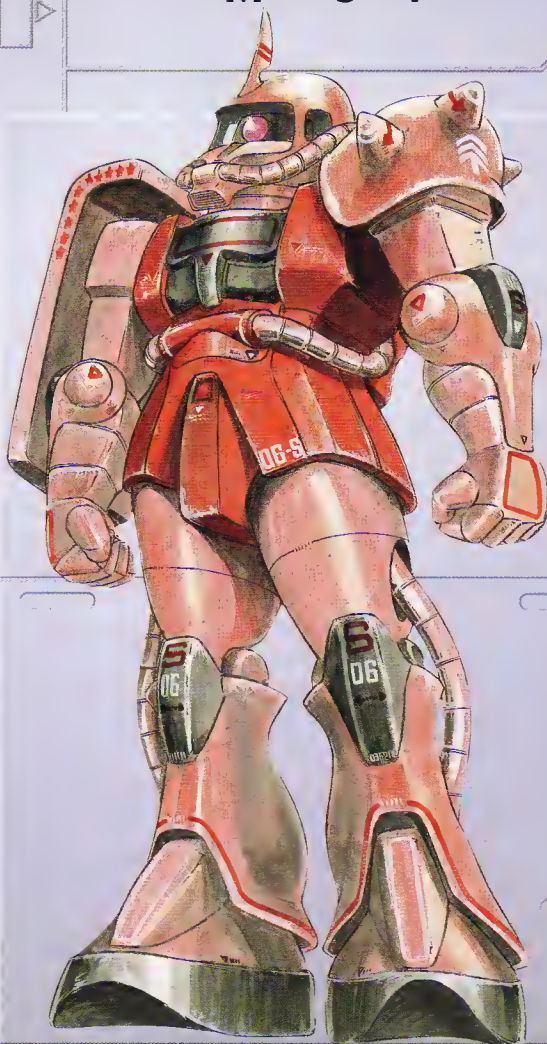
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

F2型は大戦中期以降に量産された、F型の改設計機である。F型は優れた機体ではあったが、連邦軍がMSの存在を認め、その対処法を研究し始めると、推力の低さなどが弱点となって浮上してきた。そこで軍部は即座に改善策を検討し、その結果、推進器と姿勢制御ロケットを増設したタイプの生産を決定したのである。これがF2型であり、その性能は量産機としては非常に高いと評価されている。これはデラース紛争時に、連邦軍のジム改と対等に渡り合えたという事実が裏付けている。本機のノウハウは統合整備計画にフィードバックされ、ザクIIの最終モデルであるFZ型を生み出す基礎となっている。



COMMANDER MODEL

MS-06S
ZAKU II



PRINCIPALITY OF
ZEON

指揮官型ザクII

027



ジオン
公国軍

全高：17.5m

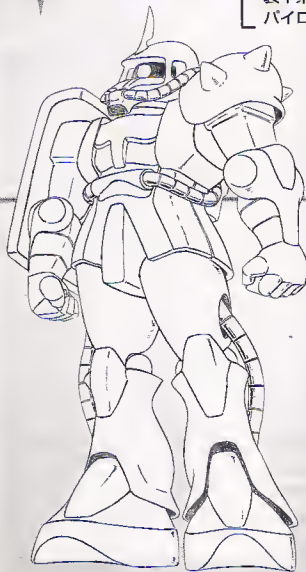
本体重量：56.2t

ジェネレータ出力：976kw

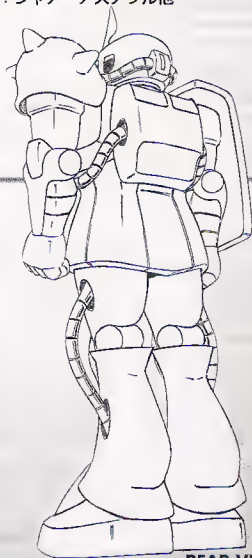
主スラスター推力：51600kg

装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）

パイロット：シャア・アズナブル他



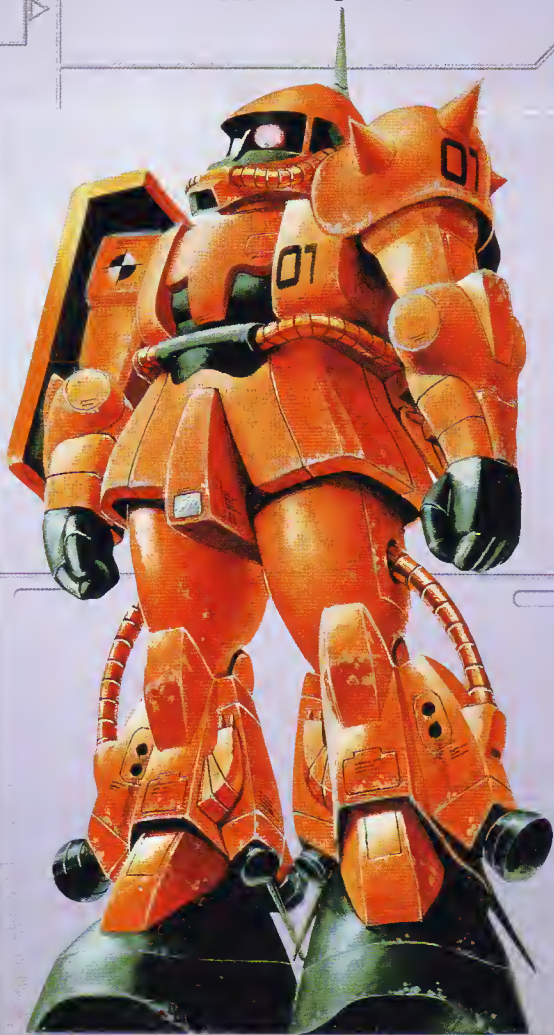
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

S型は中隊指揮官以上のベテラン向けとして製作された、F型のチューンナップモデルである。改修されたのは主に、推進器の燃焼効率と、それらをコントロールする制御プログラム及び各種通信機器であった。燃焼効率の上昇とともに推進剤の積載量も増えたが、基本的な搭載量が少なかったため、根本的な解決には至らなかった。本機の最大の特徴は頭部の角飾りだが、これは指揮官機としての識別を容易にするだけのモノではなく、一般機よりも多く、通信波を送受信する必要があることから装備された増幅器である。S型で最も有名な機体は「赤い彗星」と呼ばれた、シャア・アズナブル少佐の赤いザクIIだろう。



HIGH MANEUVER PROTO MODEL

[MS-06RP
ZAKU II]



PRINCIPALITY OF
ZEON

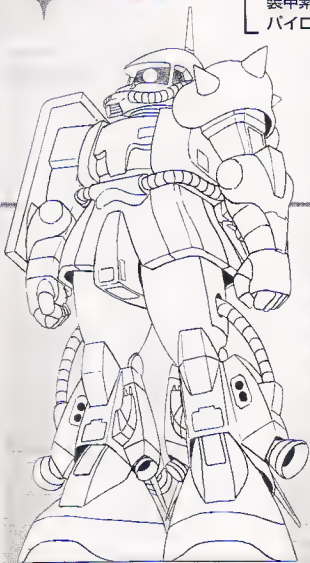
試製高機動型ザクII

028

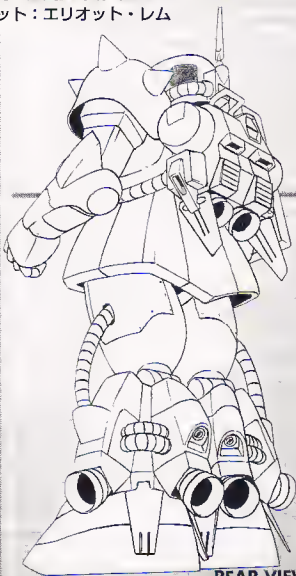


ジオン
公国軍

全高：不明
 本体重量：不明
 ジェネレータ出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：エリオット・レム



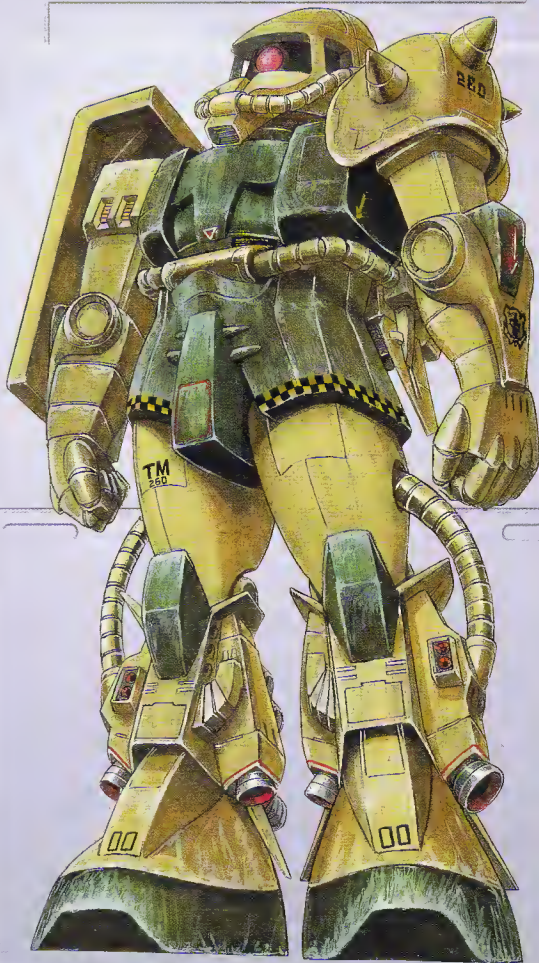
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

ジオン軍参謀本部はF2型とは別のラインで、F型を継ぐ新しい主力機の開発を模索していた。それが高機動型として知られるR型シリーズである。本機のスペックはカスタム機であるS型を大きく上回り、その戦闘力はRGM-79では太刀打ち出来ないほどだった。その最初期型であるRP型はその名の示すとおり、試作機である。この機体はF型を改修したもので、2機が製作された。各種試験は軍属のエリオット・レム中佐によって月面のグラナダ基地で行われ、好成績を残している。F型系との相違点は、背部の主推進器、脚部に新設された副推進器ならびに推進剤タンクの大容量化などである。



HIGH MANEUVER MODEL

MS-06R-1
ZAKU II



PRINCIPALITY OF
ZEON

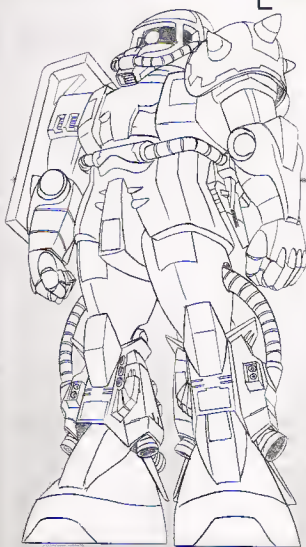
高機動型ザクII

029

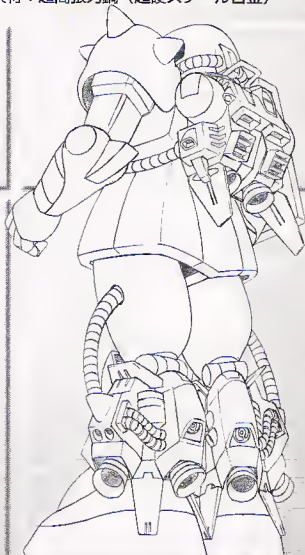


ジオン
公国軍

全高：18.0m
 本体重量：不明
 ジェネレーター出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）



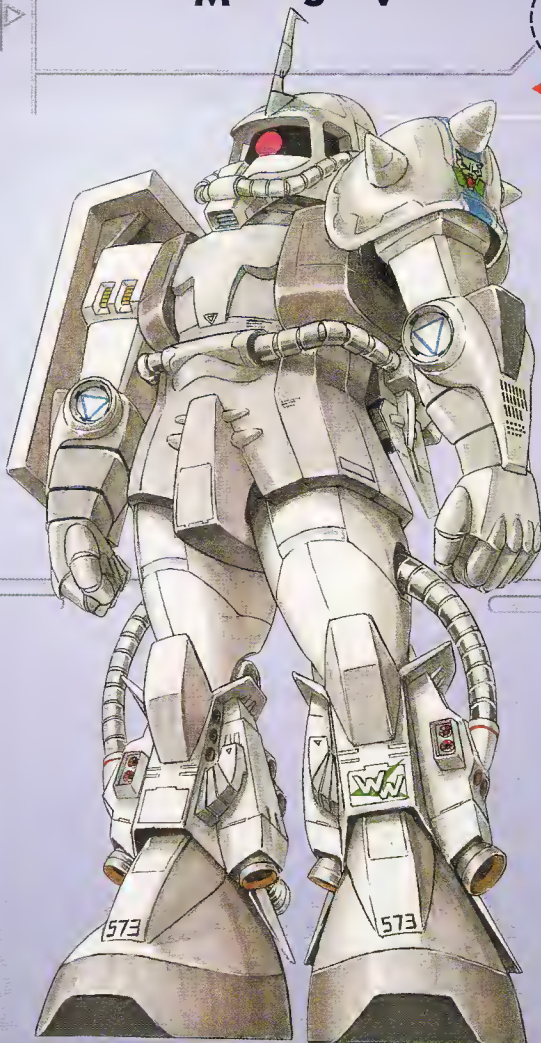
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

RP型の試験データを検討した結果、軍部はF型を改修するのではなく、全面的に再設計した機体を開発することに決定した。これは改修では推進剤の積載量が十分に確保出来ないと判断されたためである。こうしてR-1型の設計が開始されたのだが、設計上の注目すべき点は、脚部が全く新しい構造に変更されたということだろう。外見上はRP型とあまり差異はないが、推進剤積載量増加のために、駆動部分や電気系統などの設計を全面的に改めたのである。こうして完成したR-1型は22機が生産され、各方面へ送られた。本機は整備率の低さに悩まされながらも、高い評価を得ることに成功したという。



HIGH MANEUVER MODEL

[MS-06R-1A
ZAKU II]



PRINCIPALITY OF
ZEON

高機動型ザクII

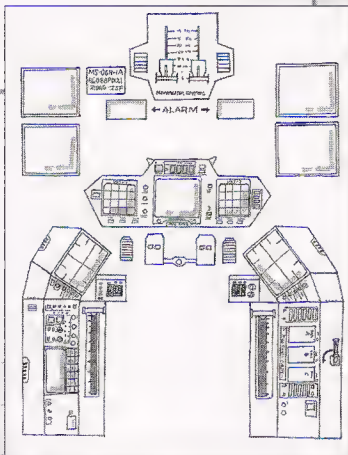
030

ジオン
公国軍

全高：17.5m
 本体重量：61.8t
 ジェネレータ出力：1012kw
 主スラスター推力：49800kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：シン・マツナガ他



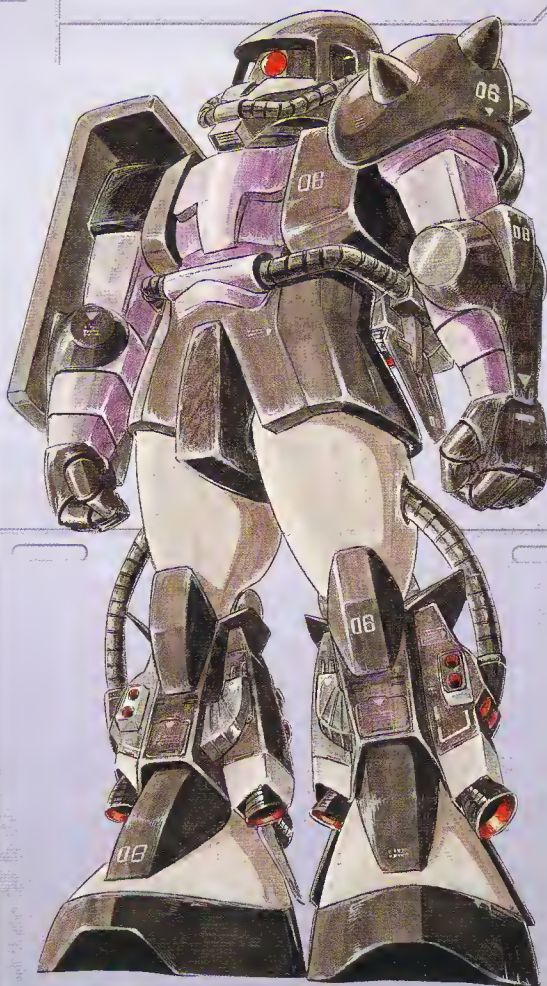
FRONT VIEW



COCKPIT VIEW

機体解説

本機はR-1型の脚部補助推進剤タンクをカートリッジ化し、艦艇内部や宇宙空間での補給を容易にした改良型である。推進器も故障の多かった自社製品から、ツィマッド社製品に換装されたが、ザクを生産しているジオニック社内部では、競合会社の製品を使用することに大きな反発が起こった。しかし開発主任エリオット・レム中佐の強い主張によって、採用が決定した。Rシリーズは整備が難しく稼働率も低かったが、極めて高性能だったので各地のエースパイロットからの評判は良かったという。白狼の渾名で知られるシン・マツナガ大尉の愛機は、その名が示すとおりホワイトを基調としたカラーを施されている。



HIGH MANEUVER MODEL

[MS-06R-1A
ZAKU II]



PRINCIPALITY OF
ZEON

MS-06R-1A

MOBILE SUIT VARIATION

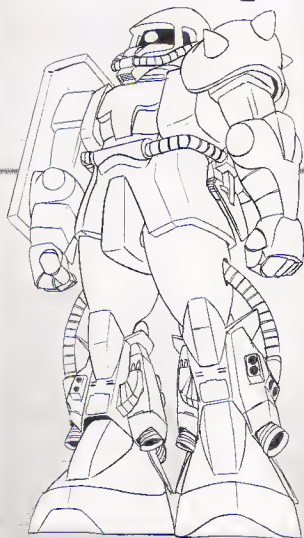
高機動型ザクII (黒い三連星)

031

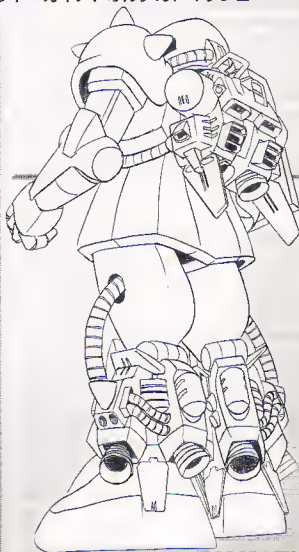


ジオン
公国軍

全高：17.5m
本体重量：56.8t
ジェネレータ出力：1012kw
主スラスター推力：49800kg
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
パイロット：ガイア、オルテガ、マッシュ



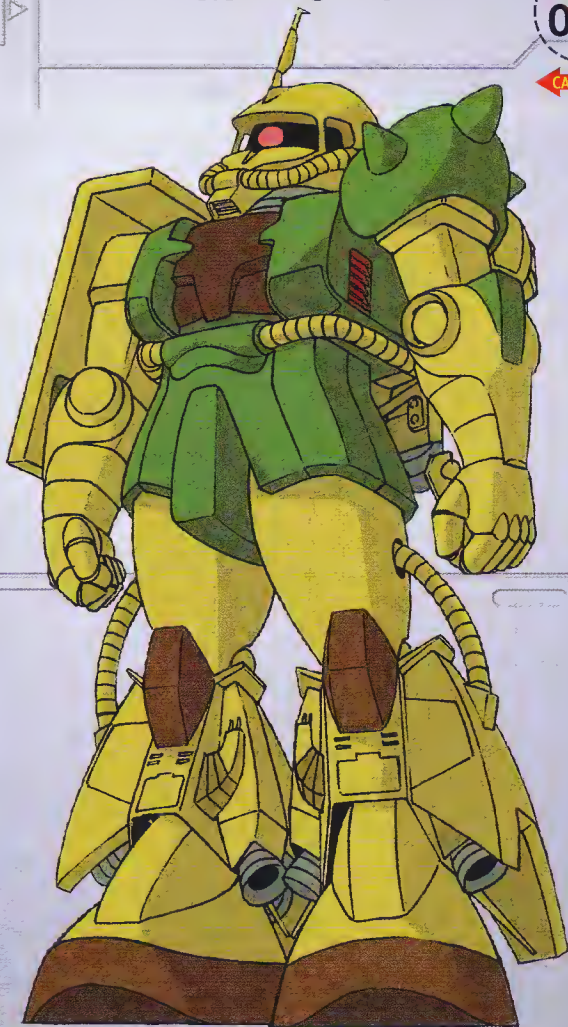
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

R-1A型は運用試験において、好成績を収めることに成功した。これを受けて10機のR-1型がR-1A型に改修され、各地の部隊に配備された。本機はその高性能ぶりでジオン、連邦軍の双方を驚かせたが、複雑な構造と調整の難しさが災いしコストが高くなってしまった。その結果、F型のような大量生産には至らず、将兵からは「連邦軍の戦艦を沈めるよりも、R型を手に入れるほうが難しい」と皮肉られるという事態に陥ってしまう。黒い三連星として知られるガイア少尉を小隊長とする特務隊の乗機は、グラナダ工場で製作されており、機体の細部のディテールが他のものと多少異なっている。



HIGH MANEUVER PROTO MODEL

[MS-06R-2P
ZAKU II]



PRINCIPALITY OF
ZEON

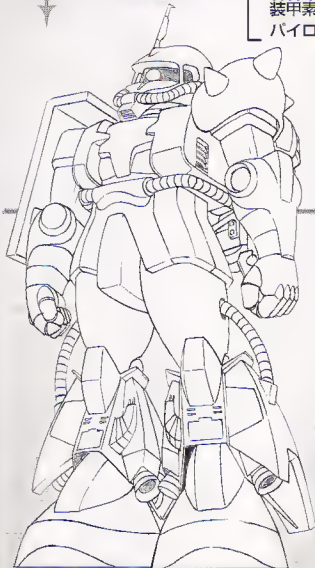
試製高機動型ザクII

032

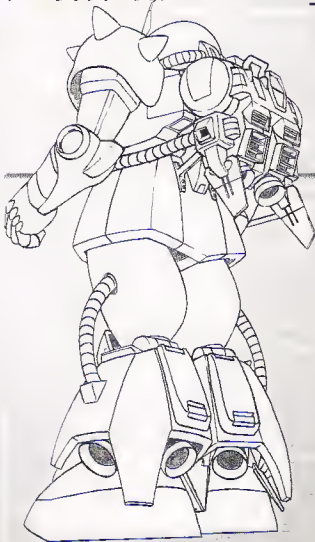


ジオン
公国軍

全高：17.5m
 本体重量：不明
 ジェネレータ出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：エリオット・レム



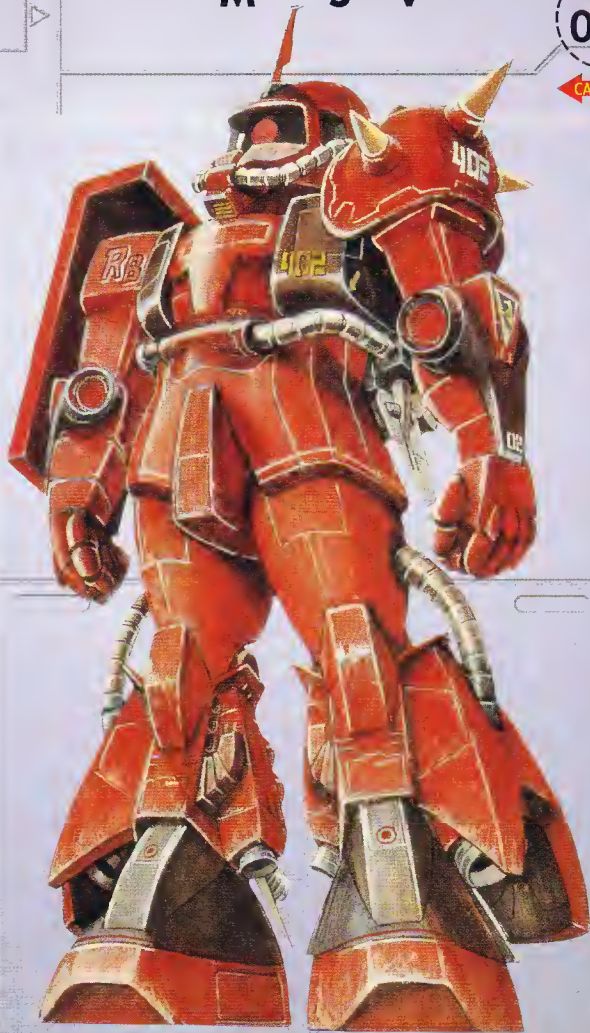
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

軍部がRシリーズを、一般機に対するエース用の上位機種として採用したことに気を良くしたジオニック社は、次期主力機の各社競合選定に、R-1A型のさらなる改良型を参加させることに決定する。それがR-2型であり、本機はそのプロトタイプである。R-2P型最大の特徴は、ビーム兵器の運用を前提として設計されたということだろう。競合社であるツィマッド社でさえも当時はビーム兵器の小型化には成功しておらず、もし本機が量産機として採用されたなら、歴史は大きく変わっていたかもしれない。だが核融合炉の出力に問題が生じ、結局は通常兵装に改設計されたR-2型が開発されることになった。



HIGH MANEUVER MODEL

MS-06R-2
ZAKU II



PRINCIPALITY OF
ZEON

高機動型ザクII

033



ジオン
公国軍

全高：18.0m

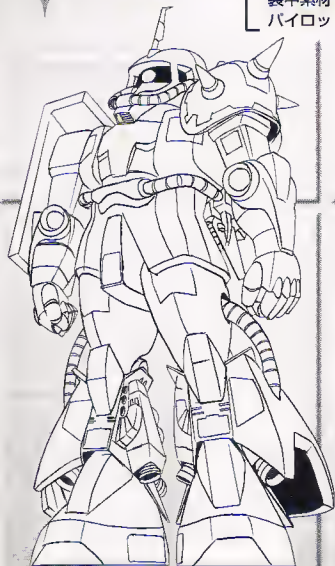
本体重量：58.2t

ジェネレータ出力：不明

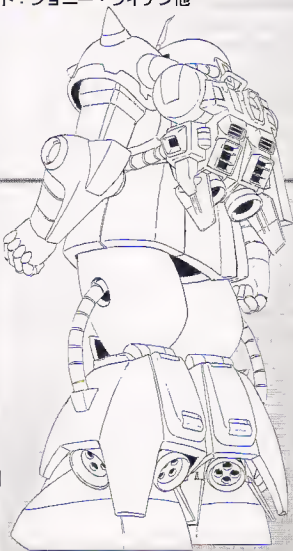
主スラスター推力：不明

装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）

パイロット：ジョニー・ライデン他



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は次期主力機選定において、ツィマッド社のMS-09Rと争った機体として知られている。一部の性能では優りながらも、コストと生産性を含めた総合的な面では09Rには及ばず、試作機が4機完成した時点で計画中止となってしまった。だがその性能や設計には見るべきところも多く、本機があったからこそ、MS-14が誕生し得たとも言われている。事実、推進剤タンクに関する問題点や推進器の装甲防御などは、MS-14を設計するにあたって非常に参考になったという。しかしすでに06系の機体そのものが性能面で限界に達しており、開発陣はより飛躍した設計を行う必要に迫られていたのがあった。



RECON MODEL

[MS-06E
ZAKU II]



PRINCIPALITY OF
ZEON

強行偵察型

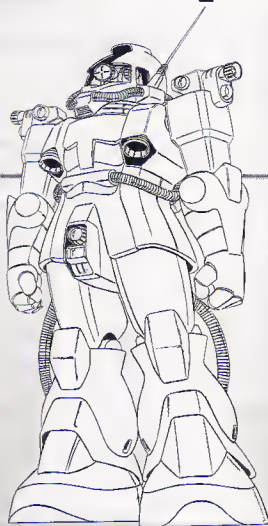
ザクII

034

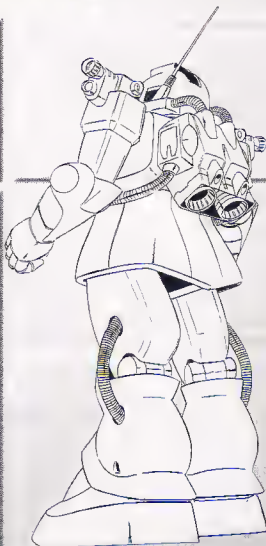


ジオン
公国軍

全高: 17.7m
 本体重量: 60.4t
 ジェネレータ出力: 不明
 主スラスター推力: 不明
 装甲素材: 超高張力鋼 (超硬スチール合金)



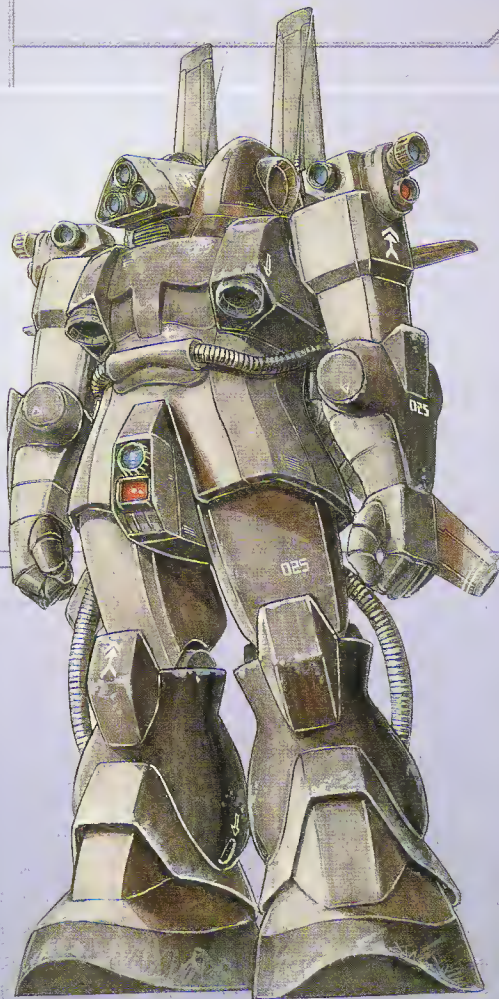
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

史上最大規模の宇宙艦隊戦といわれるルウム戦役は、連邦・ジオンの両軍に大きな教訓を残した。それは、たとえミノフスキー粒子下における戦闘といえども、敵勢力の情報を正確に把握しなければ勝利することは難しいという、当たり前前の事実だった。ジオン軍部はルウムにおける戦闘を、索敵を怠ったために生じたのだと判断、偵察機の開発を開始する。こうして誕生したのが、強行偵察型といわれるE型である。本機は機体の各部に、様々な種類のカメラを装備していたという。特に見るべき点のある機体ではないが、連邦の追撃機を非武装状態で返り討ちにしたという事実によって、多くの人にその名を知られることになった。



ZAKU FRIPPER

MS-06E-3
ZAKU II



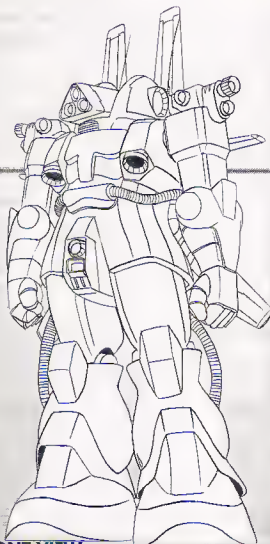
PRINCIPALITY OF
ZEON

強行偵察型ザクⅡ **ザクフリッパー** 035

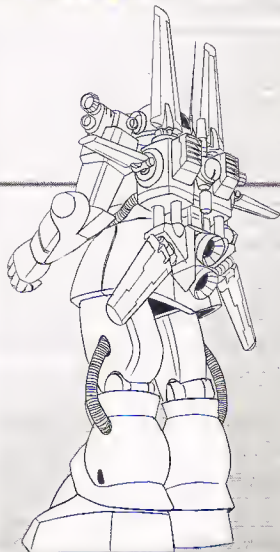


ジオン
公国軍

全高：16.7m
 本体重量：61.5t
 ジェネレータ出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

E型は主に一般部隊に配備・運用され、一定の評価を得ることに成功した。が、コストの問題で大量生産はされず、その性能向上型として特殊任務機E-3型が開発された。本機は加速用ロケットの燃焼効率の上昇と、索敵機器の性能向上を狙った機体だった。搭載カメラの数が増えただけでなく、電波・熱源などを記録解析することが可能な複合探知システムを背部に装備したのである。むしろレーザーによる索敵も可能であり、光学的な偵察機能しかもたなかったE型よりも非常に充実した機体だと評されている。しかし大戦後期になって連邦軍艦艇が対空装備や直掩MSを充分に備え始めると、偵察型MSは完全にその活躍の場を失ってしまった。



ZAKU II TYPE-FZ

[MS-06FZ]



PRINCIPALITY OF
ZEON

MS-06F Z ザクII改

MOBILE SUIT VARIATION

036



ジオン
公国軍

全高：17.5m

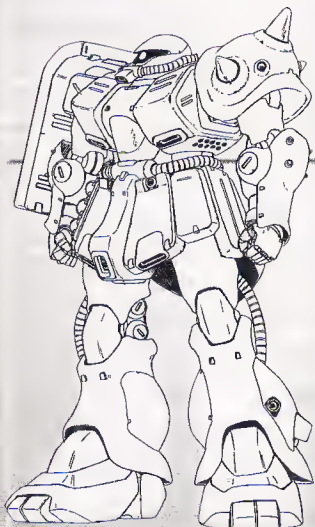
本体重量：56.2t

ジェネレータ出力：976kw

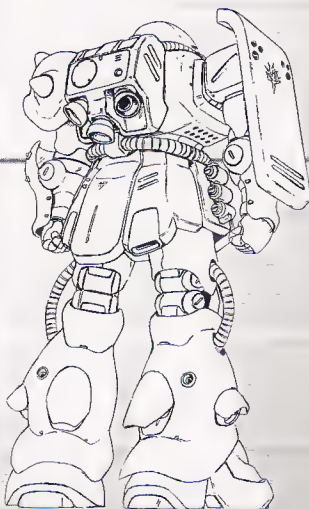
主スラスター推力：79500kg

装甲素材：超高張力鋼（チタン・セラミック複合材）

パイロット：バーナード・ワイズマン他



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は大戦末期に、わずかに生産され消え去っていった隠れた名機と、現在多くの研究家から評価されている。MSの生産効率の改善を図った統合整備計画はいくつかの野心機、傑作機を残したが、FZ型も確実にその一つといえるだろう。ビーム兵器を装備することは無理だったが、推進器と各部の姿勢制御ロケット、そして小口径高速弾用の新型機関砲など、優秀な部分は多かった。機体性能ではジム以上であり、ゲルググに匹敵するとさえ噂された。しかし本機最大の武器は、訓練不足の新兵でも十分に扱えるその良質な操縦性だった。だが配備が非常に遅れ、戦局に何ら貢献せずに終わったことは残念である。



PSYCOMMU MOUNTED TEST MODEL

MS-06Z
ZAKU II



PRINCIPALITY OF
ZEON

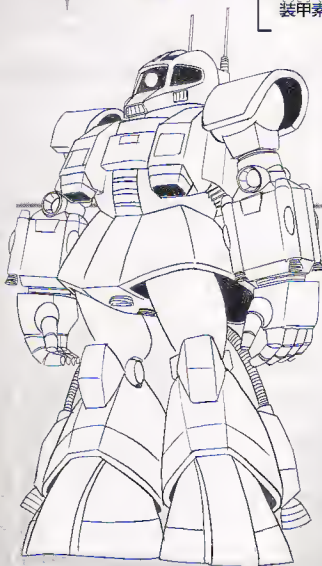
サイコミュ搭載試験用ザクII

037

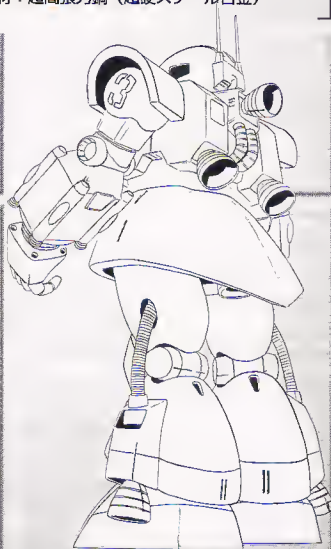


ジオン
公国軍

全高：17.7m
 本体重量：60.4t
 ジェネレータ出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）



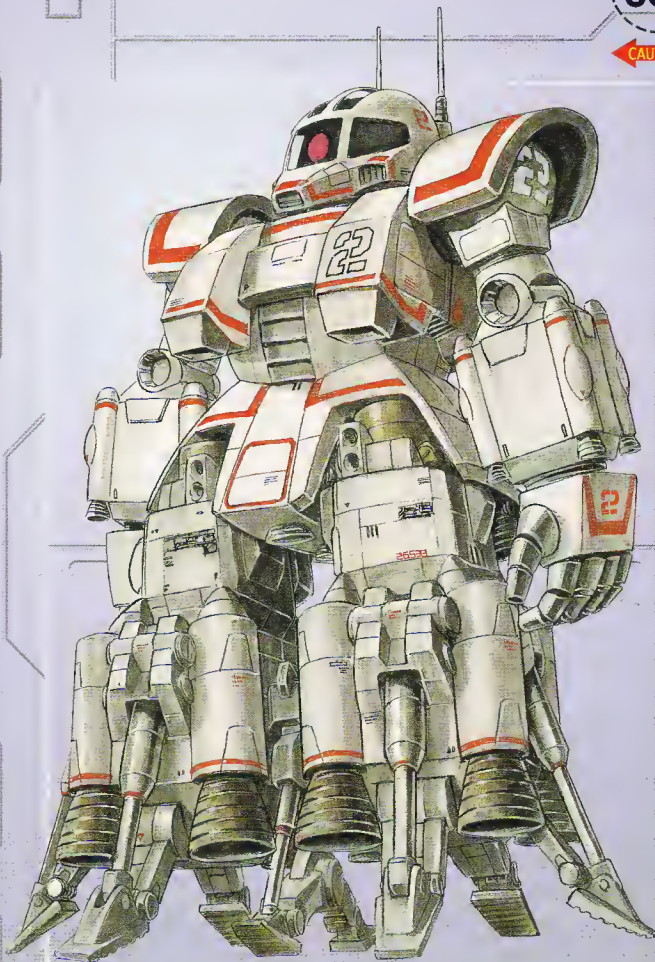
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

ジオン軍は膠着状態に陥った戦局を開くため、新型兵器の開発を開始した。その一つが、通常人よりも強力な脳波信号を持つNTの特性を生かした思考誘導攻撃システム、いわゆるサイコミュである。本機はMS-16（後のMSN-02）に装備される、有線誘導式ビーム砲搭載試験のために建造された。型式番号は06Z型。だが使用されたのはメインフレームぐらいのもので、頭部を除いてザクの印象はまったくない。この機体は3機製作され、暗礁宙域として知られるコレビドールで稼働試験が実施された。この試験で、有線誘導式ビーム砲の戦術運用に関するテキストの作成が開始されたという。



PSYCOMMU SYSTEM ZAKU

MSN-01



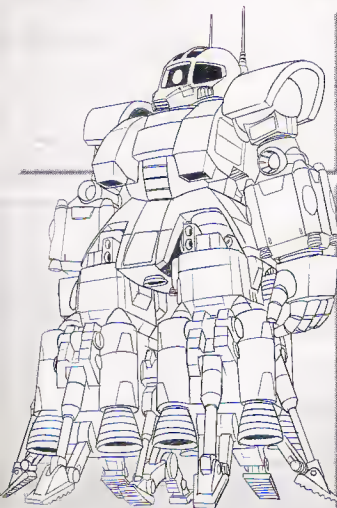
PRINCIPALITY OF
ZEON

サイコミュ運用試験用ザク 038

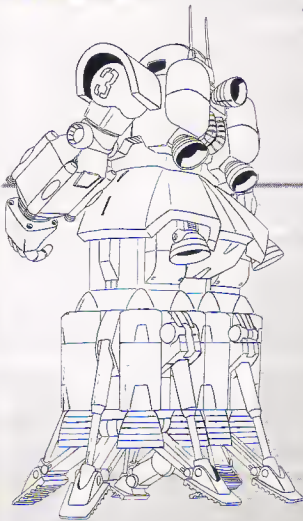


ジオン
公国軍

全高：17.2m
 本体重量：65.4t
 ジェネレータ出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）



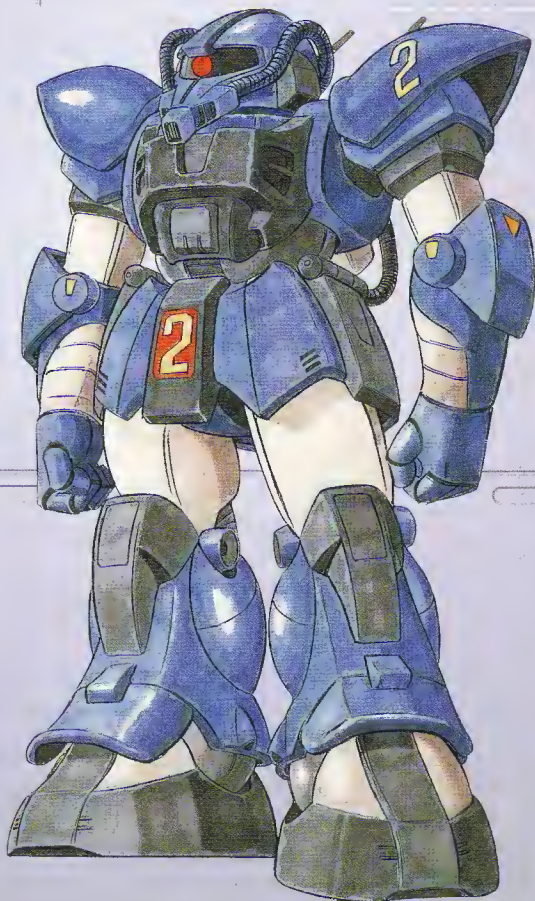
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は有線誘導式ビーム砲の運用試験のために開発された、MS-06Zの2号機に改修を施したものである。Z型の推進器では加速性能に限界があり、高速機動時におけるシステムの試験条件を満たすことが出来なかったのだ。ビーム砲搭載に関する所定のデータはZ型で間に合ったが、それ以外の試験については、新たな機体を用意する必要に迫られたのである。そうして生まれたのがこのMSN-01であり、脚部を排除し大推力ロケットを搭載、加速性能の上昇を狙った設計に変更された。こうして加速性能の問題は解決したが、推進剤積載量の問題から稼働時間が限定されるというデメリットが生まれてしまった。



ACTION ZAKU

MS-11



PRINCIPALITY OF
ZEON

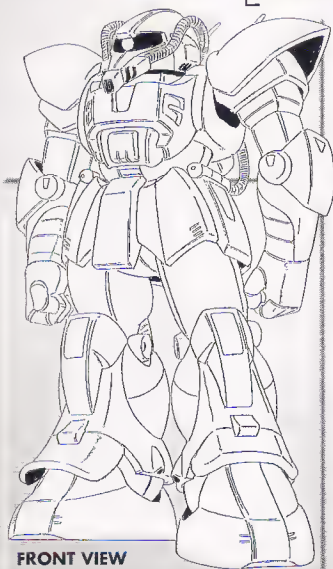
アクトザク

039

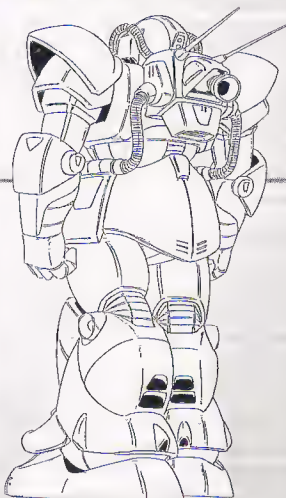


ジオン
公国軍

全高：18.2m
 本体重量：59.1t
 ジェネレータ出力：不明
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）



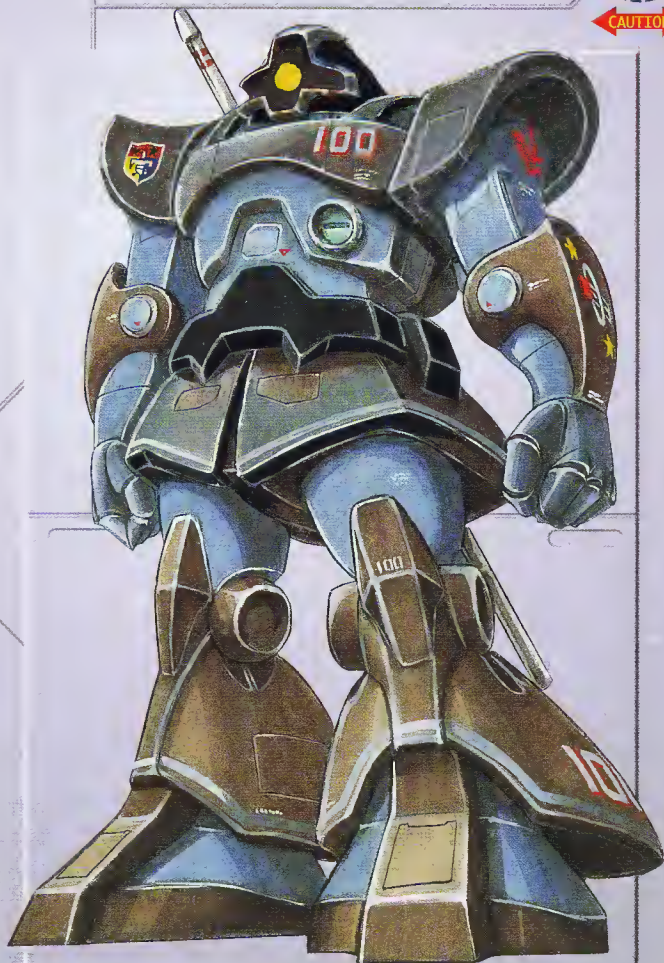
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は特殊戦用機として、兵器開発局の統括の下で極秘に進められていた計画に基づき開発された。当時の資料が散逸してしまった今となれば、この計画が一体いかなるものだったのかは知る由もない。だが機体に関する情報だけは、本機が戦後連邦軍の手によって運用されていたために入手可能である。それらによるとMS-11は、駆動部を磁気で包むことによって摩擦を減少させ、機械的負担を軽くするマグネットコーティングを施されていたらしい。さらにはMS-14と同じく、ビーム兵器の運用も可能だったという。戦後はNT研究所の警備部隊に配備されたので、その姿を確認することも可能である。



RICK-DOM

MS-09R



PRINCIPALITY OF
ZEON

リック・ドム

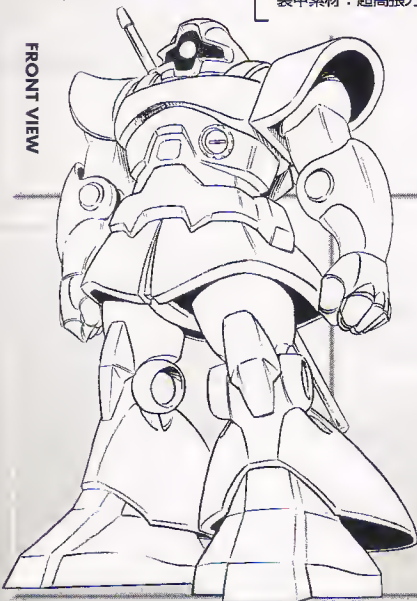
040



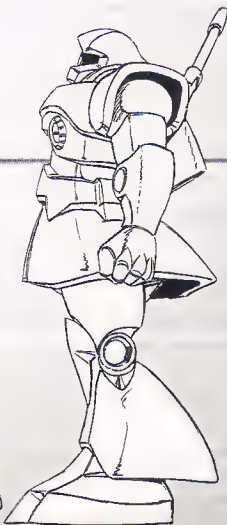
ジオン
公国軍

全高：18.6m
 本体重量：43.8t
 ジェネレータ出力：1199kw
 主スラスター推力：53000kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）

FRONT VIEW

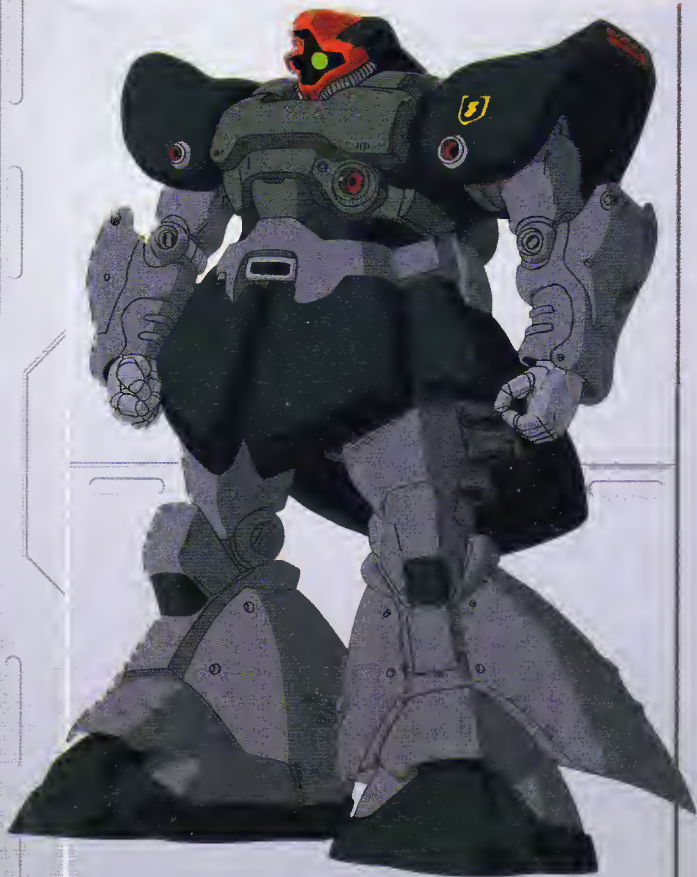


SIDE VIEW



機体解説

遠からずザクⅡに性能の限界が訪れるだろうと予測したジオン軍部は、ジオニック社を始めとする国内兵器メーカーに次世代機開発の要請を行った。各社は競って設計を開始したが、遅々として進まず、軍部はとりあえずその穴を埋めるため、暫定的機種を選択をする。そこでジオニック社の06R-2を退けて採用されたのが、本来は局地戦用MSとして設計された09型の空間戦仕様機R型だった。09型自体、非常に冗長性に富んだ設計であり、わずかな改修で部隊配備が可能なのが大きな魅力だったのである。地上用機体の生産ラインを流用できるため、コストも低く機体の数を揃えやすいという利点もあった。



RICK-DOM II

[MS-09R II]



PRINCIPALITY OF
ZEON

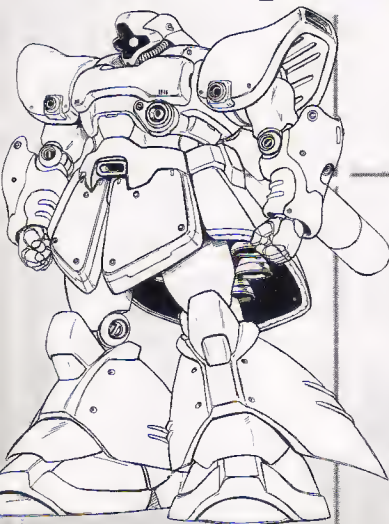
リック・ドムⅡ

041

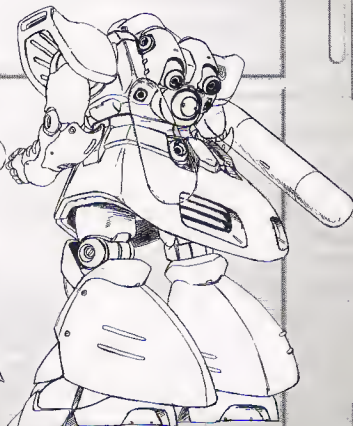


ジオン
公国軍

全高：18.6m
 本体重量：45.6t
 ジェネレータ出力：1219kw
 主スラスター推力：110000kg
 装甲素材：超高張力鋼（チタン・セラミック複合材）
 パイロット：カリウス他



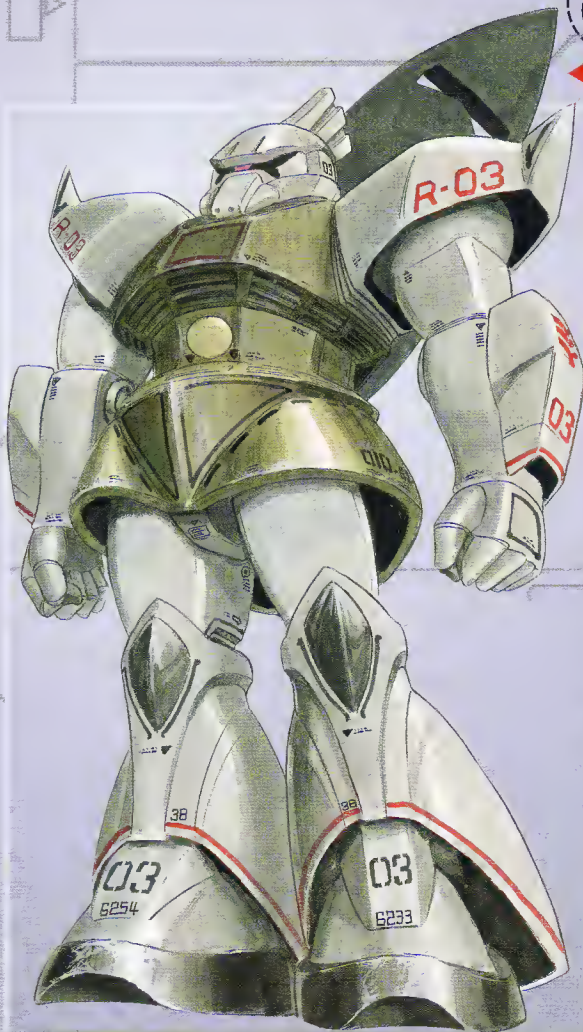
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

新型主力機が配備されるまでの穴埋めとして採用された09Rだったが、期待以上の性能を発揮して多大な戦果を挙げることに成功した。これを受けた軍部はさらなる性能向上を求め、空間戦に特化した改良機の開発をツィマッド社に要請する。こうして生み出されたのが、RⅡ型である。姿勢制御ロケットの増設による運動性と、推進器系冷却機能の向上が最大の改良点であるといえるだろう。この他装甲形状以外に大幅な改良は見受けられないが、本機的设计担当者は「最小の努力によって最大の成果を得る」という、非常に困難な仕事を成し遂げたといえる。だが本機の完成は遅く、戦局に影響を与えることはなかった。



GELGOOG

[MS-14A]



PRINCIPALITY OF
ZEON

ゲルググ

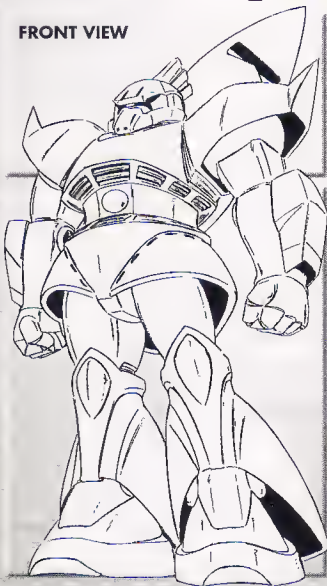
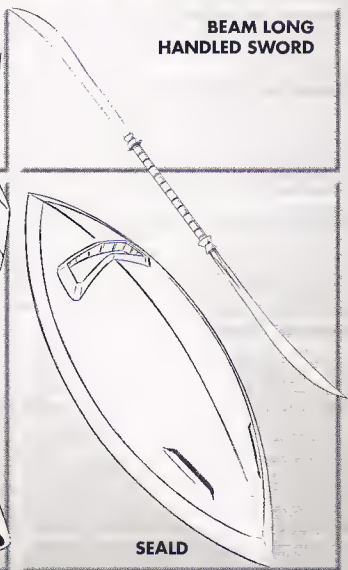
042



ジオン
公国軍

全高：19.2m
 本体重量：42.1t
 ジェネレータ出力：1440kw
 主スラスター推力：61500kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）

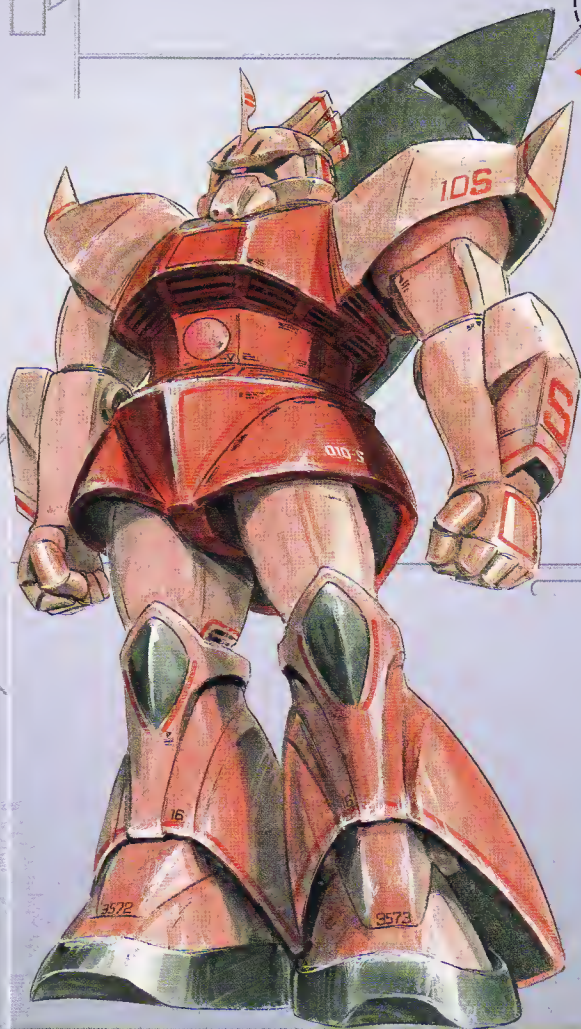
FRONT VIEW

BEAM LONG
HANDLED SWORD

SEALD

機体解説

本機は、旧ジオン軍最後の量産MSである。大戦初期、ザクIIは戦場の女王の座をほしいままにしていたが、用兵関係者は対MS戦における能力不足を早い時期から見抜いていた。つまり連邦軍がMSを実戦投入した場合、練度の点ではともかく、機体性能の面では不利になることが明白だったのだ。この意見を受けた軍部は、対MS戦を前提とした次期主力機の開発を開始する。こうして建造されたのがこのゲルググである。本機最大の特徴は、ビーム兵器の装備を成功させたことだろう。ジオンのビーム兵装に関する技術は連邦軍に対して遅れていたが、兵装を担当したウェポン・システム社の技術陣は一挙にその差を縮めることに成功したのである。



COMMANDER MODEL

MS-14S
GELGOOG



PRINCIPALITY OF
ZEON

指揮官型ゲルググ

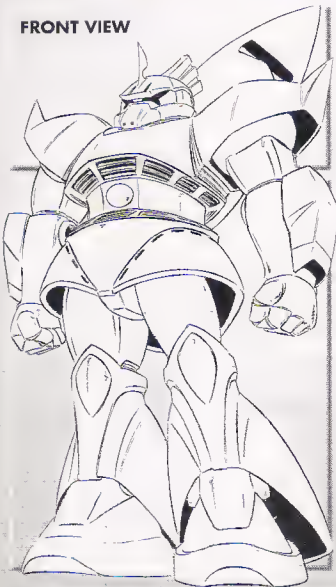
043



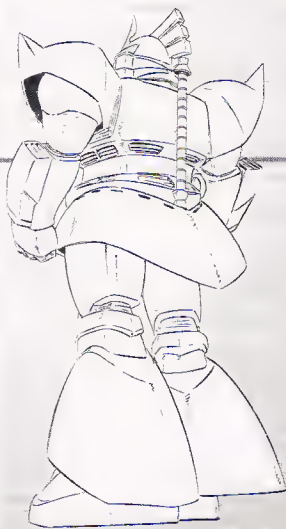
ジオン
公国軍

全高：19.2m
 本体重量：42.1t
 ジェネレータ出力：1440kw
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：シャア・アズナブル他

FRONT VIEW

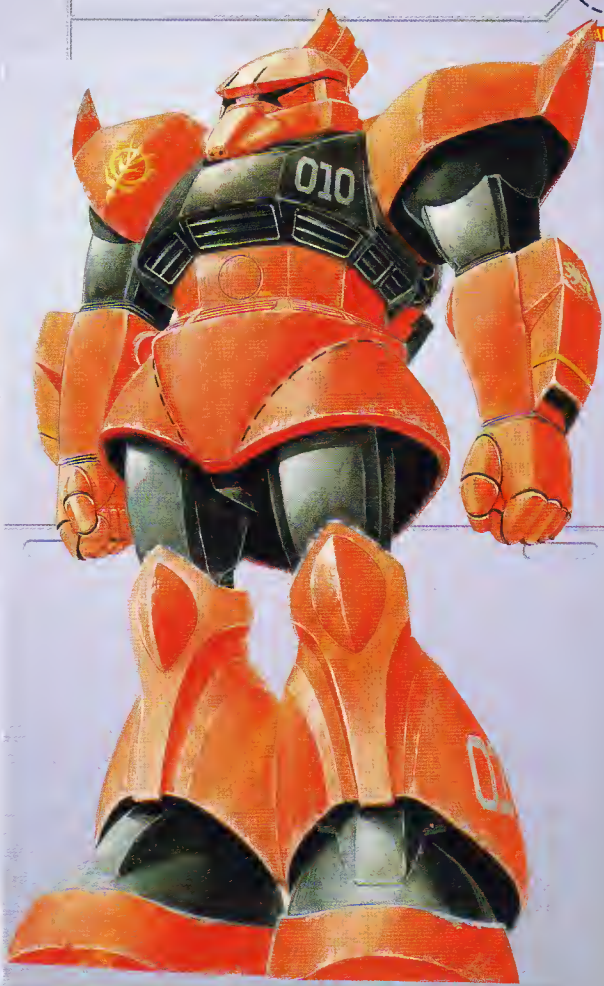


REAR VIEW



機体解説

本機はMS-06シリーズの後継機としてジオン軍の主力機に採用された、MS-14の先行量産機である。S型（初期呼称はYMS-14）は25機ほど生産され、悪化の一途を辿る戦局を挽回するため、各地に配備され実戦に投入された。だが本機にはまだまだ各種調整が必要であり、このことからわかるように、その実態は増加試作機だったのである。これらの機体のうち1機は、シャア・アズナブル大佐が受領した。彼の機体は推進器のみならず、部隊指揮を行う都合上、06S型と同様に通信機器の充実化が図られたという。本機の性能は高く、アムロ少尉（終戦時階級）の戦後の述懐によれば、RX-78-2を中破させた数少ない機体だったとのことである。



HIGH MANEUVER MODEL

[MS-14B
GELGOOG]



PRINCIPALITY OF
ZEON

高機動型ゲルググ

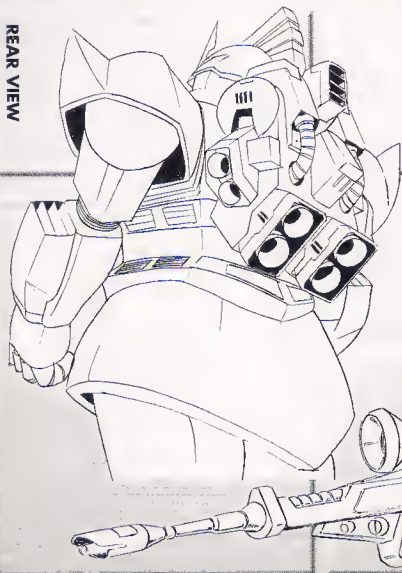
044



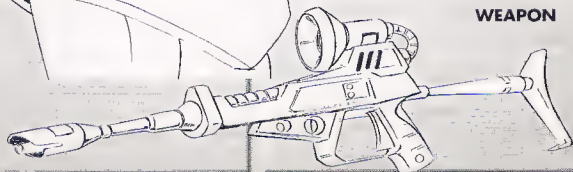
ジオン
公国軍

全高：19.2m
 本体重量：53.5t
 ジェネレータ出力：1440kw
 主スラスター推力：79900kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：ジョニー・ライデン他

REAR VIEW

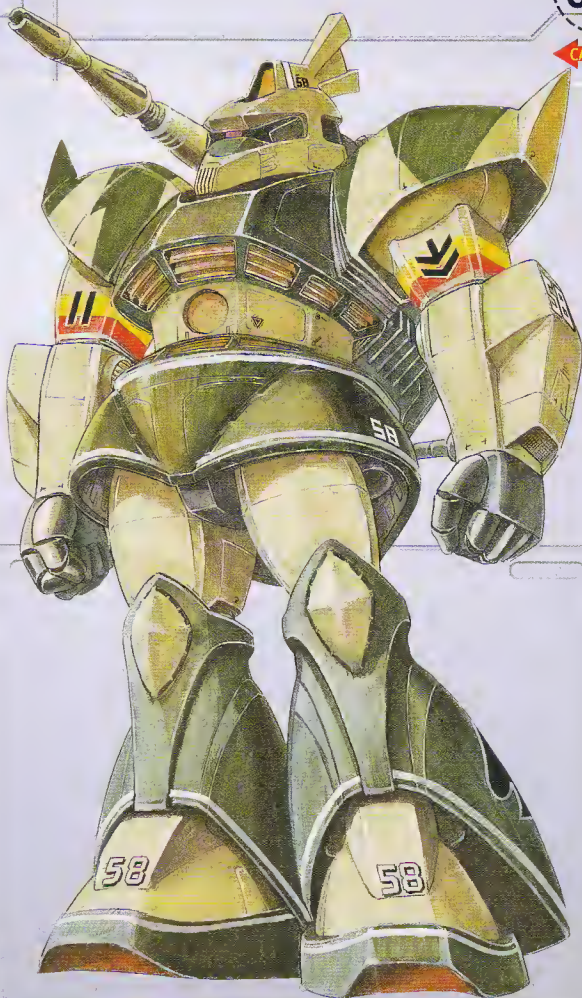


WEAPON



機体解説

ジオン軍は戦局の悪化に伴い、少数精鋭のベテランパイロットたちによる特別選抜隊の編制を計画した。この計画を具現化するために開発されたのが、高機動型と呼ばれるB型である。本機は大推力推進器を背部に搭載しており、ジョニー・ライデンを始めとするパイロットたちは、その加速性能を最大限に生かした戦術を得意としていたという。本機を主力とした選抜隊は、機動巡洋艦キマイラに配属となり、コレヒドール暗礁宙域において慣熟訓練を開始した。だが訓練を終えぬまま、ア・パオア・クー戦に参加、部隊は壊滅状態となり終戦を迎えることになる。そして戦後、共和国軍において同部隊の名は、名誉称号として用いられている。



CANNON MODEL

MS-14C
GELGOOG



PRINCIPALITY OF
ZEON

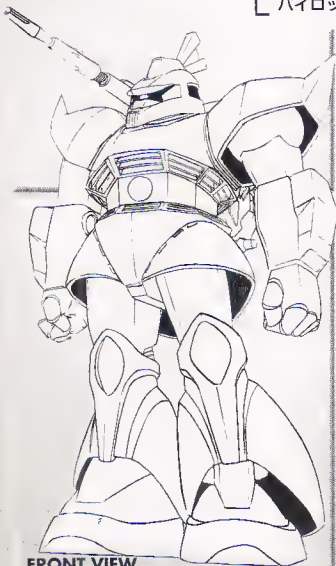
ゲルググ・キャノン

045

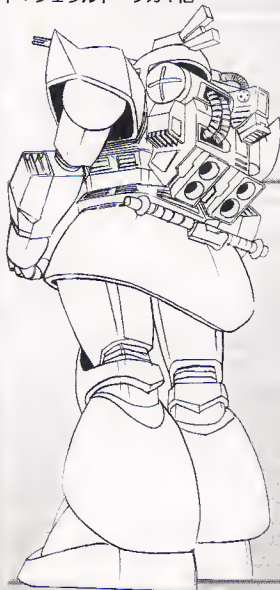


ジオン
公国軍

全高：19.2m
 本体重量：不明
 ジェネレータ出力：1440kw
 主スラスター推力：不明
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：ジェラルド・サカイ他



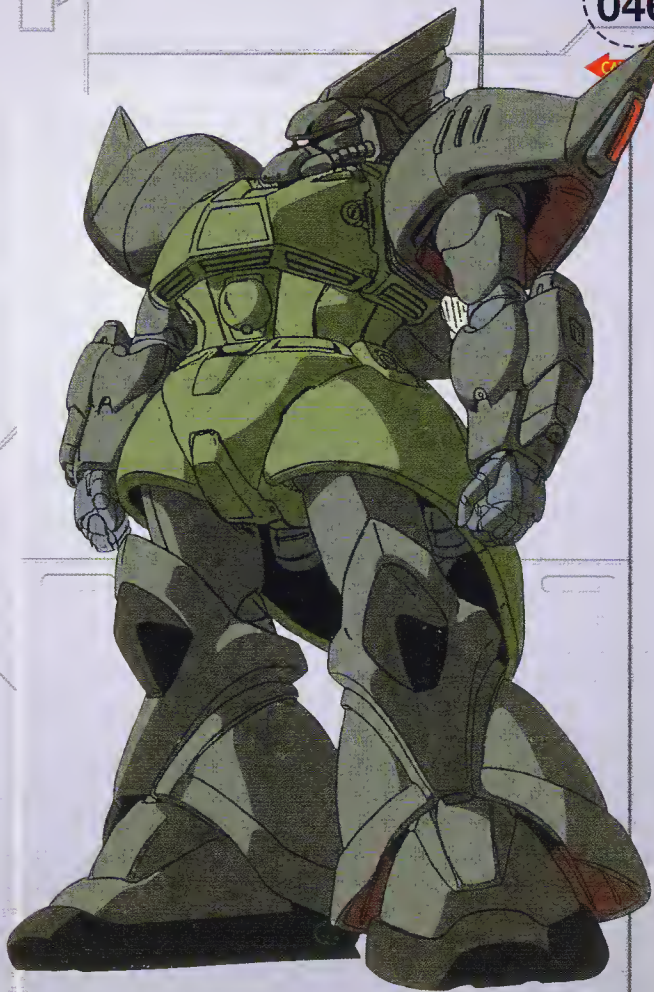
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は敵艦隊へ突撃を敢行する味方部隊を火力支援するために設計・開発されたMSである。大戦初期においてこの任務に当たっていたのは、ムサイ級巡洋艦などのMS母艦であった。しかし機動戦が本格化するにつれ、母艦は被害を避けるために前衛であるMS部隊との距離を置く必要に迫られてしまう。だが突撃には、味方の火力支援が不可欠であることはいうまでもない。MSの戦術研究を主任務としていた機動教導大隊は、この問題をMS自身に大型火器を装備させることによって解決しようと考えたのであった。しかし配備が終戦間際だったため、実戦に参加したC型は、わずか15機にとどまってしまった。



MARINE MODEL

MS-14F
GELGOOG



PRINCIPALITY OF
ZEON

MS-14F

MOBILE SUIT VARIATION

ゲルググ・マリナー

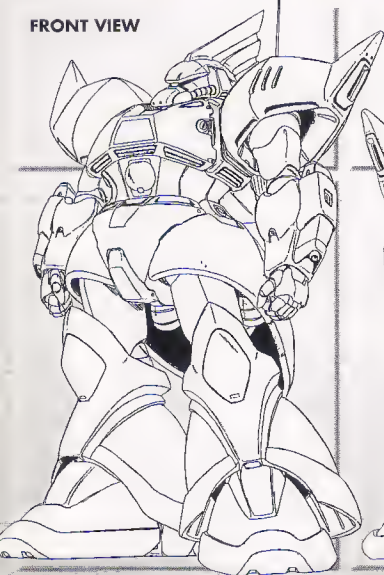
046



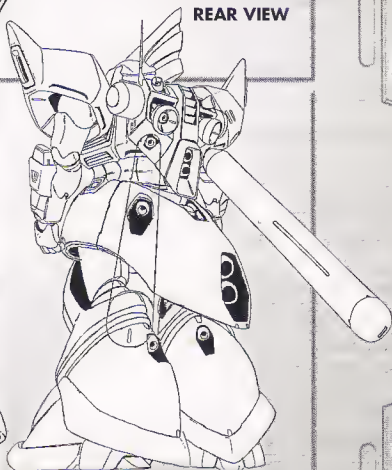
ジオン
公国軍

全高：19.2m
本体重量：45.1t
ジェネレーター出力：1440kw
主スラスター推力：55000kg
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）

FRONT VIEW



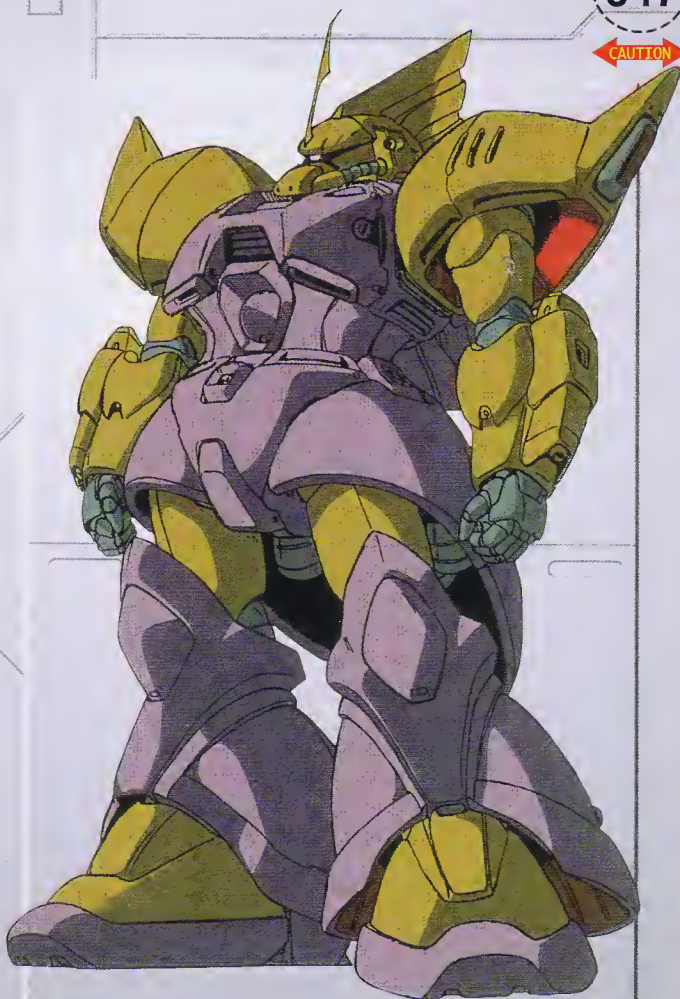
REAR VIEW



機体解説

旧ジオン軍には敵領域への着上陸作戦などを主任務とする、俗に海兵隊と呼ばれる両用戦部隊（MAU）が存在した。彼らの行った任務は大戦緒戦での毒ガス作戦など、後に戦争犯罪として国際軍事法廷からの追及を受けているものが大半だった。そのため、現ジオン共和国ではその名はタブーとなっており、使用された機体に関する情報もまた非常に少ない。映像に残っているのは、大戦末期に配備されたMS-14のF型のみである。本機はA型に続いて最も数多く生産された機種であるが、上記の事情から一般にはあまり知られていない。だが両用戦に最適化した本機の性能は非常に高く、JG型・B型以上の傑作機だという評価もある。

初出：『機動戦士ガンダム0083 スターダスト・メモリー』



MARINE COMMANDER MODEL

MS-14Fs
GELGOOG



PRINCIPALITY OF
ZEON

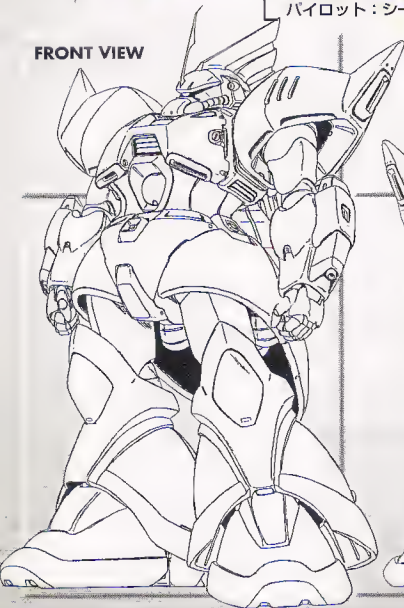
指揮官型ゲルググ・マリーネ 047



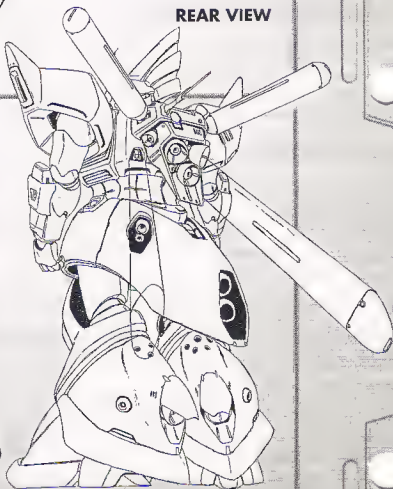
ジオン
公国軍

全高：19.2m
 本体重量：40.5t
 ジェネレータ出力：1490kw
 主スラスター推力：89500kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：シーマ・カラハウ他

FRONT VIEW



REAR VIEW



機体解説

本機はF型を改良した指揮官機である。頭部に40ミリ機関砲や強力な通信機器を装備するなど、いくつかの点で量産機と仕様が異なるが、基本的には全く同一の機体であるといえる。本機の開発は基本型であるA型の設計終了とともに開始された。設計の変更は、驚くべきことにわずか半月という短期間で行われたとされている。当時の軍広報部はこれを「ジオニックマジック」と名付け、戦時美談として国民の戦意高揚に用いた。しかしこのマジックは、開発主任の過労死と引き換えという大きな損失のうえに成り立つものであったことを忘れてはならない。大きな対価を支払ったFs型は海兵専用機として多大な戦果を挙げることに成功したのだった。



JAGER MODEL

[MS-14JG
GELGOOG]



PRINCIPALITY OF
ZEON

ゲルググ・イエーガー

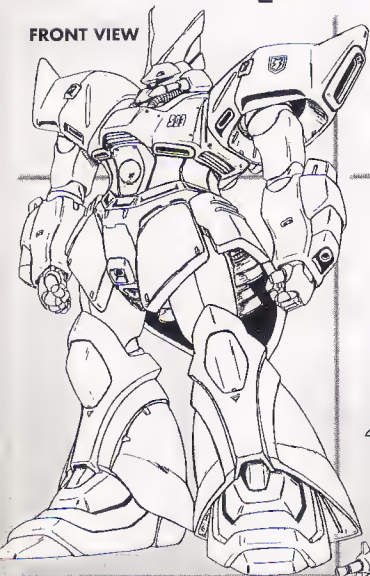
048



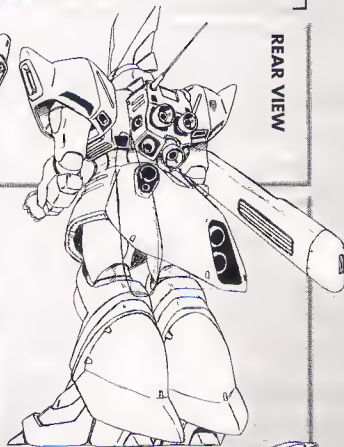
ジオン
公国軍

全高：19.2m
 本体重量：40.5t
 ジェネレータ出力：1490kw
 主スラスター推力：178500kg
 装甲素材：超高張力鋼（チタン・セラミック複合材）

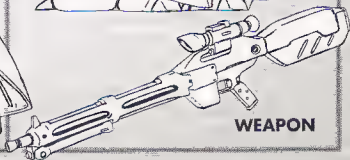
FRONT VIEW



REAR VIEW

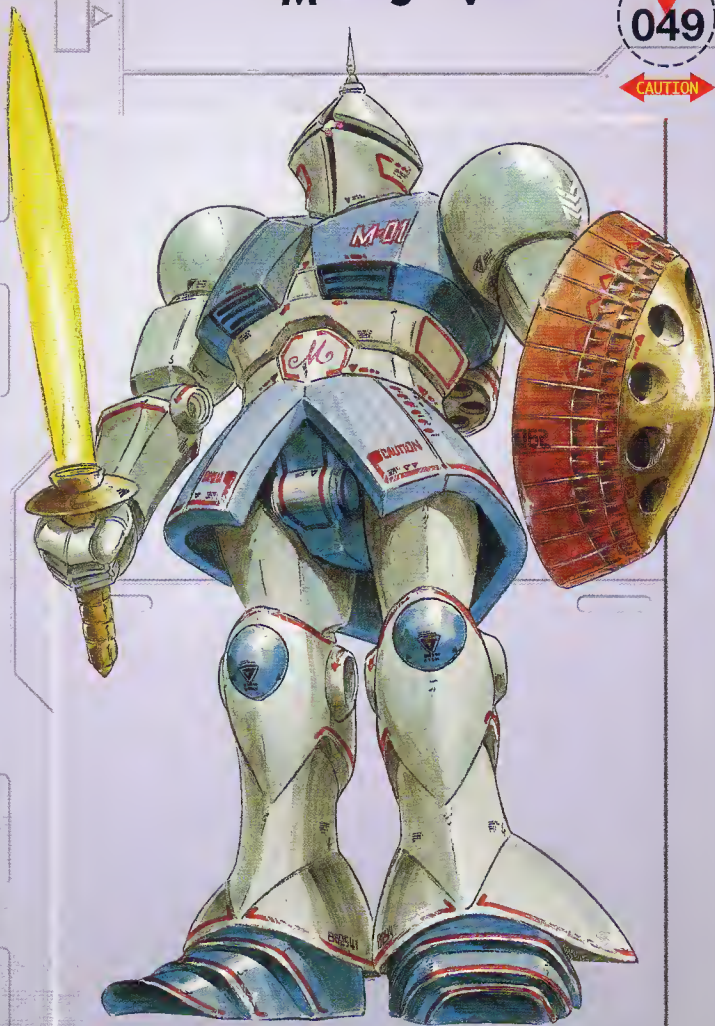


WEAPON



機体解説

本機はF型を原型機として、MSの生産性向上を図った統合整備計画によって生み出されたゲルググシリーズの最後期型である。この機体はA型や海兵用のF型に比べて、非常に高性能な照準装置と火器管制システムを搭載している。主兵装であるビームライフルに搭載されている照準用のアクティブ・レーザー発振器は収束率が高く、それを統御する高品質なインターフェイスと相まって、高精度な遠距離照準と狙撃を可能とした。この狙撃精度は、大戦時のMSの中ではトップクラスであり、本機が戦場の狩人「イエーガー（獵兵）」と呼ばれる理由の一つになっている。高い戦闘力をもった本機も配備に手間取り、少数が実戦参加したにとどまった。



GYANN

[YSM-15]

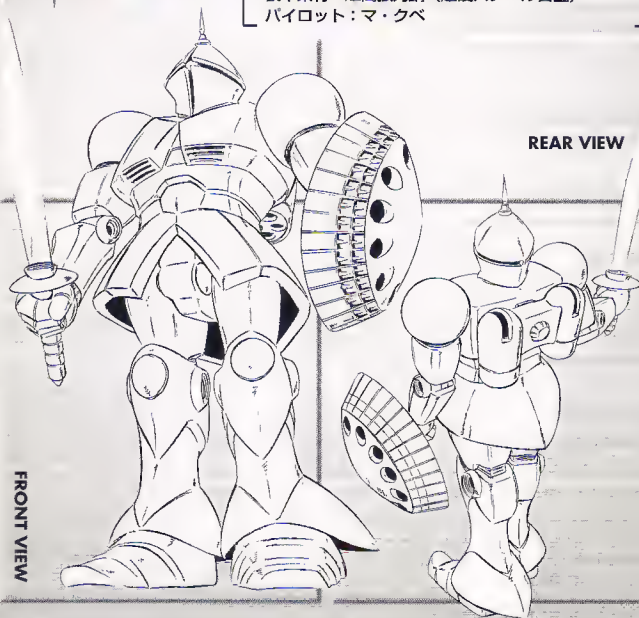


PRINCIPALITY OF
ZEON



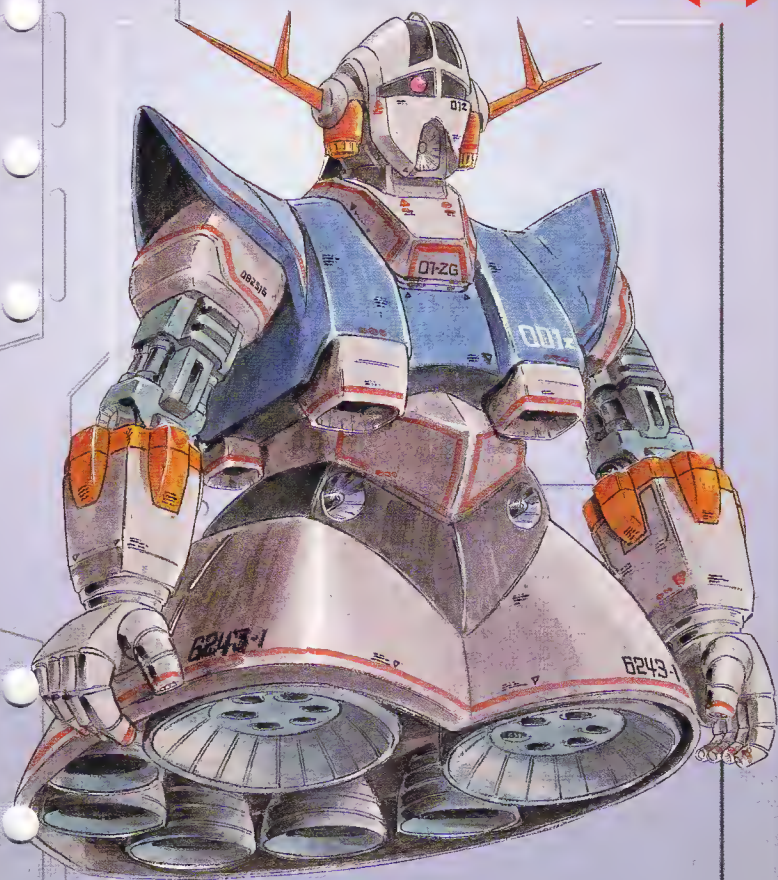
ジオン
公国軍

全高：19.9m
 本体重量：52.7t
 ジェネレーター出力：1360kw
 主スラスター推力：56200kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：マ・クベ



機体解説

本機はMS-14の対抗馬として開発された、近接戦闘に重きを置いたMSである。そのため兵装はビームサーベルと、小型機雷ハイドボンプおよびミサイルを内蔵するウェポン・ラック・シールドのみという、非常に斬新かつシンプルなものになっている。これはMS-09Rといった重武装MSの支援砲撃のもとに敵陣営に対して突入を敢行、大火力の使用できない格闘戦に相手を引きずり込むという戦術思想のもとに設計されたためである。しかしジオン軍は連邦軍と違い、異なる機能を持つMSによる連携攻撃を採用しようとしなかった。このため近接戦に特化した本機は採用を見送られ、結局試作機がわずか3機製作されたのみに終わったのである。



ZEONG

MSN-02



PRINCIPALITY OF
ZEON

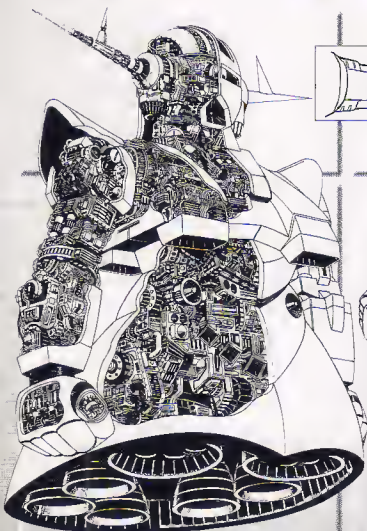
ジオング

050



ジオン
公国軍

全高：17.3m
 本体重量：151.2t
 ジェネレータ出力：9400kw
 主スラスター推力：187000kg
 装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
 パイロット：シャア・アズナブル



MECHANICS VIEW



WEAPON



REAR VIEW

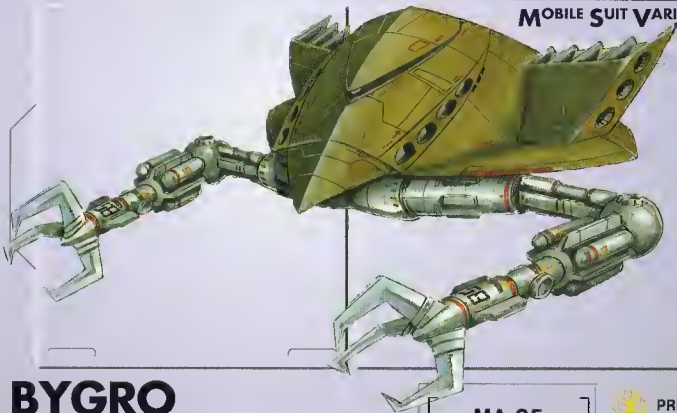
機体解説

本機はジオン軍初のNT用MSであり、最後の実戦投入MSである。この機体の来歴は特異なもので、設計段階において仕様の一部を変更し建造されたと記録されている。つまり記録写真に残っているその姿は本来のものでないのだ。関係者の証言によれば本機はア・バオア・クーでの決戦に間に合わせるため脚部をオミットし、航行方法をロケット推進器のみとしたのだという。この命令がどこから発せられたかは、現時点では明確にされていない。だがこの機体の戦闘力の高さは驚くべきもので、未完成状態にも拘らず、その最大の武器であるNT用兵装、有線式サイコミュシステムによって、わずか数分で2隻以上の連邦軍艦艇を轟沈している。

MOBILE SUIT VARIATION

051

CAUTION



BYGRO

MA-05



PRINCIPALITY OF
ZEON

MA-05 ビグロ

MOBILE SUIT VARIATION

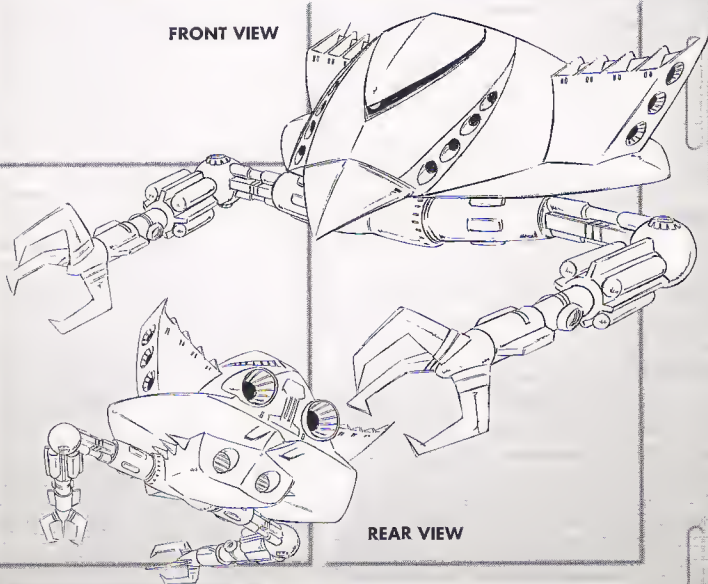
051



ジオン
公国軍

全高：45.5m
本体重量：125.5t
ジェネレーター出力：17800kw
主スラスター推力：136100kg
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
パイロット：トクワン他

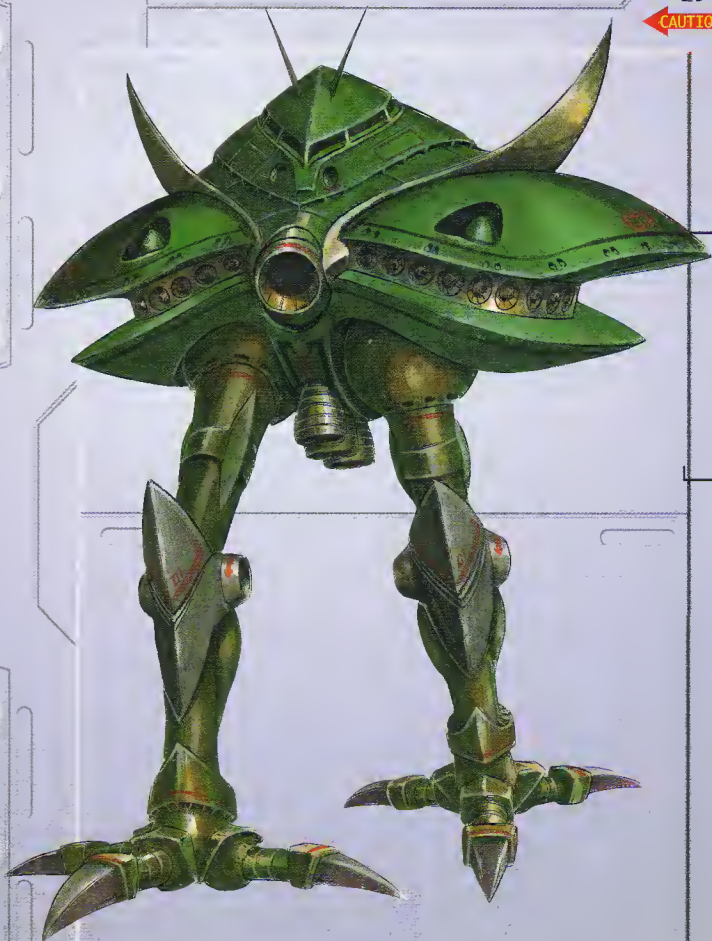
FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機はかつてザクIの原型機となったZI-XA3と制式採用試験において争った、MIP社のMIP-X1を祖としている。MIP-X1はその汎用性においてはジオニック社のZI-XA3に及ばなかったものの、大加速を用いた一撃離脱の高速戦闘では遥かに高性能だった。これに着目した軍部はMSに続く次世代の兵器として、MAの開発を開始したのである。MA-05はその唯一の実戦配備機である。記録によれば、少数ではあるが確かにア・バオア・クー戦に3個小隊ほどの戦力が参加したとされている。武装としてマニピュレーターを兼ねた打撃戦用のクローアーム、機首のメガ粒子砲1門と、機体上部左右にミサイルランチャーを4基ずつ装備している。



BYG ZAM

MA-08



PRINCIPALITY OF
ZEON

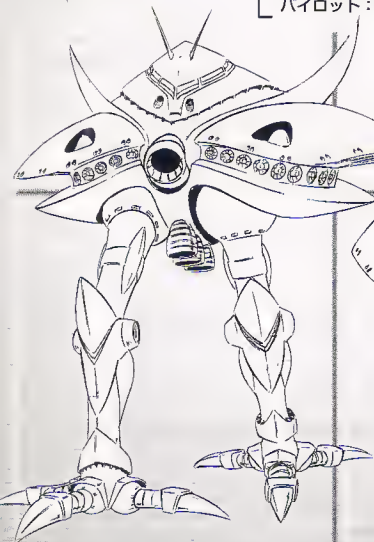
ビグ・ザム

052

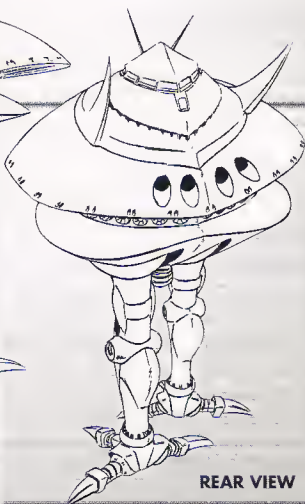


ジオン
公国軍

全高：59.6m
本体重量：1021.2t
ジェネレータ出力：140000kw
主スラスター推力：580000kg
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
パイロット：ドズル・ザビ他



FRONT VIEW



REAR VIEW

機体解説

本機は史上初めてミノフスキー物理学を応用した対ビーム障壁である「フィールド発生装置」を装備した機動兵器である。これによってMA-08はメガ粒子砲などの光学兵器の無力化に成功し、絶大な防御力を持つことに成功したのだ。事実、本機が実戦に参加したソロモン戦では、フィールドによって連邦軍艦艇のビーム攻撃をことごとく無力化したと記録されている。さらに機体各部には高出力のメガ粒子砲を多数装備し、比類なき攻撃力を誇った。連邦国防省戦史研究所の発表によれば驚くべきことに、同攻防戦において連邦艦隊は、わずか1機のMA-08によって戦艦4隻、巡洋艦8隻撃沈、MS撃破多数という、信じがたい大損害を被ったとされている。

MOBILE SUIT VARIATION

053

CAUTION



BRAW BRO

MAN-03



PRINCIPALITY OF
ZEON

ブラウ・ブロ

053



ジオン
公国軍

全高：60.2m

本体重量：1735.3t

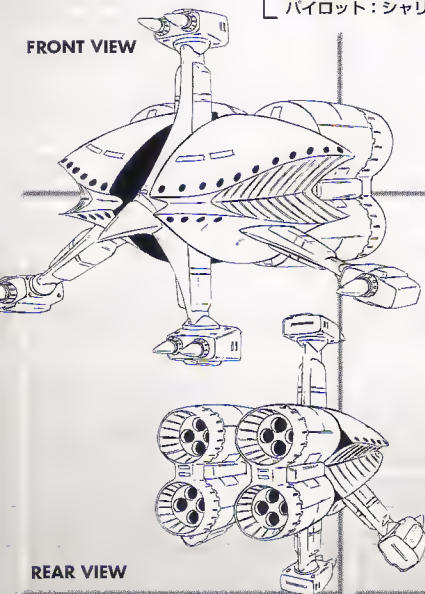
ジェネレータ出力：74000kw

主スラスター推力：1760000kg

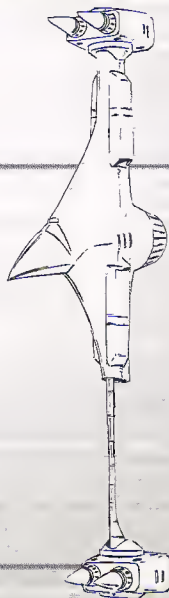
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）

パイロット：シャリア・ブル他

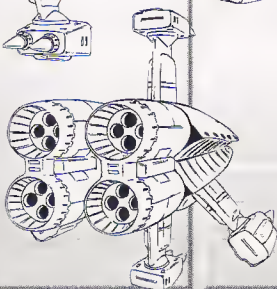
FRONT VIEW



COCKPIT VIEW



REAR VIEW



機体解説

公国軍総帥府は、劣勢の戦況を覆すためにフラナガン博士の提唱するNT理論を応用した新兵器の投入を決定した。それが0079年秋頃から突撃機動軍を中心に開発が進められていた、サイコミュシステムである。本機はその攻撃システムを搭載した、最初の機動兵器である。だが試作機を表すXナンバー登録をされていないだけで、実際はシステムの運用を試験するためのテストベッド機というべきだろう。機体中央から延びた4本のアームの先端に装備されているのが有線誘導式メガ粒子砲であり、これで敵を包囲撃墜しようというのが、そのコンセプトである。本機は連邦軍との交戦で喪失したが、そのデータは後のジオングにフィードバックされた。

初出：機動戦士ガンダム

MOBILE SUIT VARIATION

054

CAUTION



ELMETH

MAN-08



PRINCIPALITY OF
ZEON

MAN-08 エルメス

MOBILE SUIT VARIATION

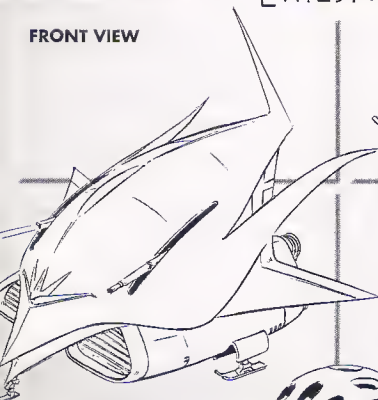
054



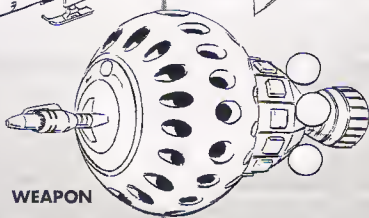
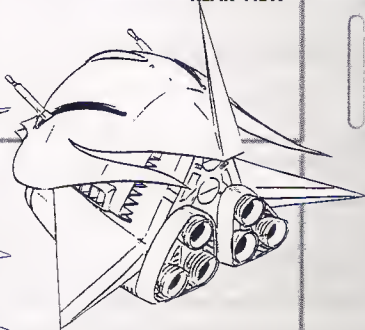
ジオン
公国軍

全高：85.4m
本体重量：163.7t
ジェネレータ出力：14200kw
主スラスター推力：645200kg
装甲素材：超高張力鋼（超硬スチール合金）
パイロット：ララァ・スン

FRONT VIEW



REAR VIEW



WEAPON

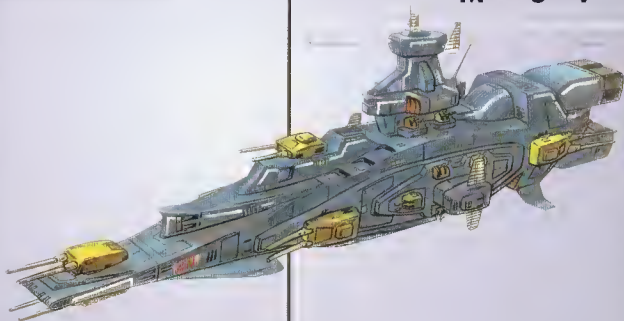
機体解説

エルメスは連邦将兵から「ソロモンの亡霊」と恐れられた、初の実戦型NT用MAである。だが本機に関する詳細な情報は、戦後の混乱で失われたと考えられてきた。パイロットであるララァ・スン少尉の個人情報についても同様で、研究家の中にはその実在を疑う者さえいたという。今回明らかになったのは機体スベックのみであるが、本機の特異性を知るには充分である。この機体の最も恐るべき部分は、NTという特殊能力者を用いることによって、ミノフスキー粒子散布下での長距離遠隔攻撃を可能としたことである。本機はビットと呼ばれる攻撃子機を操ることによって、ブラウ・プロで試されたサイコミュを完成の域にまで押し上げたのだ。

MOBILE SUIT VARIATION

055

CAUTION



RUZAL

[MAGELLANCLASS
SPACE BATTLE SHIP]



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

ルザル

(艦籍番号: SBB-17)

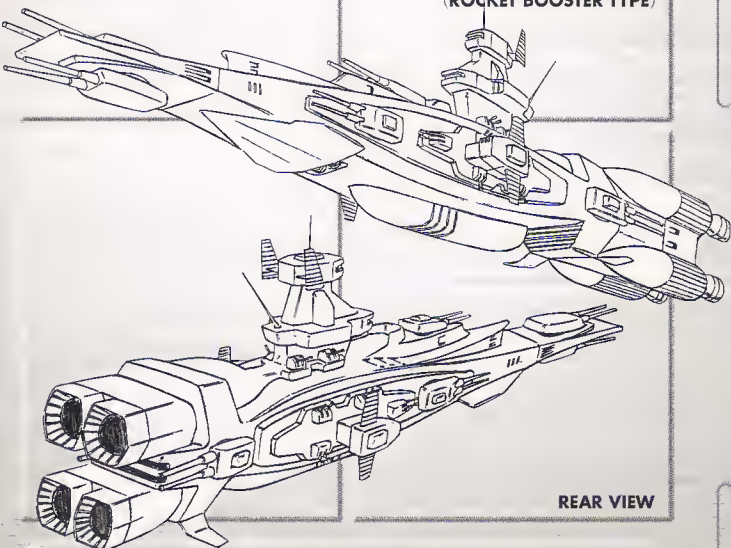
055



地球連邦
宇宙軍

兵装: 連装式通常型メガ粒子砲
(第1次近代化改装工事以前は、
実体弾用主砲を搭載)
砲塔7基 (内5基は副砲)
連装式重機関砲2基
連装式機関砲12基

FRONT VIEW
(ROCKET BOOSTER TYPE)



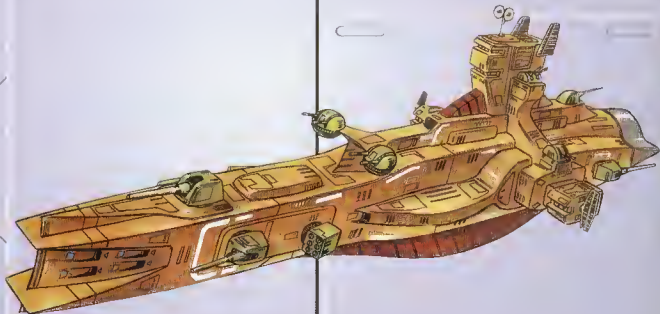
REAR VIEW

艦解説

マゼラン級と呼ばれるこの戦艦は、連邦宇宙艦隊の中核をなす戦闘艦である。本級はジオン・ズム・ダイクン政権下の共和国との冷戦の最中に計画され、デギン・ソド・ザビの公国との戦争に備えて建造された。これ以前の連邦の戦闘艦は対艦戦闘を考慮しておらず、その実相はフリゲート艦と呼ぶべきものだった。だがサイド3との関係悪化に伴い、連邦軍は敵艦および敵船団への攻撃を考えなくてはならない事態に追い込まれていったのである。そこで本級が、史上初めて対艦戦闘を念頭に置いて設計された。だが当時としては破格の装甲と武装を誇ったマゼラン級も、MSの出現によって戦場の女王の座から降りることを余儀なくされたのであった。

MOBILE SUIT VARIATION

056



SPACE CRUISER

SALAMIS
CLASS



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

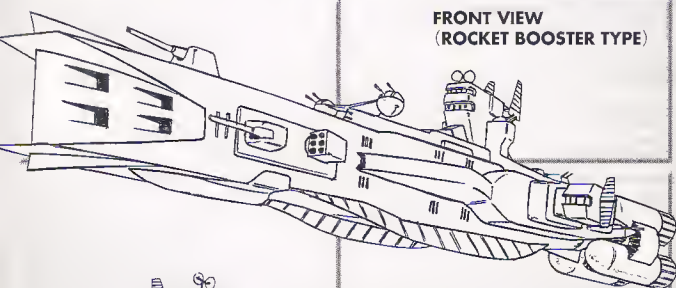
サラミス級宇宙巡洋艦

056

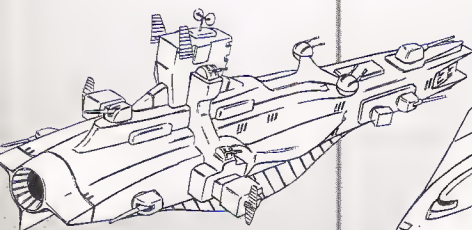


ち せやうれんぽう
地球連邦
う ちゅうぐん
宇宙軍

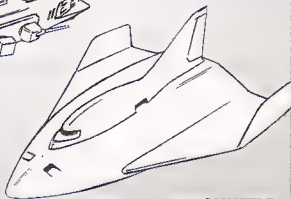
ぜんちよう 187m
ぜんこう 50m
ぜんぷく 68m
どうりきようしき 核融合ロケット
しんすいりき 主推力: 8900kg



FRONT VIEW
(ROCKET BOOSTER TYPE)



REAR VIEW



SHUTTLE

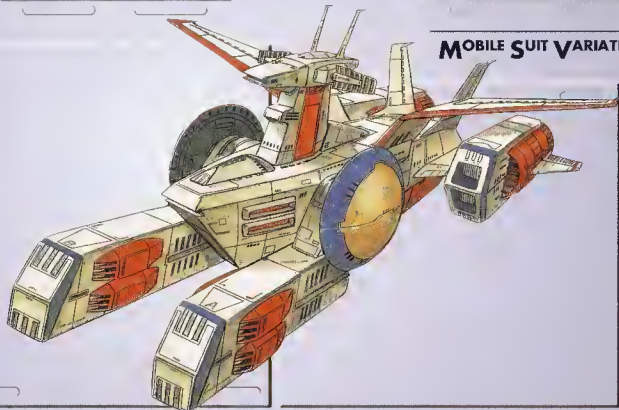
艦解説

サラミス級宇宙巡洋艦は、マゼラン級戦艦と同じく、70年代軍備増強計画によって設計されたマルチパーパス艦である。主武装としてメガ粒子砲（初期は、液体火薬式実体弾砲）を6門装備しており、高い加速力と併せて宇宙艦隊の打撃戦力として運用された。MSが登場した後も本級の重要性に変わりはなく、大戦後期には（多分に応急処置的ではあるが）MS搭載機能を備えたタイプ（航空型）も建造され、多くの戦闘に参加した。本級には遠距離探索レーダーを装備した偵察型、ミサイルを主武装とした重雷装型など、装備の異なるタイプが存在している。これらは戦前に建造されたもので、戦中のものでは、艦隊防空の担い手として知られる防空型などがある。

MOBILE SUIT VARIATION

057

CAUTION



WHITE BASE

PEGASUS CLASS
LMSD

LMSD=LANDING
MOBILE SUIT DECK



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

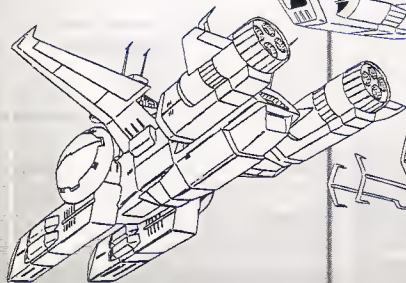
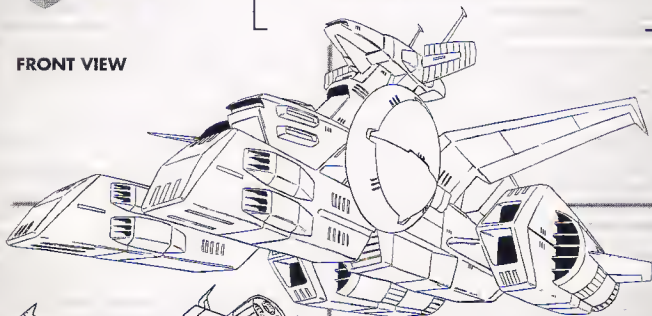
ペガサス級強襲揚陸艦

ホワイトベース (艦籍番号: LMSD-71)

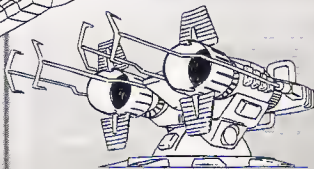
057

地球連邦
宇宙軍主兵装：実体弾式連装主砲1基
連装式偏向型メガ粒子砲砲塔2基

FRONT VIEW



REAR VIEW



WEAPONS

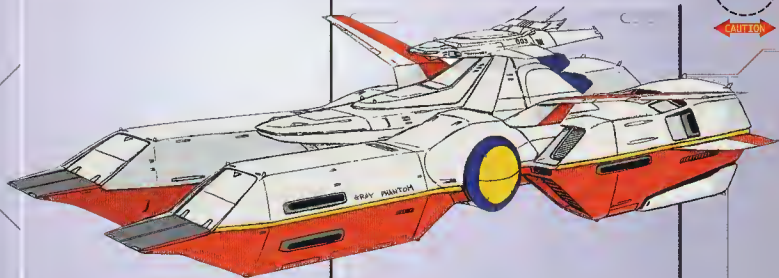
艦解説

ホワイトベースは、連邦軍としては初めての、MS運用を前提に設計された戦闘艦である。艦体構造は完全にブロック化されており、ダメージコントロールに優れている。事実、ア・バオア・クー攻略戦では機関部が爆破したものの、艦長の適切な対応（機関部の切り離し）によって無事要塞に着底し、攻略戦を戦い抜いている。艦体前部に延びている密閉型のMSデッキにはカタバルトが装備されており、これによって搭載MSの迅速な展開が可能になっている。これは後の連邦艦艇に大きな影響を与えており、サラミス改級巡洋艦を始めとして、クラップ級巡洋艦やラー・カイラム級戦艦といった、多くの艦の前部カタバルト設計の原型といわれている。

MOBILE SUIT VARIATION

058

CAUTION



GRAY PHANTOM

PEGASUS CLASS
LMSD

④LMSD=LANDING
MOBILE SUIT DECK



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

モビルスーツバリエーション
ペガサス級強襲揚陸艦

MOBILE SUIT VARIATION

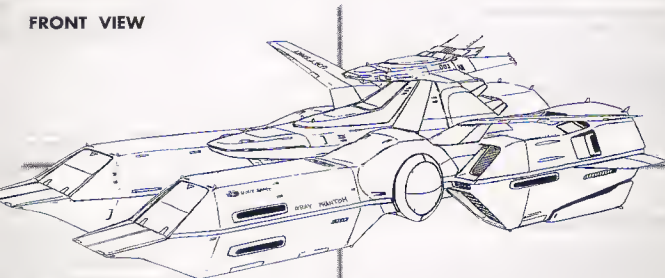
グレイファントム (艦籍番号: LMSD-76)

058

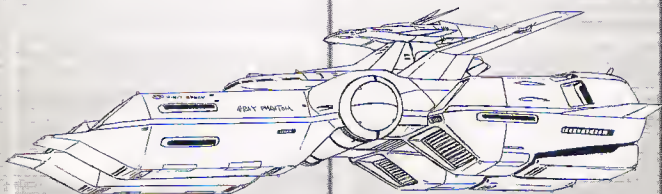
ちきゅうれんぱう
地球連邦
うちゅうぐん
宇宙軍

しんべいそう じつたいだんしき じつたいだんしき
主兵装: 実体弾式連装主砲1基
れんざいしき へんこうがた メガ粒子砲塔2基
連装式偏向型メガ粒子砲塔2基

FRONT VIEW



REAR VIEW



艦解説

グレイファントムは、ペガサス級5番艦として就役した艦である。本級は、計画順では1番艦がペガサス、2番艦がホワイトベースの順で竣工するはずだった。だが機関部に問題が発生、設計変更を余儀なくされた。しかし1番艦はすでに起工しているため作業の手間がかかり、結果として2番艦の方が先に就役してしまったのである。この機関部の問題は実はホワイトベースに至っても解決されておらず、作戦行動中に機関出力が大きく低下するという事態を引き起こしてしまった。このため4番艦からは、機関部の設計を全面的に変更、こうして艦自体の印象が、大きく変わったのである。本艦は大戦を生き延びるものの、後の紛争で戦没してしまった。

MOBILE SUIT VARIATION

059

CAUTION



CAMEL

**MUSAI CLASS
LIGHTCRUISER**



**PRINCIPALITY OF
ZEON**

ムサイ級軽巡洋艦

キャメル

ハルナンバー
(艦籍番号: CC-45)

059

ジオン
公国軍

艦全長: 234m

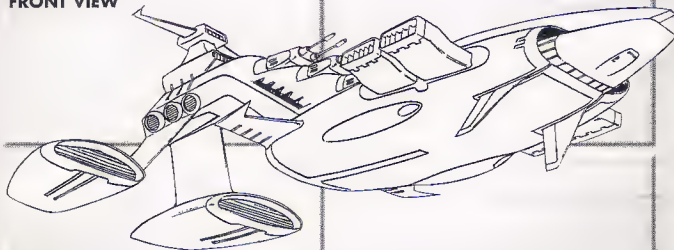
全高: 62m

全幅: 140m

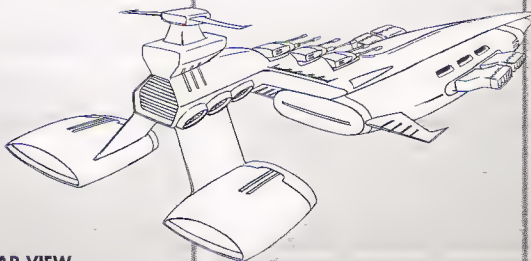
動力方式: ミノフスキー型熱制限核融合ロケット

主推力: 16400kg

FRONT VIEW



REAR VIEW



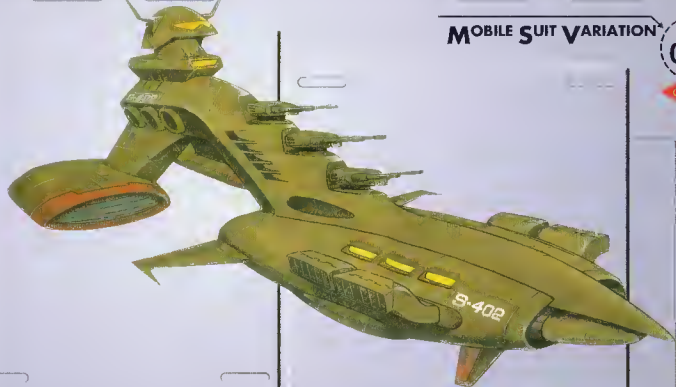
艦解説

本艦は、公国艦隊の主力を担うムサイ級巡洋艦の一隻である。ムサイ級は、連邦との間で締結された宇宙艦艇制限条約を受けて計画された、3号建艦計画によって生みだされた。本級は表向きには条約型であるが、実際は光学兵器に関する条約の不備（当時は実体弾砲が主力だった）を働き、連邦に先駆けてビーム砲を採用し攻撃力の向上を計った有力な艦なのである。さらにMS 1 個小隊の搭載が可能で、その攻撃力は戦艦以上だといえた。だが軍には本級を、打撃兵力として運用するつもりはなかった。この艦の真価は、連邦の交通線破壊でこそ発揮されると考えていたのだ。事実この読みは図に当たり連邦はジオンの交通破壊戦に悩まされるのである。

MOBILE SUIT VARIATION

060

CAUTION



FALMEL

MUSAI CLASS LIGHT CRUISER
FLAG SHIP MODEL



PRINCIPALITY OF
ZEON

ファルメル

(艦籍番号: CC-102)

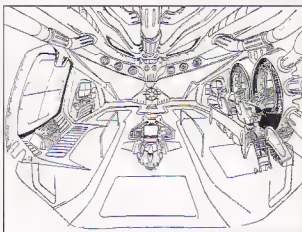
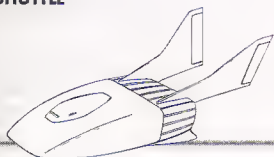
060



ジオン
公国軍

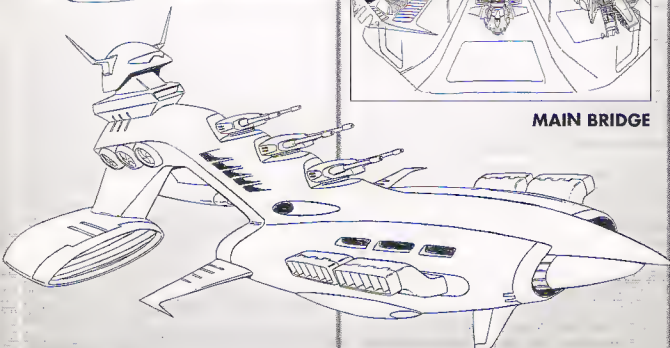
全長: 234m
全高: 65m
全幅: 140m
動力方式: ミノフスキー型熱制限核融合ロケット
主推力: 16400kg

SHUTTLE



MAIN BRIDGE

FRONT VIEW



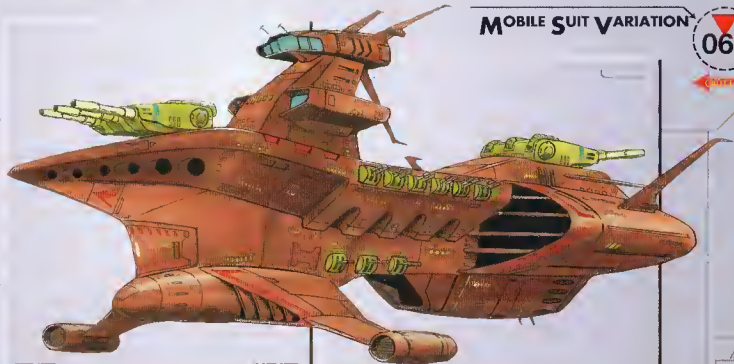
艦解説

本艦は「赤い彗星」シャア・アズナブルの乗艦として知られる、旗艦型軽巡洋艦である。ムサイ級は長大な航続力を持つ侵攻型戦闘艦として建造され、砲雷兵装とMS搭載の両立を果たした。そのため戦隊規模での独立行動が多く、指揮設備と大航続力を持つ艦隊旗艦が望まれるようになった。これを受けてチベ級重巡洋艦の整備が急ピッチで進められていたが、充足率を満たすまでには程遠いというのが実情であった。こうした状況を背景に、暫定的処置として建造されたのが、本艦を始めとする旗艦型軽巡洋艦である。通常型との違いは、司令部要員のスペース確保のため、艦橋を大型の3層構造とし、強力な通信装備を整えた点だろう。

MOBILE SUIT VARIATION

061

CAUTION



HEAVY CRUSER

CHIVVAY
CLASS



PRINCIPALITY OF
ZEON

チベ級重巡洋艦

061



ジオン
公国軍

全長: 266m

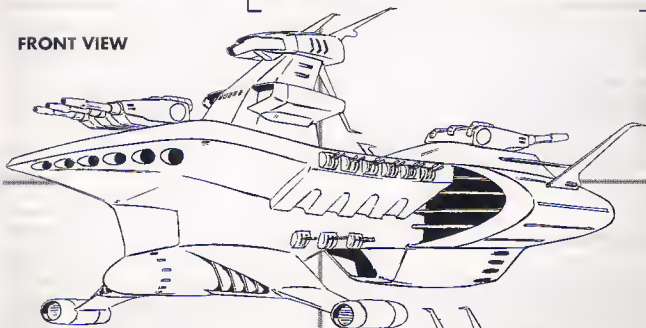
全高: 119m

全幅: 129m

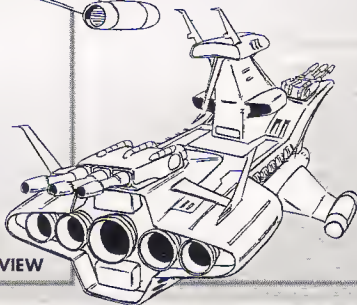
動力方式: ミノフスキー型熱制限核融合ロケット

主推力: 30590kg

FRONT VIEW



REAR VIEW



艦解説

本級は、ジオン・ズム・ダイクンによる革命を支援するサイド3軍管区の革命派将校団が中心となって進めた建造計画によって生みだされた、世界初の対艦戦闘を考慮したチベ級戦艦を原型としている。本級の就役は連邦宇宙軍を震撼させ、後に彼らが本級に対抗すべく、マゼラン級戦艦やサラミス級巡洋艦を建造する遠因となった。本級の艦種は最初、戦艦だったが、国家体制が公国制に移行し、新型艦艇の就役に伴う等級変更によって、重巡洋艦に変わった。同時に近代化改装が施され主砲を連装式360ミリ砲から3連装式メガ粒子砲に換装、さらにMS搭載機能を付与された。こうしてチベ級は、ジオンの強大な打撃兵力として、数多く就役したのである。

MOBILE SUIT VARIATION

062

COMBOON



ZAMZIBAR

**MANEUVER
CRUISER**



**PRINCIPALITY OF
ZEON**

ガンジバル

(機体番号：CCM-80)

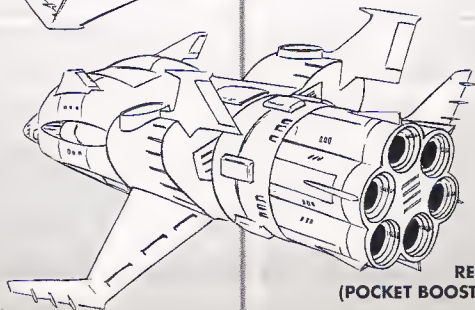
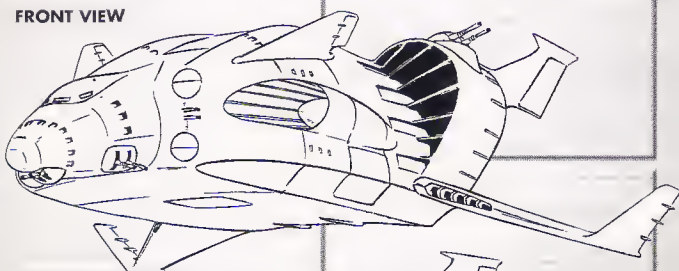
062



ジオン
公国軍

兵装：偏向型メガ粒子砲塔4基
美体弾式連装砲1基
連装式重機関砲5基

FRONT VIEW



REAR VIEW
(POCKET BOOSTER TYPE)

艦解説

ガンジバル級機動巡洋艦は、来るべき地球本土侵攻を睨んで建造された大気圏内航行の可能な宇宙戦闘艦である。艦体はリフティング・ボディ形態を採用しており、パリュートなしで大気圏を突破することが可能な高性能艦として設計されている。武装は艦首にメガ粒子砲が4門、艦体各部に連装式の近接防御用機関砲を備えている。これは本艦が対艦戦闘だけでなく、MSを使った機動戦闘にも対応しているためである。いうなれば連邦宇宙軍における強襲揚陸艦のMS運用重視の設計思想を、さらに特化させたものだといえよう。ちなみにジオン軍では、宇宙・大気圏内の両域で運用できる機体や艦の種別に「機動」という単語を冠する慣例をもつ。

MOBILE SUIT VARIATION

063

CAUTION



LILI MARLEEN

ZANZIBAR CLASS
MANEUVER CRUISER



PRINCIPALITY OF
ZEON

ザンジバル級機動巡洋艦

MOBILE SUIT VARIATION

リリー・マルレーン

(艦籍番号：CCM-87)

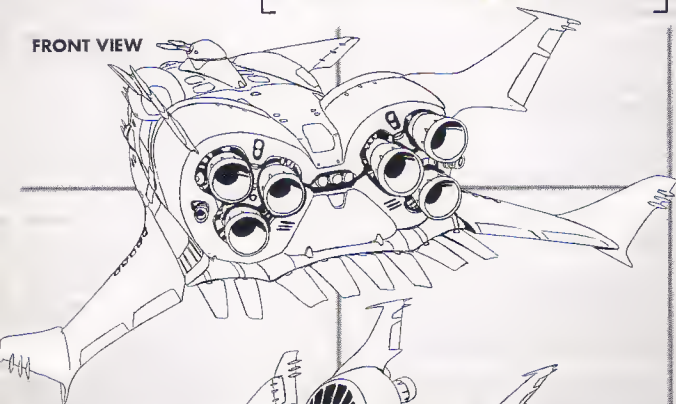
063



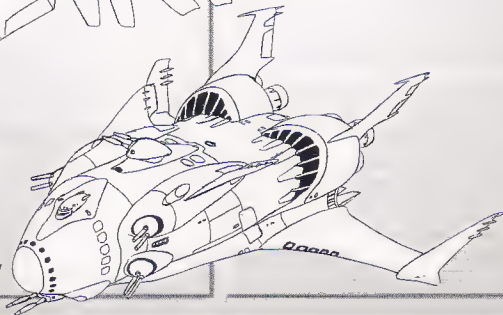
ジオン
公国軍

全長：255m
全高：120m
全幅：223m
動力方式：ミノフスキー型熱制限核融合ロケット

FRONT VIEW



REAR VIEW



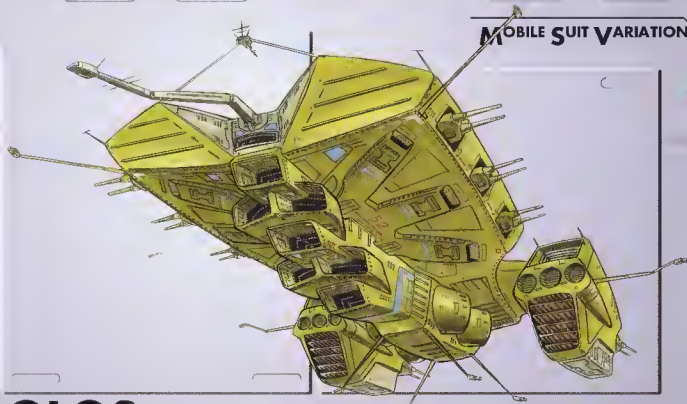
艦解説

大戦前に建造された、ザンジバル級機動巡洋艦の一隻。単艦による交通破壊戦を前提に建造されたため、ネームシップであるザンジバルに比べて非常に重武装化されている。さらにMSも6機という、ムサイ級2隻に匹敵する2個小隊規模の兵力が搭載可能である。本艦は突撃機動軍において編制された、シーマ海兵上陸戦闘部隊 (MAU "CIMA") の母艦として、各地を転戦したと伝えられている。だが、同部隊は戦後、大戦中に行った数々の虐殺作戦について追及を受け、B級戦争犯罪容疑者として国際軍事法廷から追跡されているという。このため、艦の詳細な情報ばかりか、部隊の戦歴さえもが、未だに明らかにされていない。

MOBILE SUIT VARIATION

064

CAUTION



DOLOS

**MOBILE SUIT
CARRIER**



**PRINCIPALITY OF
ZEON**

ドロス

(艦籍番号: CV-65)

064



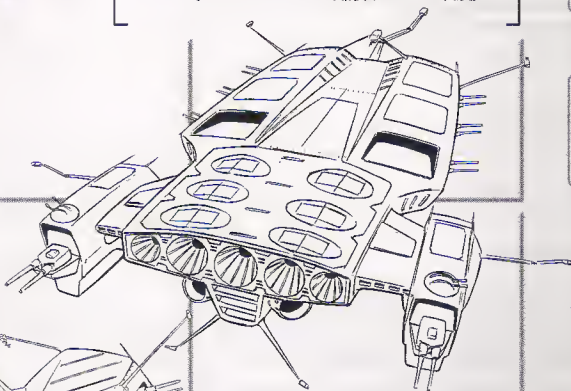
ジオン
公国軍

全長: 495m

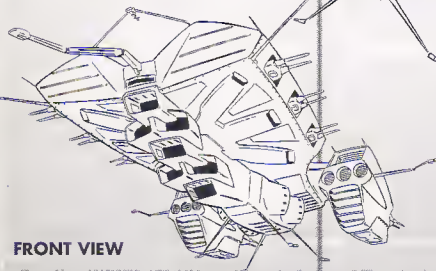
動力方式: ミノフスキー型熱制限核融合ロケット

姉妹艦: ドロフ

(ア・バオア・クー攻防戦において戦没)



REAR VIEW



FRONT VIEW

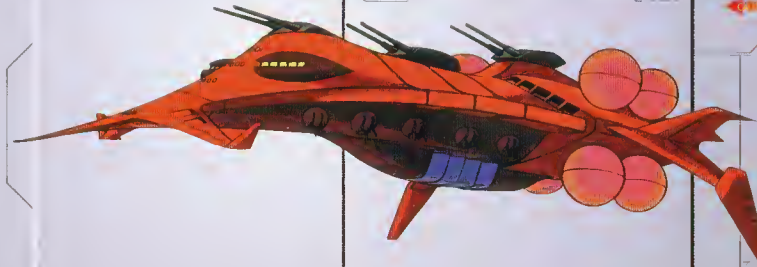
艦解説

ジオン軍が満を持して建造した、MSを100機以上搭載可能な巨大空母。だが主推進器の選定を誤ってしまい、加速性能は計画時の比推力を大幅に下回ってしまった。これは本艦の装甲厚が、主推進器選定の後に変更されたため、比推力に問題が生じたのである。このためドロスは空母に必要な加速性能を得ることが出来ない中途半端な艦となり、同艦を中核にした機動部隊構想も消し飛んでしまった。だが、その重装甲と空母に似つかわしくない大火力は、本艦を小型の要塞とした。つまり、敵を邀撃するためのMS部隊のプラットホームとしてなら、とてつもなく大きな戦力たりえるのだ。事実それは、ア・バオア・クー攻防戦で証明された。

MOBILE SUIT VARIATION

065

CUTION



GWAZINE

BATTLE SHIP



PRINCIPALITY OF
ZEON

グワジン

(艦体番号: BB-38)

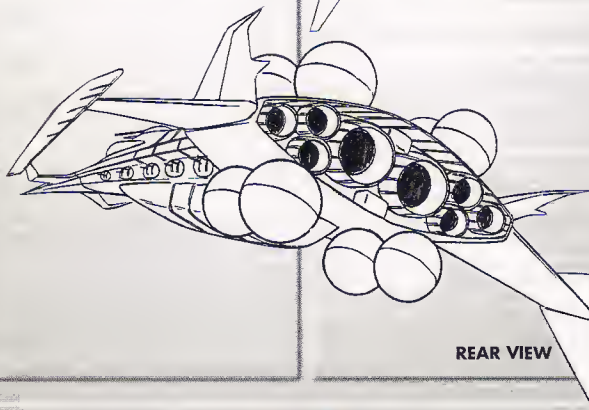
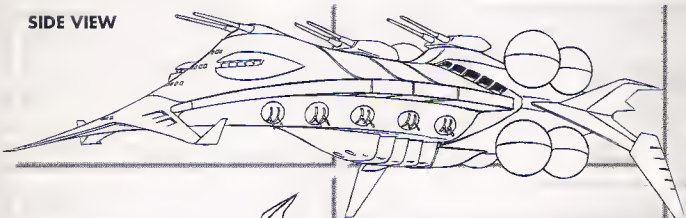
065



ジオン
公国軍

全長: 440m
全高: 103m
全幅: 320m
動力方式: ミノフスキー型熱制限核融合ロケット

SIDE VIEW



REAR VIEW

艦解説

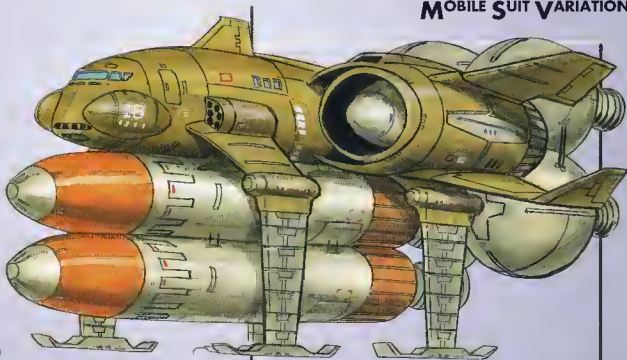
公国政府は0070年代中期に、国防政策を専守防衛から攻勢を目的にした外征軍の整備に方針転換した。この政策に沿って、艦政本部が提案し建造されたのが、永きに亘って地球圏最大の戦艦と呼ばれたグワジン級戦艦なのである。この方針転換は、当時ジオンと連邦の関係は悪化の一途を辿り、従来の防衛的・限定的な軍体制では国防は成り立たないという主張が、参謀本部のみならず現場の公国艦隊からも叫ばれるようになったためだといわれている。こうして本級は、攻勢を前提に連装式メガ粒子砲を3基、ムサイ級の主砲を転用した副砲が10基、155ミリ連装機関砲と艦載MS多数という、比類なき重武装を有する大戦艦として誕生したのである。

初出: 『機動戦士ガンダム』

MOBILE SUIT VARIATION

066

CAUTION



PUBLIC

SPACE
MISSILE BOAT

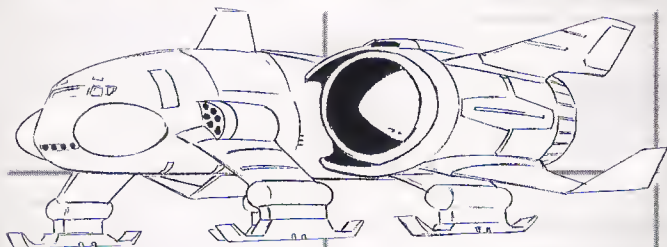


EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

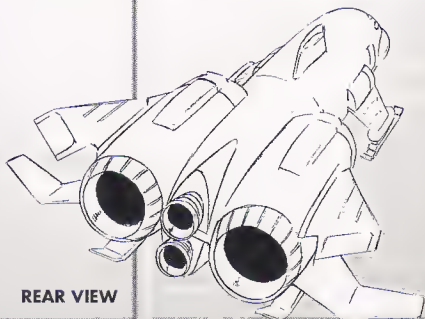


地球連邦
宇宙軍

兵装：外装式対艦ミサイル2基
機関砲4基
6連装ミサイルランチャー2基
動力方式：熱核融合ロケット



FRONT VIEW



REAR VIEW

艇解説

本艇は戦前に開発・配備されていた宇宙攻撃艇を原型とした、艦載型攻撃艇である。固定武装として、機関砲と6連装ミサイルランチャーを2基備えている。だが本艇を特徴づけているものは、何といても艇下部に装備している2基の大型ミサイルだろう。大戦後期のチェンバロ作戦（ソロモン攻略戦）では弾頭に対艦・対拠点攻撃用のディスペンサーが積まれていたが、このミサイルは本来、対艦・対拠点攻撃用の切り札として開発されたものなのである。ミノフスキー粒子による電波妨害と、それに伴うMSの主兵化さえなければ、本装備は公国艦隊との決戦において絶大な威力を発揮し、それこそ主兵として時代に君臨したであろう。

MOBILE SUIT VARIATION

067

CAUTION



FF-S3 SABERFISH

CARRIER BASED
FIGHTER ATTACKER



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

セイバーフィッシュ

067

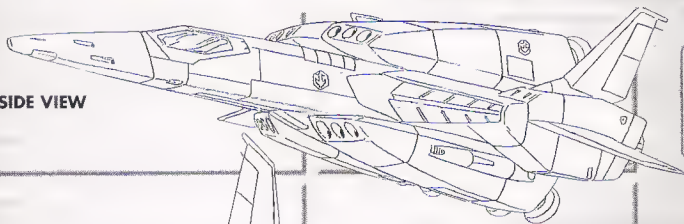


地球連邦
宇宙軍

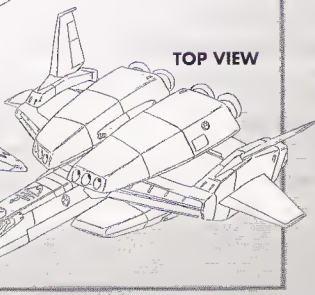
兵装 3連装式ミサイルランチャー4基
機関砲4基

動力方式：熱核融合ロケット
(大気圏内では航空燃料を使用した
ジェットエンジンを用いる)

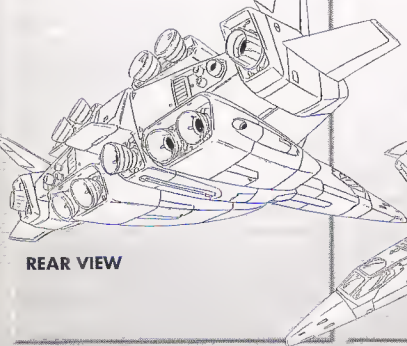
SIDE VIEW



TOP VIEW



REAR VIEW



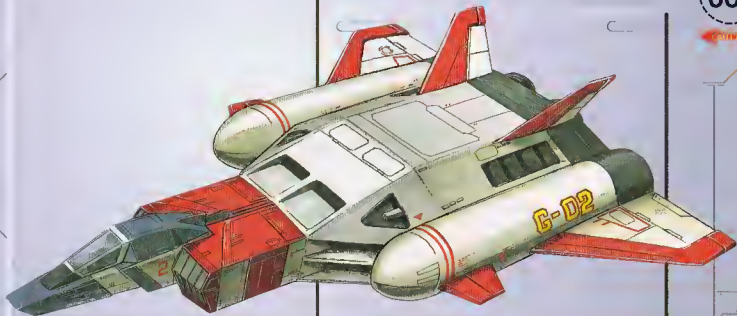
機体解説

連邦空軍と宇宙軍の共同開発計画によって開発された、宇宙・大気圏内両用戦闘攻撃機。宇宙軍では主に艦載機として、対艦攻撃を主任務として運用され、空軍では大推力を用いた高々度迎撃戦闘機として活躍した。機体を上下から挟むような形で装着されている、ウェポン・バックを兼ねたブースターが特徴的である。戦前は基地航空隊にばかりでなく、コロンプス級輸送艦を改設計したアンティータム級空母にも数多く配備され、宇宙艦隊の打撃兵力として期待されていた。大戦勃発後は、その役目を新たに登場したMSに譲り、順次退役していったが、空軍ではその後も現役として活躍、各地の紛争などでその姿を見ることが出来る。

MOBILE SUIT VARIATION

068

CAUTION



CORE-BOOSTER

FIGHTER
ATTACKER



EARTH FEDERATION
SPACE FORCE

コア・ブースター

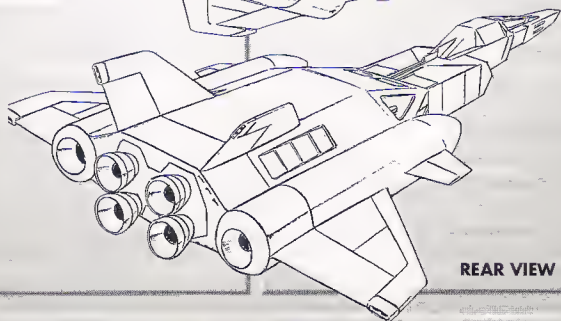
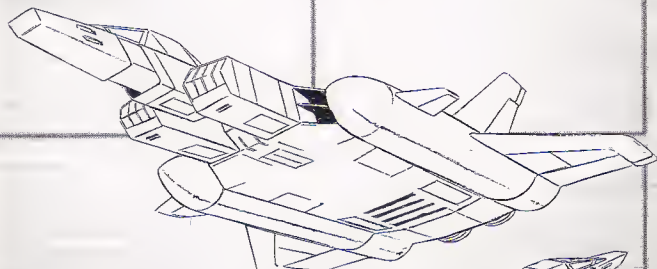
068



地球連邦
宇宙軍

主兵装：メガ粒子砲2門
機関砲4門
動力方式：熱核融合ロケット
パイロット：スレガー・ロウ、
セイラ・マス

FRONT VIEW



REAR VIEW

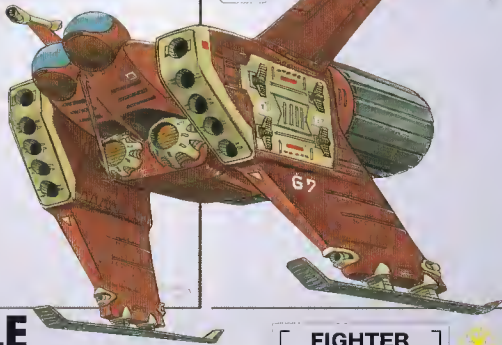
機体解説

コア・ブースターは、RXシリーズの脱出モジュールとして開発されたコア・ファイターに、熱核ロケットエンジンとビーム兵器を搭載した、宇宙・大気圏内両用戦闘攻撃機である。コア・ファイターは、脱出モジュールとしては非常に高性能であり、戦闘機としての性能もそれまでの主力戦闘機と比べて決して劣るものではなかった。これに注目した製造元のハービック社はその改良案を軍に提出、見積もりを含む計画案がすぐさま承認された後、即座に試作の改良キットが2機分製作され、実際にコア・ファイターを運用していた第13独立戦隊で試験運用が開始された。試験の結果の詳細は不明だが、戦史を調査すればその成果を知ることが出来るだろう。

LE SUIT VARIATION

069

Custom



GATTLE

**FIGHTER
BOMBER**



**PRINCIPALITY OF
ZEON**

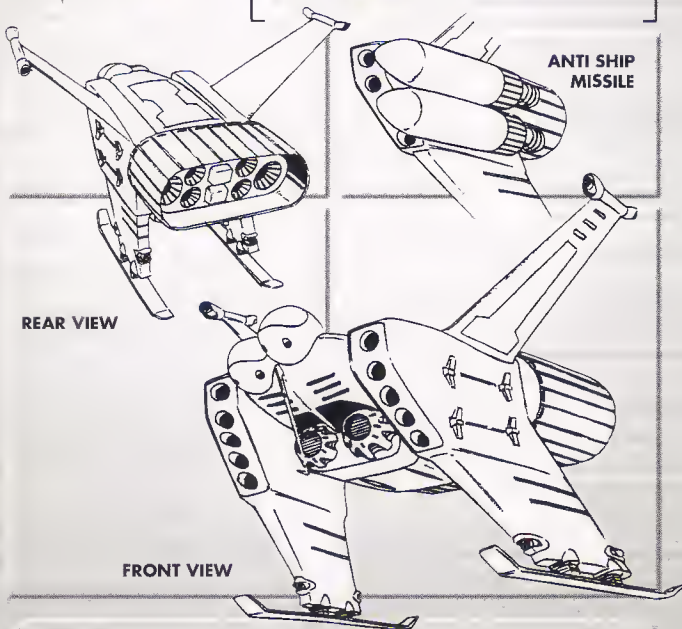
ガトル

069



ジオン
公国軍

兵装：外装式対艦ミサイル4基
機関砲4基
5連装ミサイルランチャー2基
動力方式：熱核融合ロケット



ANTI SHIP
MISSILE

REAR VIEW

FRONT VIEW

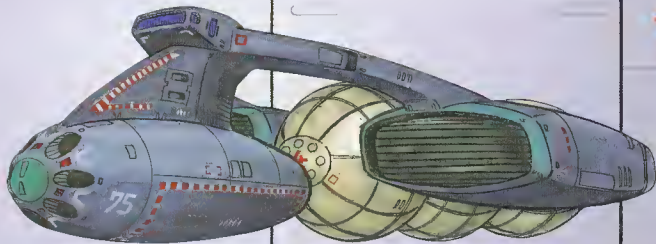
機体解説

ガトルはMS実用化以前に開発された、ジオン軍の並列複座型戦闘爆撃機である。この機体のスペースは、そのほとんどが大出力の推進器で占められている。これは本機が高加速力を利用した、敵艦隊へのヒット・アンド・アウェイ（一撃離脱）戦術を運用思想の根本に敷いているためだ。このため、主武装のほとんどが、機体の側面に装着されている、姿勢制御ロケットモーターを備えたコンポーネントに内蔵されている。5連装ミサイルランチャー2基が通常装備であるが、他に大型対艦ミサイルを左右に2本ずつ、計4本装備することが可能になっている。MSがジオン軍の主兵となり、本機は次第に第一線から退いていくが、その機体の評価は高い。

MOBILE SUIT VARIATION

070

CAN'T SEE



JICCO

MISSILE BOAT



PRINCIPALITY OF
ZEON

突撃艇

ジッコ

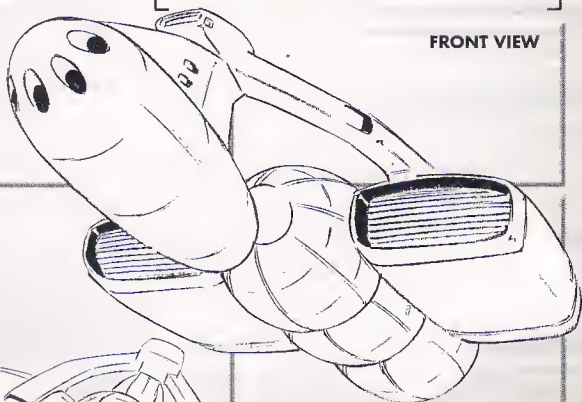
070



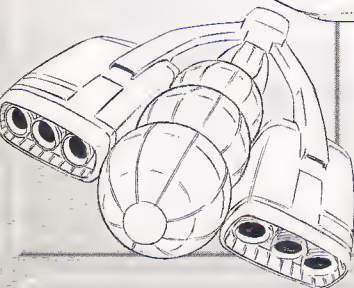
ジオン
こうこくぐん
公国軍

兵装：対艦ミサイルランチャー7基
機関砲4基
動力方式：熱核融合ロケット

FRONT VIEW



REAR VIEW



艇解説

ジッコは、空間拠点周辺の哨戒および防衛を行うために建造された中型哨戒艇を原設計としているミサイル艇である。艇体と推進器を収めたエンジンナセルは、ムサイ級巡洋艦と同様のレイアウトで構成されており、ダメージコントロールについては非常に優れているといえるだろう。ナセルの内側にはパイロンが備えてあり、長期航行時にはここに球形の予備推進剤タンクが装備される。武装として、艇コクピット下部のブロックに7連装のミサイルランチャー1基と機関砲を4門有する。本艇は大戦末期に行われた要塞戦以外にも、敵艦隊攻撃に補助兵力として投入されたが迎撃を受け、敵艦に辿り着いた艇はわずか数隻に過ぎなかったという。



SURPRISED ATTACK OPERATION

MS-14C



PRINCIPALITY OF
ZEON

作戦命令「クラリオン」

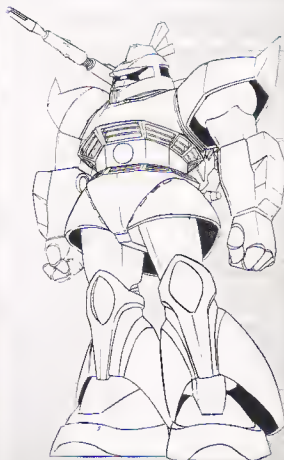
071



ジオン
公国軍



ジオン軍は大战後期、悪化の一途を辿る戦局を挽回するため、いくつかの計画を立案した。その一つが、高度な技能を持ち、戦功もあり、かつまた生還率も高い（つまり被撃墜率の低い）MSパイロットを集めた特別選抜部隊の編制である。この計画は突撃機動軍により公国軍総帥府に提出され、その承認を受けて実施された。部隊要員は軍種の区別なく集められ、多くのベテランが他の部隊から引き抜かれたという。その中には、「真紅の稲妻」として知られるジョニー・ライデン少佐や、ジェラルド・サカイ大尉といった、当時のジオン軍屈指のパイロットたちの名が見られる。編制の終了した選抜隊は、ザンジバル級機動巡洋艦キマイラを母艦とし、コレヒドール宙域に進出し錬成を始めた。主力機は高性能機MS-14B高機動型ゲルググであり、G型ゲルググキャノンが支援機として配備された。このことから、軍上層部の選抜隊に寄せる期待がいかに大きいかが理解出来る。だが彼らは、錬成も不十分なまま総帥命令によってア・バオア・クー攻防戦に参加することになる。その最初の戦いが、侵攻してくる連邦艦隊へ奇襲攻撃を行い、敵艦隊に大きな打撃を与えることを目的にした作戦「クラリオン」である。この作戦によって連邦側は、巡洋艦2隻とアンティータム級空母を1隻失い、さらに直掩機であるMSとセイパーフィッシュを合計35機以上撃墜されてしまうという、大損害を被った。これによって連邦艦隊の進撃速度は落ち、ジオン軍はア・バオア・クー要塞の守備を完全なものとすることが出来たのである。





WHITE WOLF in TEXAS

MS-06R-1A



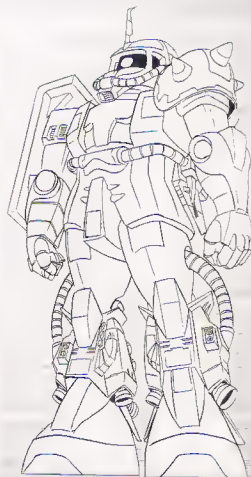
PRINCIPALITY OF
ZEON

宇宙を駆ける狼の白い牙

072



ジオン
公国軍



ジオン軍随一のパイロットとして知られる宇宙攻撃軍大尉シン・マツナガは、サイド3の政界において大きな勢力を持つマツナガ家の長男として生まれた。マツナガ家は地球連邦政界の重鎮であるヤシマ家と並ぶ名家であり、多くの人材を政財界に送り出していた。マツナガ家は民族主義的傾向を持っており、長男であるシンが軍に入営したのは、軍人の伝統を重んじる家風のためである。MSパイロットとしての適性を見出された彼は、宇宙攻撃軍のMS隊に配属され、MS-06Cを駆って一週間戦争では一等兵として参

加した。続くルウム戦役では曹長に昇進し、小隊先任下士官を務めたという。そしてこのルウムでの戦闘中、小隊長が戦死したために指揮を代行、作戦中にドズル中將の命によって中尉に野戦任官される。小隊長となった彼は乗機を白く塗装するようになりやがて「白狼」の渾名を得た。そして、数々の戦功によってドズル中將の信頼を得たマツナガは、中將の前線視察の折には必ず護衛を務めるように申し渡される。さらにその能力を高く評価された彼は上官の推薦により士官学校へ入学、正規の士官としての資格を得る（軍規では、士官学校を出ず、野戦任官した特務士官は、どんなに功績を重ねても正規の士官教育を受けていないため、数少ない例外を除いて、それ以上の昇進や出世が望めないのだ）。士官学校を卒業した彼は即座に大尉に昇進し、最新鋭機であるMS-06R-1Aを受領、テキサス・コロニー周辺での機種転換訓練を終えた後、再び宇宙攻撃軍の主力MS隊へと配属されたのだった。



9784063465501

ISBN4-06-346550-0

C0076 ¥2000E (0)

定価：本体2000円(税別)

講談社



1920076020001

伝説の『MSV』が72枚のファイル式カードになって
ここに復活！ 一年戦争の名機が、ここに集結!!

伝説復活！ これが真の『MSV』だ!!

宇宙で活躍した第1世代MSだけでなく、戦闘艦や戦
闘機までも網羅！ 川口克己名人（バンダイ）の監修
を受けた新設定を満載、誰もまだ見たことのない新た
な『MSV』が、永き眠りを経て今こそキミの手に!!

